

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
空知	夕張市	有形文化財/美工	登川神社木彫掲額	夕張市住初7番地	S60.5.21	この掲額は、明治27年に由雲大社から登川神社に寄進されたものであり、当時の由雲大社大宮司の揮毫によるものを樟の材にトレースし、「登川神社」と彫刻(彫刻者不明)され、文字を金箔で張り付けた額である。
空知	夕張市	有形文化財/美工	東郷平八郎直筆の書	夕張市住初7番地	S60.5.21	北炭の優良石炭に感謝の念を抱いていた東郷元帥が、登川神社が大正10年に焼失し、夕張神社として再建する際、北炭の関係者の依頼により揮毫し、夕張神社に寄贈したもの。北海道と元帥との関わりは記録が全くないといわれていることから珍しいものである。
空知	夕張市	有形文化財/美工	樽の大釜	夕張市住初7番地	S60.5.21	北炭は明治30年代から石川県輪島町へ臼器類を漆業者に注文を続けていた。その返礼として漆業者が5年がかりで製作し北炭へ贈ったもの。その後、北炭から夕張神社へ奉納された。直径62.5cm、容量21.6リットル、松竹梅に鶴亀を描いた輪島塗である。
空知	夕張市	有形文化財/美工	採炭救国抗夫の像	夕張市高松6番地	S62.3.9	この像は、軍需生産美術推進隊盟班の二科会員「中村直人」氏と地元協力者により、炭坑に従事する人々の慰問のため昭和19年に作られた。当時は、戦時中で資材のないうち、コンクリートで作られた高さ3.63mの像で、炭坑夕張のシンボルとして親しまれている。
空知	夕張市	有形文化財/美工	労働のモニュメント	夕張市旭町4番地の3	H5.3.22	このレリーフは、昭和26年に勤労文化都市として戦後の夕張を盛り上げていこうとして建設された「元夕張労働会館」の外壁の装飾として作られたもの。縦1.8m、横1.08m、幅0.2mであり、炭坑夕張の労働運動の象徴として親しまれている。
空知	岩見沢市	有形文化財/建造物	一の沢水源池取水塔	三笠市萱野東454番地(岩見沢市指定有形文化財)	S53.12.8	全国第16番目の水道施設で取水塔を持つ施設としては道内初。明治41年竣工、水道史上貴重な施設として、近代水道百選に選ばれている。
空知	岩見沢市	有形文化財/建造物	國兼家住宅	岩見沢市北本町東1丁目1-7	S53.12.8	大正初期の和風造り。土縁付縁側回りの構成で、この形式は道央地方では珍しい。
空知	岩見沢市	有形文化財/美工	石器群	岩見沢市志文町809番地(岩見沢市郷土科学館)	S43.11.3	縄文時代中期頃から後期旧石器時代の石器群。
空知	岩見沢市	有形文化財/美工	巖見澤紀碑	岩見沢市12条西1丁目(岩見沢神社境内)	S43.11.3	岩見沢開基20周年記念碑で、郷土史の沿革を後世に伝えるために建立された。
空知	岩見沢市	有形文化財/美工	阿弥陀如来立像	岩見沢市大願町131	H3.10.1	鎌倉時代中期の地方仏師刀痕によるものと推定され、胎内には貴重な資料が納入されている。
空知	岩見沢市	無形民俗文化財	岩見沢雅楽会	岩見沢市鳩が丘1丁目8-10	S43.11.3	明治末期、農業開拓者として入植された方々が営農の余暇に奏楽、宮廷雅楽の伝統を継承している。
空知	岩見沢市	無形民俗文化財	砺波獅子舞	岩見沢市栗沢町石砺波217番地	S47.11.3	富山県東西両砺波郡を中心に古くから行われた獅子舞であり、三代将軍徳川家光が、日光東照宮の落成式に神事として獅子舞を奉納した。その獅子舞をかたどって出来たのが越中獅子舞であり、入植と同時に郷里より伝承されたものが砺波獅子舞である。
空知	美唄市	有形文化財/建造物	美唄屯田騎兵隊火薬庫	美唄市大通西1条北2丁目2-1	S58.3.2	道内でも数少ない屯田兵関係の兵屋以外の建物。造りは3坪の切り妻造り。
空知	美唄市	有形文化財/建造物	旧桜井家住宅	美唄市大通西1条北2丁目2-1	H4.5.27	屯田騎兵隊として移住した、桜井良三(第2、3代美唄町長)氏の住居。1部2階建ての母家と、四間取り部分、離れ座敷の3つで構成されている。
空知	美唄市	有形文化財/美工	4110形式十輪連結タンク機関車2号	美唄市東明5条2丁目3番	S51.6.5	昭和47年の三菱美唄炭坑閉山まで石炭輸送と住民の足として利用された機関車で、大正8年に美唄鉄道株式会社の発注により三菱造船機神造船所が製造したものである。
空知	美唄市	無形民俗文化財	峰延獅子舞	美唄市峰延町峰禰	S46.3.3	明治30年に富山県から移住した宮浦氏が部落の若者に教えたのが始まりである。その後、多くの若者達によって継承され、地域の祝い事には欠かせない芸能として発展した。現在も保存会を発足して、保存・伝承している。
空知	美唄市	無形民俗文化財	峰延東傘踊り	美唄市峰延町公園	H12.9.21	鳥取県岩美郡国府町に伝わる「因幡の傘踊り」を原形としたもので、大正5年に鳥取県から移住した杉本常蔵の養子である新太郎が大正10年頃より峰延の若者たち10名程度で初盆の家庭をまわり踊りを披露するようになったものである。
空知	美唄市	天然記念物	光珠内いん石	美唄市西2条南1丁目2-1(美唄市郷土史料館)	S51.6.5	大正14年に美唄市光珠内に落下したいん石で、日本いん石表に登録されたものとしては北海道内で唯一のものである。「沼貝隕石」、「光珠内隕石」、「隕石光珠号」などとも言われている。
空知	芦別市	有形文化財/建造物	旧干場家レンガ倉庫	芦別市常磐町334-4	H12.5.29	大正2(1913)年に建築された市内最古のレンガ建築物で、干場家の米倉として使用されていた。意匠や構造に歴史的建造物としての価値がある。
空知	芦別市	有形文化財/美工	毛抜形太刀	芦別市北4条東1丁目1星の碑る里百年記念館	H18.3.24	昭和28年農作業中に発見。錆に覆われていたが、平成16年に岩手県立博物館で保存処理を完了。全長71cm、刃長53.3cm。展示公開中。
空知	芦別市	無形民俗文化財	芦別獅子	芦別市北1条東2丁目8-1	S37.8.27	明治33年に富山県からの団体入植者によって創始された。中役を10名必要とする、規模の大きい百足獅子で、全9曲踊りがある。
空知	芦別市	天然記念物	新城仙台山の三本ナラ	芦別市豊岡町251	H12.9.26	推定樹齢いずれも442年以上のミズナラ巨樹3本 ①13m 4.24m ②15m 3.02m ③14m 3.43m通称・新城仙台山の北三線道路脇にあり、敷地内には昭和2年建立の水神碑がある。
空知	赤平市	有形文化財/美工	奈江沢遺跡出土の棍棒形石器	赤平市住吉町144番地	H9.7.23	偏平な石材の両側縁に鋸歯状の刃を作りだした縄文時代中期の大型石器。
空知	赤平市	無形民俗文化財	住吉獅子舞	赤平市住吉町363番地	S46.8.25	天狗と牝獅子による舞、明治以来の芸能を純粋に係時している。
空知	三笠市	有形文化財/建造物	典獄官舎レンガエントツ	三笠市本郷町705-23	S45.11.17	明治23年に典獄官舎が新築された際の煙突。
空知	三笠市	有形文化財/美工	渡辺惟精日記	三笠市幾春別館町1-212(三笠市立博物館)	S45.11.17	集覧監制作のため北海道に出張を命ぜられた明治14年7月14日から28年12月31日までの全11冊のうち第6日記から第10日記。
空知	三笠市	有形文化財/美工	榎本武揚社号額	三笠市幌内本沢町	S45.11.17	明治15年5月、榎本武揚が「幌内神社」の社号を揮毫奉納したもの。
空知	三笠市	有形文化財/美工	獄舎舎棟新築之建図ほか	三笠市幾春別館町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	松田仁吉が明治15年5月市来知に移住し、工事を請け負った時の図面及び設計書。
空知	三笠市	有形文化財/美工	役場図面	三笠市幾春別館町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	松田仁吉が明治15年5月市来知に移住し、工事を請け負った時の図面及び設計書。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
空知	三笠市	有形文化財/美工	いちきり図面	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	明治18年空知集治監で作製された、いちきり村近郊の現況図である。
空知	三笠市	有形文化財/美工	いちきり小学校設計書図面	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	松田仁吉が明治15年5月市来知に移住し、工事を請け負った時の図面及び設計書。
空知	三笠市	有形文化財/美工	空知集治監製作木製水道管	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	空知集治監ではヌツバの沢に溜池をつくり水道本管を敷設(明治21年完成)し、給水した。
空知	三笠市	有形文化財/美工	郁春別煤田の碑	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S57.3.10	明治18年6月農商務省は幾春別砒の開坑に着手。炭鉱鉄道事務所長の山内堤雲によって建碑された。
空知	三笠市	有形民俗文化財	茶たんす・湯のみ茶わん・茶卓・湯ざまし・茶筒	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	空知集治監囚人が作製したもの。
空知	三笠市	有形民俗文化財	どんぶり・大皿・深皿・中皿・舟形皿	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	竹内藤八が空知集治監ができてと、いちきり西1丁目で荒物雑貨店を営み、その後旅館、薬局、浴場を開いた。その当時旅館で使用していたもの。
空知	三笠市	有形民俗文化財	太刀光開の化粧まわし	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S47.3.9	大正12年5月大関に昇進し、その報告に來道した時、出身地である幌内神社に奉納されたもの。
空知	三笠市	史跡	合葬の碑(原利八君碑を含む)	三笠市柏町432-2	S45.11.17	明治15年9月より25年12月まで死亡した囚人1,158名を集骨して29年10月合葬し建碑した。
空知	三笠市	史跡	戸長役場・警察署跡	三笠市本郷町635	S45.11.17	明治21年10月に建築されたもので明治22年1月～24年3月まで空知郡役所庁舎として使用されていた。
空知	三笠市	史跡	達布山	三笠市いちきり776-1	S45.11.17	道央開拓の実相や、石狩平野を見わたす展望台として視察者や一般住民の遊覧展望として栄えた。
空知	三笠市	天然記念物	アンモナイト化石(4点)	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S45.11.17	幾春別川上流域桂沢一帯は中生代、白亜紀の地層で多くの化石を産出している。指定されているアンモナイトは学会に発表された新種で極めて価値の高いものである。
空知	三笠市	天然記念物	アンモナイト化石	三笠市幾春別錦町1-212(三笠市立博物館)	S45.11.17	幾春別川上流域桂沢一帯は中生代、白亜紀の地層で多くの化石を産出している。指定されているアンモナイトは学会に発表された新種で極めて価値の高いものである。
空知	滝川市	有形文化財/建造物	屯田兵屋	滝川市江部乙町東11丁目13番2号	S56.9.1	南江部乙屯田兵村の2棟を骨格に、北滝川村の1棟を内部主要材と概ね当時の材料を使って復元。木造平屋建て。
空知	滝川市	有形文化財/建造物	華月館	滝川市文京町1丁目1番19号	S56.1.26	三浦屋(旅館)が御料局滝川出張所の建物の払い下げを受け、貴賓室として要人の宿所に利用されていた。和洋折衷様式。
空知	滝川市	有形文化財/建造物	牧羊用石造サイロ	滝川市江部乙町3972番地(丸加高原内)	S57.6.26	滝川種羊場の綿羊のための冬季飼料庫として、大正12年(1923)に建てられた札幌軟石造りのサイロ。
空知	滝川市	有形文化財/建造物	太郎吉蔵(旧五十嵐酒造店倉庫)	滝川市栄町2丁目8番9号	H22.12.1	大正4年(1915)に営業を始めた五十嵐酒造店の保管用倉庫として、大正15年(1926)に建築された。北海道内から産出された軟石を使用した石造倉庫で、木骨石造平屋建の面積174.01㎡、特殊な小屋組構造を有している。
空知	滝川市	有形文化財/美工	屯田兵第二大隊第三中隊文書	滝川市新町3丁目8番20号(滝川市郷土館)	S56.1.26	滝川屯田兵(第二大隊第三中隊)の明治22年から明治38年までの重要事項の記録。屯田兵の生活や訓練の様子を知る資料。
空知	滝川市	有形文化財/美工	高畑利宜資料	滝川市新町3丁目8番20号(滝川市郷土館)	S56.1.26	高畑利宜[天保12(1841)～大正11(1922)]が残した文書を中心とした資料。特に北海道開拓、上川、空知など内陸部の開拓を知る貴重な資料。
空知	滝川市	天然記念物	滝川産海牛化石	滝川市新町2丁目5番30号(滝川市美術自然史館)	S56.1.26	昭和55年(1980)、空知川で発見された海牛化石。今から500万年前に生息し、冷たい海に適応し独自の進化をとげた。
空知	砂川市	無形民俗文化財	街頭もちつき	砂川市東2条北7丁目1番5号	H20.9.25	明治32年12月、四国の阿波地方から砂川市に出稼ぎに来ていた木場職人が年末に故郷を偲んで無償でもちをついたのが始まり。100年以上もの間、市民からも親しまれており、搦き手の親、中、子、返し手が、左回りでテンポよく、砂川もちつき唄に合わせて働くなど、道内的にも稀有なもので、砂川市の発展とともに街に根付いた年中行事等の風俗慣習である。
空知	深川市	有形文化財/建造物	メム神社本殿	深川市字メム6号線本通り	S46.5.20	開拓期に建築されている。入口や破風などに彫刻が施されており、芸術的価値も高い。
空知	深川市	有形文化財/建造物	屯田兵屋	深川市西町3番15号	S52.6.21	一巳地区に復元されていた兵屋を移築、再復元したもの。
空知	深川市	有形文化財/建造物	旧鷺田農場事務所	深川市音江町2丁目11番38号	S52.6.21	明治末期の建築。増改築されているが、外装は当初の洋風建築の意匠を受け継いでいる。
空知	深川市	無形文化財	狸々獅子五段くずし	深川市一巳町	S40.9.17	一巳地区に入植した屯田兵が出身地である香川県に伝わる獅子舞を受け継いだもの。
空知	深川市	無形文化財	多度志獅子舞	深川市多度志町	S47.5.19	多度志地区入植者が故郷・富山県に伝わる獅子舞を多度志神社に奉納し、伝承したもの。
空知	深川市	無形文化財	納内町狸々獅子舞	深川市納内町	S48.7.17	納内地区に入植した屯田兵が郷里・香川県に伝わる獅子舞を受け継ぎ、伝承したもの。
空知	深川市	史跡	監的塚	深川市一巳町一巳2527番地10	S55.7.3	屯田兵の射撃訓練場跡。地域の軍人会や青年訓練の場としても利用された。
空知	深川市	史跡	先住民の竪穴住居跡	深川市納内町納内4168番地先(河川敷)	S55.7.3	深川の石狩川河岸には多くの縄文時代の竪穴があったと記録されているが、現存するものはごく少なく、その所在地のひとつ。
空知	深川市	史跡	音江法華駅通所跡	深川市音江町1丁目12番22号	S55.7.3	重要な交通路であった上川道路に設けられた5つの駅通所の一つ、音江法華駅通所があった場所。
空知	深川市	史跡	屯田歩兵第1大隊本部跡	深川市一巳町一巳4151番地3・5	S55.7.3	一巳や納内、秩父別に入植した屯田歩兵第一大隊本部が設置されていた場所。
空知	深川市	史跡	深川市水稲発祥の地	深川市音江町2丁目11番	S57.4.1	明治25年、本市で初めて水稲栽培の試みが行われた場所。
空知	由仁町	史跡	由仁町岩内遺跡	由仁町岩内620番地	H6.6.14	昭和41年7月考古学者である野村崇氏によって発掘調査された。現況は雑木林の中で原形を保っている。
空知	由仁町	天然記念物	マンモスゾウ臼歯化石	由仁町中央202番地(ゆめつく館)	H6.6.14	平成2年6月東三川117番地の砂利採取現場で発見された。
空知	由仁町	天然記念物	マンモスゾウ臼歯化石	由仁町中央202番地(ゆめつく館)	H6.6.14	平成3年10月東三川の砂利採取現場で発見された。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
空知	由仁町	天然記念物	オオツノシカ化石	由仁町中央202番地(ゆめつく館)	H6.6.14	平成2年6月東三川の砂利選別機の中から発見された。
空知	長沼町	有形文化財/美工	12区B遺跡出土の異形環状土器	長沼町中央北1-1-1	H19.10.1	昭和57年馬追丘陵西斜面、東6線北3番地の12区B遺跡出土。高さ29.8cm、全面に水銀朱で塗彩。約3,200年前に東北地方から移入されたものと考えられる。
空知	長沼町	有形文化財/美工	幌内西村遺跡出土の壺形土器	長沼町中央北1-1-1	H19.10.1	昭和34年、長沼、由仁の町境付近の標高120mの丘陵頂部舌端部から出土。高さ42cm。東北地方亀ヶ岡文化の大洞A式土器にみられる文様があることから、本土器は2,200年前ごろのものと考えられる。
空知	長沼町	無形民俗文化財	勇獅子舞	長沼町西5線北4番地	H4.3.23	富山県からの開拓移民によって伝えられた民俗芸能。
空知	栗山町	有形文化財/建造物	泉記念館	栗山町角田61番地4	H18.5.9	
空知	栗山町	有形文化財/美工	泉家文書	栗山町松風3丁目254番地	H18.5.9	江戸時代末から昭和3年まで。
空知	栗山町	有形文化財/美工	泉麟太郎君記念碑	栗山町角田61番地	H18.5.9	明治33年建立。
空知	栗山町	有形文化財/美工	「千瓢彫」本田数馬翁の遺作 木彫の蛙	栗山町松風3丁目252番地	H20.11.26	昭和38年に角田から栗山へ移転建設された栗山町役場の落成記念に製作寄贈された。本田数馬翁95歳の遺作。
空知	栗山町	有形文化財/美工	続縄文時代 鳩山2遺跡「深鉢型土器」	栗山町角田60番地4	H21.10.13	焼成は中位。色調は茶褐色。口唇部はわずかに外に向かって肥大しており、頸部に3本の捺糸を押し、縦に縄文がはしる。口径は25cm、高さ20cmで、底部は欠損している。
空知	栗山町	無形民俗文化財	栗山親子獅子舞用具	栗山町桜丘2丁目32	H20.2.15	創設当時の用具。なぎなた、太刀、短剣、鎖鎌、獅子頭
空知	栗山町	無形民俗文化財	角田獅子舞	栗山町角田	H20.2.15	讃岐地方の讃岐獅子舞が元祖で、深川市無形民俗文化財狸々五段くずしが母型。昭和28年に奉納され、現在では子ども獅子舞と青年獅子舞の2体制で讃岐獅子舞の伝統を継承しながら新しい発想による舞が創作されている。
空知	栗山町	無形民俗文化財	栗山親子獅子舞	栗山町桜丘2丁目32	H20.2.15	越中獅子と太刀なぎなたで戦う勇壮な加賀獅子舞が一体となった栗山独特の獅子舞を作り上げ昭和5年に奉納した。
空知	月形町	有形文化財/建造物	樺戸集治監本庁舎	月形町1219番地	H11.3.18	日本の近代化と北海道内陸部開拓の歴史にとって貴重な財産であり、後世にその果たした役割を正しく伝えていくための建造物。
空知	月形町	有形文化財/美工	北海道回覧記	月形町1219番地	H11.3.18	月形町に集治監を設置した記録だけでなく、月形藩氏が約50日間にわたって北海道を調査した明治初期の記録文書。
空知	月形町	史跡	樺戸集治監水道遺跡	月形町字豊ヶ丘1635-3	H11.3.18	樺戸集治監の囚人作業による水道遺跡、取水塔・バルブ装置・水門の3種と3段のテラスからなる。
空知	新十津川町	有形文化財/美工	絵馬(玉置神社奉記之景)	新十津川町中央1番地1(開拓記念館)	H14.10.22	この絵馬はカンバスに油絵具で画かれ、この当時の絵馬の画法としては珍しいものである。絵馬には当時の生活の様子が詳細に描写されている。(露店が設けられ、村民が撃刺、祝砲、踊りなどに興じている当時の祭りの様子や、村屋の配置、渡船の状況など)
空知	新十津川町	無形民俗文化財	新十津川獅子神楽	新十津川町中央306番地3	S58.3.1	・砺波形獅子 ・胴幕(カヤ)の人数5人・踊りの種類14種類。
空知	妹背牛町	有形文化財/美工	獅子頭・天狗面	妹背牛町247(郷土館内)	S47.11.1	明治初期、宮大工の村田伊平の作品とされ、長い年月を要して作り上げたもので、極めて大胆な彫り方で、非常に珍しい貴重な作品と評価されています。現在は、郷土の伝統として大切に郷土館で展示している。
空知	妹背牛町	無形民俗文化財	獅子舞	妹背牛町	S47.11.1	人間に災いする悪獣と神の使いである神子との戦いを表したもので、神子が山野にはびこる悪獣を退治し人心を安らげる様を舞に乗せて踊る舞である。
空知	秩父別町	有形文化財/美工	屯田の鐘	秩父別町1264番地(郷土館)	S58.6.6	明治28年屯田兵第2中隊本部に取り付けられ、訓練に励む屯田兵や開墾にそそむ人達に時を知らせたり、非常招集等に使った。
空知	秩父別町	有形文化財/美工	乃木希典書	秩父別町4101番地(秩父別町役場)	S59.4.20	題字「忠魂碑希典書」(掛軸一本)
空知	秩父別町	無形民俗文化財	滝の上獅子舞	秩父別町滝の上	S51.2.10	明治42年、沢山常作氏の手彫りの獅子頭で、獅子を作り、舞ったのが始まりといわれている。
空知	秩父別町	無形民俗文化財	ちくし神楽獅子舞	秩父別町2条1丁目	S63.6.24	四国の香川県で生まれ、讃岐の暴れ獅子といわれており、非常に舞の激しい獅子舞です。導入されたのは明治38年。
空知	雨竜町	有形文化財/建造物	雨竜町開拓記念館	雨竜郡雨竜町字満寿21	H10.4.1	雨竜開拓の拠点となった峰須賀農場事務所跡を保存し、先人の開拓精神とその苦闘を偲び、もって郷土愛と産業文化の発展に寄与するため開拓記念館として保存した。
空知	雨竜町	有形文化財/美工	御神刀	雨竜郡雨竜町字満寿32-2	S54.11.15	明治31年に峰須賀正韶が徳島県国端彦神社へ奉納、大正6年雨竜神社に改称されたときに移されたもの。
空知	雨竜町	無形民俗文化財	雨竜町獅子神楽	雨竜郡雨竜町字満寿33-94	S48.9.1	富山県より雨竜開拓のため移住した人により伝承され、長年の風土により本町独特の舞として継承されている。
空知	北竜町	無形民俗文化財	真竜獅子舞	北竜町	S62.6.8	越中富山獅子の流れをくむ赤獅子と四国淡路獅子の流れをくむ青獅子と獅子頭の舞から成り、赤獅子2人、青獅子2人、獅子取り2人、囃子6人で構成される。
空知	沼田町	有形文化財/美工	11面薬師観音菩薩像	沼田町恵比島	S48.5.30	江戸時代初期400年の作とされ、富山県の高木与三右衛門氏から松井医師の手に渡り、後に恵比島永徳寺の開基住職長沢顯城氏が、故郷に里帰りをした際に松井医師より寺に安置して欲しいと依頼を受けて設置されているものである。
空知	沼田町	有形文化財/美工	クラウス15号蒸気機関車	沼田町南1条1丁目	S45.4.10	1889年(明治22年)にドイツミュンヘン市のクラウス機関車製造所で作られ、九州鉄道に輸入され、昭和6年に北海道留萌鉄道で石炭運搬等に活躍、さらに石炭貨車運用として昭和42年12月まで現役として活躍した現存する小型蒸気機関車の中では最も古いものです。
空知	沼田町	無形民俗文化財	本願寺越中獅子舞	沼田町北竜1	S48.5.30	五穀豊穡・悪魔退散・部落安全を願って、明治34年9月10日に富山県砺波郡青島より買い求めたもので、秋祭りには勇壮な舞を披露しています。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
空知	沼田町	天然記念物	沼田産化石(No1~No18)	沼田町南1条2丁目7-49	H2.9.7	脊椎動物の化石で、新幌太刀別川より産出したものである。
空知	沼田町	天然記念物	幌新太刀別川化石産出流域	沼田町字恵比島108-21他2地区	H3.5.1	現場は河川の河床。
石狩	札幌市	有形文化財/建造物	清華亭	札幌市北区北7条西7丁目	S36.6.7	札幌最初の公園「偕楽園」に明治13(1880)年貴賓接待所として開拓使の工業局が設計建造したものである。
石狩	札幌市	有形文化財/建造物	新琴似屯田兵中隊本部	札幌市北区新琴似8条3丁目	S49.4.20	明治19年新琴似屯田兵村の本郷として建築されたもので、遍番所(中隊本部)としては札幌に唯一残るもの。
石狩	札幌市	有形文化財/建造物	旧黒岩家住宅(旧藤舞通行屋)	札幌市南区藤舞1条2丁目	S59.3.28	明治5年、開拓使が札幌と函館を結ぶ主要道路「有珠新道(現230号線)沿に旅人の宿泊や運送の便宜を図るため建築したもので、札幌における通行屋の唯一の遺構。
石狩	札幌市	有形文化財/美工	木造日蓮聖人坐像	札幌市中央区南11条西9丁目	S56.7.21	彩色寄木造りで、寛文6(1666)年日蓮宗の僧日住が厄除けのため造立させたもの。
石狩	札幌市	有形文化財/美工	札幌村・大友亀太郎関係歴史資料	札幌市東区北13条東16丁目(札幌村郷土記念館)	S62.2.20	札幌村は慶応2年(1866)、大友亀太郎によって開拓が進められ、その後、玉葱栽培の先進地として発展した。これらの歴史資料。
石狩	札幌市	有形文化財/美工	旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図	札幌市中央区南22条西13丁目1番1号(札幌市埋蔵文化財センター)	H16.8.25	明治27~28年頃高畑宣一氏により作成された、市内都心部から北区麻生町付近までの縄文時代(約1300年~800年前)の竪穴住居跡の産み約720カ所記録した分布図。
石狩	札幌市	有形文化財/美工	札幌市N30遺跡出土品	札幌市中央区南22条西13丁目1番1号(札幌市埋蔵文化財センター)	H16.8.25	札幌市N30遺跡から出土した縄文時代後期初頭から晩期の出土品の一括。(復元土器367点、土器片285点、石器645点、石製品・土製品116点。総計1,413点。)
石狩	札幌市	無形文化財	丘珠獅子舞	札幌市東区丘珠	S49.10.25	明治25年に富山県からの移住者によって伝えられ、伝承してきた獅子舞。
石狩	札幌市	史跡	札幌村・大友亀太郎役宅跡	札幌市東区北13条東16丁目(札幌村郷土記念館)	S62.2.20	札幌村は慶応2年(1866)、大友亀太郎によって開拓が進められた。その役宅あと。
石狩	札幌市	史跡	手稲山口バツタ塚	札幌市手稲区手稲山口324番地308	S53.8.21	明治16年にトノサマバツタの大群を駆除するために、大量の卵のうを埋めた畝状の塚跡。
石狩	江別市	有形文化財/美工	扁額「対雁学校」	江別市緑町西1丁目38番地(江別市郷土資料館)	S48.3.31	明治11年開拓使長官黒田清隆が対雁学校を訪れた頃に扁額2幅を書いたものといわれる。黒田清隆の自筆のものは国内に少なく貴重な記念物である。
石狩	江別市	有形文化財/美工	扁額「富貴在苦学努力」	江別市緑町西1丁目38番地(江別市郷土資料館)	S48.3.31	明治11年開拓使長官黒田清隆が対雁学校を訪れた頃に扁額2幅を書いたものといわれる。黒田清隆の自筆のものは国内に少なく貴重な記念物である。
石狩	江別市	有形文化財/美工	坊主山遺跡出土江別式土器56点	江別市緑町西1丁目38番地(江別市郷土資料館)	S57.7.1	江別市坊主山遺跡より出土した江別式土器。完形土器56点。
石狩	江別市	無形民俗文化財	野幌太々神楽	江別市西野幌155番地	S48.3.31	この神楽は新潟県内中越地方の神楽を受け継ぎ、明治31年に野幌神社に奉納したのが始まりである。現在は野幌太々神楽保存会が郷土芸能として保存につとめている。
石狩	江別市	史跡	火薬庫	江別市葎ヶ岡19	S46.8.12	屯田兵第三大隊本部跡。本部の建物は昭和9年1月に焼失し、現在は当時の「火薬庫」だけが残っている。
石狩	江別市	史跡	千古園	江別市東野幌375~376	S46.8.12	東西野幌開拓の北越殖民社社長関矢孫左衛門が、明治24年に居を構えたという。大正7年殖民社有志の発意により、地域住民が協力、敷地の手入れがなされ、千古園と名づけ現在に至る。
石狩	千歳市	有形文化財/建造物	山線鉄橋	千歳市支笏湖温泉	H11.8.24	道内最古の鋼橋。明治32年にイギリスから輸入されたイギリス型ピン結合トラス橋。当初北海道官設鉄道土川線に「第一空知橋」として架けられたが大正12年に架け替えにより支笏湖畔に移設。現在は湖畔の歩道橋として利用されている。
石狩	千歳市	有形文化財/美工	男性土偶	千歳市長都42番1(千歳市埋蔵文化財センター)	S52.4.23	縄文時代晩期のもの、土製品の全長145mm厚さ9mmの板状土偶。
石狩	千歳市	有形文化財/美工	磨製石棒	千歳市長都42番1(千歳市埋蔵文化財センター)	S52.4.23	縄文時代後期のもの。真岩製長さ573mm、重量710gの両頭石棒。
石狩	千歳市	有形文化財/美工	蕨手刀	千歳市長都42番1(千歳市埋蔵文化財センター)	S55.7.21	史跡ウサクマイ遺跡群A遺跡から出土、鉄製2振と木製鞘1点。
石狩	千歳市	有形民俗文化財	千歳神社境内 釜加神社 弁財天御厨子	千歳市真町1番地(千歳神社)	S52.4.23	厨子の裏に江戸時代の箱館奉行の一人羽太正〇(ひつじへんに「良」)の筆による「千歳」の地名にまつわる由来が書かれている。
石狩	千歳市	有形民俗文化財	駅通看板	千歳市長都42番1(千歳市埋蔵文化財センター)	S52.4.23	明治5年郵便事業により千歳にも郵便取扱所がおかれた。当時の様子を示す看板である。
石狩	千歳市	無形民俗文化財	泉郷獅子舞	千歳市泉郷	S54.10.25	明治29年頃、富山県から伝来した獅子舞。伝来時の舞が継承されている。
石狩	千歳市	無形民俗文化財	アイヌの伝統的芸能と工芸技術	千歳市新屋1丁目3-7(蘭越生活館)	H5.5.20	千歳地域のアイヌの人々により古くから伝承されてきた伝統的芸能や工芸技術等のアイヌ文化。アイヌの歴史を知るうえで非常に貴重な文化遺産である。
石狩	千歳市	史跡	美々貝塚	千歳市美々758番地	S52.4.23	北海道内の貝塚の中で、現在の海岸線から最も内陸に位置する縄文前期の低鹹性貝塚。縄文の海進を裏づける考古学及び地質学上極めて重要な遺跡。
石狩	恵庭市	有形文化財/美工	柏木B遺跡出土品(石棒2本・漆塗り櫛)	恵庭市南島松157番地2(恵庭市郷土資料館)	H5.3.26	石棒:縄文時代後期末葉の集団墓地「環状土籠」から出土、粘板岩漆塗り櫛:縄文時代後期末葉から晩期初葉に属する「列状群集墓」から出土。
石狩	恵庭市	有形文化財/美工	有蓋須恵器坏	恵庭市南島松157番地2(恵庭市郷土資料館)	H5.3.26	島松沢3遺跡から出土。墳墓の副葬品、完全な形をとどめる蓋つきの須恵器坏としては北海道内では数少なく、特に古代における本州と北海道との交流を示す貴重な資料である。縄文時代前期。
石狩	恵庭市	有形文化財/美工	蕨手刀	恵庭市南島松157番地2(恵庭市郷土資料館)	H5.3.26	柏木東遺跡「北海道式古墳」の発掘調査地点付近から出土した採集品、北海道式古墳の副葬品との見方もある。古代における本州と北海道との交流を示す貴重な資料である。縄文時代前期 鉄製品。
石狩	恵庭市	有形文化財/美工	カリンバ2遺跡出土品(両頭石棒)	恵庭市郷土資料館 恵庭市南島松157番地2	H17.6.16	平成10年、市内黄金町95番地ほかに所在するカリンバ2遺跡第VI地点の発掘調査で出土した。縄文時代の黒曜石製石器としては大型であり、石器製作技術の高さと当時の精神文化を示すものとして貴重。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
石狩	恵庭市	有形文化財/ 美術	茂漁8遺跡出土品(皇朝銭「隆平永寶」)	恵庭市郷土資料館 恵庭市南島松157番地2	H17.6.16	撥文時代前期の堅穴より出土したもので、道内の発見事例が極めて少なく、かつ平安時代の貨幣(初鑄796年)がこの地に及んでいたことを示すものとして貴重。
石狩	恵庭市	有形文化財/ 美術	カリンバ遺跡土坑墓出土品(土器1、漆製品27、玉類653、石器4、サメ歯製品11)	恵庭市郷土資料館 恵庭市南島松157番地2	H20.7.17	縄文時代後期後葉から晩期前葉の土坑墓群から出土。当時の東北地方と北海道の埋葬習俗、漆工、装身文化を伝える資料として重要で、日本列島における縄文時代の社会構造を考えるうえで貴重な考古学的資料である。
石狩	北広島市	天然記念物	キタヒロシマカイギユウ(ステラーカイギユウ北広島標本)	北広島市朝日町5丁目1	H22.9.1	キタヒロシマカイギユウは1980年、北広島市内の砂利採掘場において採取された。このキタヒロシマカイギユウはステラーカイギユウに分類され、なかでも日本における最初の発見例となり、そればかりか、世界ではじめて認識された前期更新世の標本であり、現在までのところ世界最古のステラーカイギユウである。
石狩	北広島市	天然記念物	バイソン(Bison.sp)の化石	北広島市朝日町5丁目1	H21.9.1	バイソンの化石は、国内でも数例の発見例しかなく、ユーラシア大陸、北アメリカ大陸のウシ科化石と比較することによって、日本列島の古生物のつながりを解明する手がかりとなる貴重な化石。
石狩	北広島市	天然記念物	サンドリッジ成大規模斜交層理の転写標本	北広島市朝日町5丁目1	H21.9.1	本地層は、海峡における特殊な堆積環境で形成されるため、国内においても数か所しか見られないものであり、露出条件がよく堆積構造など詳細に観察できるため、地層標本としては貴重。
石狩	石狩市	有形文化財/ 建造物	石狩弁天社	石狩市弁天町北18番地	S42.12.22	元禄7(1694)年に創立された漁業関係の神を祭る古い社で、社殿内外には石狩と本州との交流を示す数々の寄進物があり、昔の石狩の繁栄ぶりを今に伝えている。
石狩	石狩市	有形文化財/ 建造物	旧二長野商店	石狩市弁天町30番地5	H6.3.28	明治27年建築の町内最古の木骨石造建築。店舗、蔵とも石造で、和風の町屋型式と洋風のアーチ窓が折衷された建築である。
石狩	石狩市	有形文化財/ 建造物	はまます郷土資料館(旧白鳥家鎌番屋)	石狩市浜益区浜益77-1	S56.12.9	建物は白鳥家が経営した鱈建網漁場の番屋で、明治32年に建設。
石狩	石狩市	有形文化財/ 美術	金子家文書(旧花畔村村委会関係文書)	石狩市花川北6条1丁目30-2	H11.4.22	花畔村の公的な記録であり、明治20年代、村の開拓が本格化して行政組織や自治組織が整えられていく過程を知ることができる。
石狩	石狩市	有形文化財/ 美術	石狩八幡町遺跡ワッカオイ地点第20号墓出土の土器9個	石狩市弁天町30番地4(いしかり砂丘の風資料館)	S57.3.31	昭和51年9体合葬の第20号墓から出土したもので、いずれも赤色顔料で彩色されており、当時の埋葬儀礼を知るうえで重要な資料である。
石狩	石狩市	天然記念物	チョウザメの剥製	石狩市弁天町30番地4(いしかり砂丘の風資料館)	S57.3.31	昭和44年石狩川河口で捕獲されたチョウザメ(ダウリアチョウザメ)で、体長1.9mの雌の成魚。明治の末まで石狩川にはチョウザメがのぼっており享保2年(1717)には、幕府に献上されている石狩弁天社には石狩川の主としてまつられている。
石狩	当別町	有形文化財/ 建造物	伊達邸別館	当別町元町105番地1	S55.11.11	明治13年建築、伊達邸迎賓館。
石狩	当別町	有形文化財/ 美術	長袴・陣羽織等9点	当別町元町105番地1	S50.7.5	伊達家5代目村絹公等着用衣装。
石狩	当別町	有形文化財/ 美術	当別開拓の図	当別町元町	S50.7.5	当別町移住初期の開拓風景。
石狩	当別町	有形文化財/ 美術	伊達綱宗直筆三幅対	当別町元町	S50.7.5	伊達綱宗直筆画。
後志	小樽市	有形文化財/ 建造物	日本銀行旧小樽支店	小樽市色内1丁目11番16号	H14.9.17	東京駅の設計者である辰野金吾らの設計で明治45年に竣工。建物の外観はルネッサンス様式を取り入れ、屋根には5つのドームを配し、外壁はレンガの表面にモルタルを塗り石造り風に仕上げているのが特徴。
後志	小樽市	有形文化財/ 美術	木造聖観音立像	小樽市富岡1丁目19番21号	H11.11.3	平安時代前期(10世紀頃)の作と思われ、現在、道内で確認されたものの中では最古の仏像。「康尚様式」で造られている。
後志	小樽市	無形文化財	向井流泳法	小樽市湖見台2丁目2番11号	H3.9.2	江戸時代に江戸幕府の「御船手」(水軍)の泳ぎとして体系づけられた泳法。技を通して日本における水泳発達の歴史的な背景を垣間見ることができる。
後志	小樽市	無形民俗文化財	忍路鎌漁舟の行事	小樽市忍路1丁目	S55.10.8	小樽市忍路には有数の鱈漁場として栄えた土地柄と市街地から離れた環境のため多数の仕事傭や年中行事が生まれ、近年まで伝えられてきた。
後志	小樽市	無形民俗文化財	高島越後盆踊りの行事	小樽市高島5丁目5番25号	H13.7.23	高島地区で盂蘭盆の時期に行われる年中行事。踊りと囃子は二つの形態があり、交互に連続して行うのが特徴であり、歌は労働歌を中心に、190の歌詞が採録されている。近代以前に見られた盆踊りの形態が残されており、地域に密着した行事として地域の人々によって保存されている。
後志	小樽市	史跡	北海道鉄道開通起点	小樽市手宮1丁目3番6号(小樽市総合博物館構内)	S41.11.3	北海道最初の鉄道はアメリカ人技師ジョゼフ・R・クロフォードの指揮のもと、明治13年に手宮と札幌間にひかれたもの。
後志	島牧村	有形文化財/ 美術	蔵島神社「四季発句」掲額	島牧村字泊	S56.4.1	墨書されている発句の中には江差、江戸松前などの地名が見えることから当時の文化が江差、松前方面から流入し発句なども隆昌したものと考えられる点において貴重な歴史資料である。
後志	島牧村	有形文化財/ 美術	蔵島神社石灯籠	島牧村字泊	S56.4.1	石灯籠には弘化3年佐藤市三郎奉納とあり本来2対正常の形態であったが紛失し現在1対下部のみよりない。
後志	島牧村	有形文化財/ 美術	蔵島神社狛犬	島牧村字泊	S56.4.1	年代等は不明であるが、弘化3年に奉納された蔵島神社石灯籠と同時期のものと推定される。現在風化が激しく文化財保護の観点から指定したもの。
後志	島牧村	有形文化財/ 美術	蔵島神社恵比須像	島牧村字泊	S56.4.1	年代等は不明であるが、弘化3年に奉納された蔵島神社石灯籠と同時期のものと推定される。現在風化が激しく文化財保護の観点から指定したもの。
後志	島牧村	有形文化財/ 美術	蔵島神社奉納太鼓	島牧村字泊	S56.4.1	蔵島神社再修築(天保8年)の際奉納されたものと考えられ当初開基に関する歴史的資料として貴重なもの。
後志	島牧村	史跡	栄磯岩陰遺跡	島牧村字栄磯107	S56.4.1	昭和47年に発見、縄文中期と推定。本遺跡により出土された漁労具は、縄文中期の資料としての役目を果たすとともに、動物遺存体の究明により捕獲の対象となった獲物の実態を明らかにするものである。
後志	二セコ町	無形民俗文化財	二セコ赤坂奴	二セコ町字本通137	H2.8.20	江戸時代の大名行列の先駆として行われていたとされる。昭和2年小樽住吉神社の奴陶山増太郎が二セコ町に移住し、7年に弁天神社の例祭で赤坂奴行列を行って以来58年の歴史がある。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
後志	ニセコ町	史跡	曾我環状列石	ニセコ町字曾我252番地	H2.3.5	昭和6年に発見、昭和26年縄文時代後期の墓であることが判明。先住民の信仰、特に墓制を知るうえで学術上貴重な遺跡。
後志	真狩村	無形民俗文化財	浦安の舞	虻田郡真狩村字真狩29番地1	H18.5.30	舞は扇と鈴からなっており、4人の舞姫があこめ装束を着て、前半は検原、後半は鈴を持って舞います。
後志	真狩村	無形民俗文化財	真狩祝い太鼓	虻田郡真狩村字見晴229番地2	H18.5.30	開村80周年を記念して郷土出身の作曲家八洲秀章氏により作曲された。
後志	真狩村	無形民俗文化財	真狩赤坂奴	虻田郡真狩村字見晴229番地	H18.5.30	昭和34年、真狩村駐在所勤務の渡辺勝美氏が中心となり、赤坂奴を伝統芸能とするため、備品等購入の篤志寄付を募り、振付等練習し、昭和34年9月15日真狩神社例大祭に奉納した。
後志	倶知安町	有形文化財/美工	大仏寺本堂の天井画	倶知安町字旭	S46.3.30	初代住職斎藤忍隨により描かれた活力あふれる優れた作品。
後志	倶知安町	無形民俗文化財	倶知安赤坂奴	倶知安町字八幡	S60.7.1	小樽住吉神社の赤坂奴で小頭をしていた陶山増太郎により昭和8年倶知安町に伝授された。
後志	倶知安町	無形民俗文化財	羊蹄太鼓	倶知安町南3条東4丁目(倶知安町公民館内)	H9.11.1	昭和38年高田緑郎により創作された。地域を代表する羊蹄山の誕生から四季折々の姿を太鼓に託して表現したもの。
後志	岩内町	有形文化財/美工	阿弥陀如来大仏像	岩内町字高台143	S44.7.1	仏像の巨大な温容は信仰開導にすぐれた力を発現し、また、風間杜農仏師の彫刻技術は大正年間に残る稀な出来栄であって、古彫に劣らない傑作である。
後志	岩内町	無形民俗文化財	岩内赤坂奴	岩内町字御崎	S58.7.5	江戸時代に大名行列の供花に立った奴行列の所作を今に伝えるもので、現在の東京都港区赤坂周辺に居住していた奴たちによって始められたものと伝えられる。
後志	岩内町	天然記念物	一本柳	岩内町字清住8-8	S47.11.3	明治初年に岩内港から当時の繁華街に至る波止場通に柳並木として植えられた。ニシン漁で栄えた岩内の歴史を物語る貴重な記念物である。
後志	泊村	有形文化財/建造物	旧川村家番屋	泊村大字泊村59番地の1	H13.4.27	明治27年に川村慶次郎氏より建てられた村に現存する唯一の番屋建築である。
後志	泊村	有形文化財/建造物	旧武井邸客殿	泊村59番地の1	H13.4.27	大正5年頃に武井忠吉氏によって建てられた壮大な漁場建築の一部。客殿は木造平屋建・瓦葺・入母屋造、蔵は煉瓦造・漆喰仕上。
後志	泊村	有形文化財/建造物	泊稲荷神社 神殿	古宇群泊村大字泊村82番地	H19.2.20	泊稲荷神社神殿は、文久2年(1862年)に建築され総檜材の雅にして精巧なる建築で、ニシン漁によって繁栄を築き上げてきたその栄華を伝える建造物。また、釘を一切使用せず、木の楔だけでつくられており、竜神や人物波間の魚花鳥が美しく彫り込まれている。
後志	積丹町	無形民俗文化財	積丹町鎌場音頭	積丹町大字美国町	S63.2.26	積丹半島は、かつて鎌の本場として大正年代末頃までに限りない繁栄の黄金時代が続き、活気あふれる鎌の作業歌が北海道の代表的な民謡として保存、伝承されている。
後志	古平町	無形民俗文化財	琴平神社祭典神輿渡御行列	古平町大字新地町86	H12.6.8	琴平神社祭典の折りに町内を巡回する行列。神輿が新調された明治13年以後、町の代表的な年中行事となっている。
後志	古平町	史跡	吉田一穂生誕百年記念碑「白鳥古丹」	古平町大字浜町40-4	H12.6.8	小学校時代を古平町で過ごした詩人吉田一穂の生誕百年を記念して、平成10年に建立された碑。
後志	古平町	史跡	水見悠々子碑	古平町大字浜町40-4	H12.6.8	古平町の俳句の基礎を作った水見悠々子の業績をたたえ、日本伝統俳句協会副会長伊藤柏翠ら有志により平成3年に建立。
後志	古平町	史跡	高野素十句碑	古平町大字浜町40-4	H12.6.8	昭和28年8月15日に高野素十に水見句丈が依頼し、古平小学校77周年を記念し詠まれた句で、昭和29年7月に古平町開基85周年を機に句碑として建立。
後志	古平町	史跡	今中素友歌碑・筆塚	古平町大字浜町(禪源寺境内)	H12.6.8	今中素友は日本画家として有名で、昭和天皇ご成婚の折には選ばれて梅を描いた屏風を献上。歌碑筆塚には今中素友愛用の画筆数本が埋められている。
後志	古平町	史跡	野村泊月句碑	古平町大字浜町(禪源寺境内)	H12.6.8	昭和27年泊月の古希を祝い建立され、泊月の第1句碑とされる貴重な文化財。
後志	古平町	史跡	吉田一穂詩碑「魚歌」	古平町大字港町(厳島神社境内)	H12.6.8	小学生時代を古平町で過ごした詩人吉田一穂の還暦と試論集「古代緑地」の発刊を祝い昭和33年に建立。
後志	古平町	史跡	吉田一穂詩碑「鎮魂歌」	古平町大字新地町(琴平神社境内)	H12.6.8	昭和40年建立。碑の表面には吉田一穂の詩が刻まれ、裏面には日露戦争以来の郷土出身の戦没者207柱の氏名が刻まれている。
後志	仁木町	有形文化財/建造物	大江神社旧神殿	仁木町大江2丁目445番地1	H4.12.3	大江に移した人々が現大江1丁目に郷里山口県周防郡の県社野田神社の分霊を勧請し、明治18年に遷拝所、明治20年には拝殿、御官殿を創建、明治36年現位置に移設した。
後志	仁木町	有形文化財/美工	開拓起源(古文書)	仁木町西町1丁目52番地	H3.4.23	明治44年、仁木尋常高等小学校長林駒太郎が大江村地史編纂の際、仁木竹吉氏に面会し、開拓起源の原本を借用して謄写したものである。
後志	仁木町	有形文化財/美工	仁木村開祖者仁木竹吉翁遺稿集(古文書)	仁木町西町1丁目52番地	H3.4.23	仁木竹吉が北海道へ移住しようとした動機や開拓使へあてた願書のことなど、仁木へ入植した当時のことや農産物の栽培方法等について明治8年から明治44年にかけて詳細に記されている。
後志	仁木町	有形文化財/美工	毛利家開墾事務所明治15年第2年報草稿(古文書)	仁木町西町1丁目52番地	H3.4.23	開拓委員長栗屋貞一が開拓の状況を毛利元徳あてに於て第2回目の報告の起草文である。
後志	仁木町	有形文化財/美工	大江村地史(古文書)	仁木町西町1丁目52番地	H3.4.23	明治44年に仁木町の7地区を各学校の教員が編集し、林駒太郎が中心となり編纂したものである。
後志	仁木町	有形文化財/美工	大江神社鳥居の掲額	仁木町大江2丁目445番地1	H21.4.16	この掲額の裏面には「従五位毛利元昭敬書」と記されており、明治16年8月に開墾地視察のため大江に来村したときに書かれたものと考えられる。現仁木町の前身である「大江村」開拓の史実に深く関わる貴重なものである。
後志	仁木町	史跡	山川瀧五郎氏記念碑	仁木町銀山1丁目394番地2	H4.12.3	山川瀧五郎氏は兵庫県出身で、125万坪の貸下げを受け、移民を入れて鉄道の枕木、杭木の切出しと開墾道路を造り、銀山の開拓発展に尽力した。
後志	仁木町	史跡	仁木村開祖の碑	仁木町南町2丁目14番地	H7.10.3	明治12年11月旧徳島藩の家臣仁木竹吉翁率いる、その郷人117戸がこの地に移住し、辛苦多年の末本町が築かれた。この功績を末永く後世に受け継がれることを祈願した碑。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
後志	仁木町	史跡	大江開祖栗屋貞一碑	仁木町大江2丁目445番の1	H13.2.1	仁木町大江地区の開拓当初、道路整備、学校設立、農業指導などの今日の礎を築いた大江開祖栗屋貞一の業績を讃え明治41年建立。開拓の史実を裏付ける貴重なもの。
後志	仁木町	史跡	開祖久保勘次郎翁之碑	仁木町尾根内375番地の1	H13.2.1	仁木町尾根内地区の開拓に尽力した久保勘次郎の業績を讃え、昭和16年現在地に建立された碑。本町尾根内地区の開拓の史実を裏付ける貴重なもの。
後志	仁木町	史跡	鈴木駿郎翁頌徳碑	仁木町尾根内375番地の1	H13.2.1	明治39年仁木町尾根内地区に來村し、永年にわたり公職を歴任し、村自治と自作農創設、電化施設建設等に尽力した鈴木駿郎の業績を讃え、昭和30年建立。
後志	仁木町	天然記念物	仁木神社境内の樺	仁木町南町2丁目14番地1	H4.12.3	社殿の西隣にどっしりとその腰をすえ、樹冠を広げている。胸高の周囲2.8mに及ぶこの巨樹は、関井善平氏が郷里徳島県から移植したもので、その樹齢は90年を超えている。
後志	仁木町	天然記念物	大江神社境内の赤松群	仁木町大江2丁目445番地1	H4.12.3	毛利家より開拓事務所の開拓委員長を命ぜられた栗屋貞一氏は、郷里の山口県から取り寄せた赤松を移住者とともに大江開拓事務所周辺に植林したと伝えられる。
後志	仁木町	天然記念物	無量寿寺境内の黒松	仁木町北町1丁目57番地	H4.12.3	胸高の周囲が1.8m。誰が植えたかはわからないが、郷里徳島県から移植したもので、100年に近い。
後志	仁木町	天然記念物	無量寿寺の公孫樹	仁木町北町1丁目57番地	H4.12.3	胸高の周囲が3m。明治29年に創立。郷里徳島県から移植したもので、推定100年近い。
後志	仁木町	天然記念物	仁玄寺境内の樺	仁木町西町7丁目1番地	H4.12.3	郷里徳島県の先人が移植したもので、胸高の周囲3.4m。樹齢は90年を超える。
後志	仁木町	天然記念物	女代神社境内の三幹杉(望郷樹)	仁木町銀山1丁目411番地	H13.2.1	明治32年銀山の開拓発展に尽力した山川瀧五郎氏が故郷から持参し、神社参道に植えた。銀山地区の開拓当時の人々の望郷の念等精神文化を伝える貴重なもの。
後志	仁木町	天然記念物	長老「祝」りんご樹(果樹)	仁木町北町2丁目35番地	H17.4.22	長老「祝」りんご樹(果樹)は、早生系品種の「祝」(いわい)で、初代が現在地に移植した1879(明治12)年の4年後、1883(明治16)年に植えられたようである。リンゴの木としては道内最長老樹である。郷土開拓の歴史とほほ重なるリンゴの文化的価値は高いものである。
後志	仁木町	天然記念物	淨宣寺境内の公孫樹	仁木町銀山3丁目122	H19.11.8	淨宣寺開祖は、香川県水上村の出身で明治38年仁木町に入植。そのときに持参した公孫樹である。明治42年には雄木の公孫樹を隣に植え、それ以後、たくさんの実を付け「淨宣寺の銀杏」として親しまれている。
後志	余市町	有形文化財/建造物	大日本果汁株式会社(ニッカウキスキー株式会社)工場創立事務所	余市町黒川町7丁目6-1	S55.2.19	大日本果汁株式会社として昭和9年に創立されたニッカウキスキー株式会社創立時の事務所。
後志	余市町	有形文化財/建造物	鐘樓門	余市町梅川町840	S55.11.17	創建が文久2年と推定される浄土真宗本願寺派、乗念寺境内に明治17年に建立。
後志	余市町	有形文化財/建造物	川内漁場文書庫	余市町浜中町150	S53.1.12	明治末期から大正初期に建築された川内漁場の建物群のひとつで、ニシン漁全盛時の遺構である。
後志	余市町	有形文化財/建造物	茂入神社祭壇及び吊天井	余市町入舟町(茂入神社内)	S40.5.1	旧下ヨイチ運上家敷地内にあり、近世末期のヨイチ場所における信仰を知る上で貴重。
後志	余市町	有形文化財/美工	薬師如来像	余市町富沢町2丁目21	S35.3.22	木製の一刀彫刻の立像。厨子は木製外部黒漆塗、内部は金箔塗、扉両開き。天長2(825)年の銘がある。
後志	余市町	有形文化財/美工	茂入神社弁財天外3点	余市町入舟町(茂入神社内)	S35.3.22	弁財天は、文化8(1811)年、京都の西田専祐の作。他2体(稲荷、龍神)も同年の作だが作者不明。
後志	余市町	有形文化財/美工	ヨイチ御場所上下運上家関係古文書	余市町入舟町(水産博物館内)	S40.5.1	文政年間よりヨイチ場所を請負った林家が所蔵してきた文書。
後志	余市町	有形文化財/美工	蒔絵模様両開筆筒	余市町入舟町(水産博物館内)	S40.5.1	明和6年制作と推定される両開きの筆筒で、林家の衣類用の筆筒として使用されてきた。
後志	余市町	有形文化財/美工	罌口(わにぐち)	余市町入舟町(水産博物館内)	S46.12.18	文久年間、足軽桐ヶ谷太兵衛が願主として寄進したもので、丸山樞に所在した稲荷神社跡から発見された。
後志	余市町	有形文化財/美工	野口雨情書軸物2点/1点	余市町大川町7丁目5/余市町入舟町9	S51.5.24	野口雨情直筆の軸。雨情は札幌、層雲峡と歩き、釧路、弟子屈方面を旅行し、余市町に立ち寄った際、当時の余市を詠じた。
後志	余市町	有形文化財/美工	湯内漁場盛業鳥瞰図	余市町入舟町(水産博物館内)	S51.5.24	明治期の沖村(湯内)の小黒漁場を中心にして鱈沖揚げ運搬船、陸廻りなど忙しく働く様子が描かれている。
後志	余市町	有形文化財/美工	安政年間のヨイチ鳥瞰図	余市町大川町1丁目133	S51.5.24	近世末期、余市・岩内間の山道開削後、安政4年頃の状況が描かれたもの。近世末期のヨイチ場所を知ることのできる資料。
後志	余市町	有形文化財/美工	林子平東邦地図	余市町入舟町21	S51.5.24	安政年間の余市・岩内間の山道切開きの際、道路完成状況などを含めた余市の絵図。
後志	余市町	有形文化財/美工	板戸「波に千鳥」	余市町入舟町10(旧下ヨイチ運上家内)	S54.10.17	江戸末期の制作と推定。加賀地方より移入されたものとされる板戸である。
後志	余市町	有形文化財/美工	アイヌ絵(武者のぼり下絵)	余市町入舟町10(旧下ヨイチ運上家内)	S54.3.30	源義経が蝦夷地にわたり、アイヌの娘と恋をしたという伝説の一場面を描いた幟絵である。文政年間に制作されたと推定。
後志	余市町	有形文化財/美工	御受書(血判書)	余市町入舟町(水産博物館内)	S63.11.18	旧会津藩士の北海道移住団が開拓使に提出した血判書の副本。
後志	余市町	有形文化財/美工	幸田露伴自筆の電報送達紙	余市町入舟町(水産博物館内)	S55.11.17	明治19年12月29日着信の電報送達紙である。幸田露伴は明治18年電報修技校を卒業、余市電信局に赴任した。
後志	余市町	有形文化財/美工	東開和尚筆連磨絵	余市町富沢町2-21	S56.1.16	明治期の永全寺住職、澤辺東開和尚は多くの連磨絵を残し、本作品は晩年の傑作とされる。
後志	余市町	有形文化財/美工	日像菩薩本尊銘の掛軸	余市町沢町5-74	S56.1.16	建武元年、日像が記した御本尊を享保5年に本山の身延山日亭が直筆と相違ない旨記したものである。
後志	余市町	史跡	芭蕉句碑	余市町沢町5-62	S55.11.17	明治23年、余市松柏社により建立された。
後志	余市町	史跡	桐ヶ谷太兵衛建立地蔵尊	余市町沢町5丁目	S40.5.1	安政4(1875)年、余市岩内間の道路開削にあたり工事の安全祈願のために、目黒の技師桐ヶ谷太兵衛が建立したものである。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
後志	余市町	史跡	庚申塚	余市町豊浜町	S40.5.1	明治12年建立。自然石に庚申と刻まれ、碑前には三猿の石像と青面金剛の石像が安置される。
後志	余市町	史跡	茂入山城跡	余市町入舟町24・29・35	S35.3.22	茂入山の東南斜面に築かれた石垣。築造は江戸時代と伝わる。
後志	余市町	史跡	幸田露伴句碑	余市町浜中町238	S31.7.20	幸田露伴が電報修技校卒業後、最初に赴任したのが余市町であった。それを記念し、勤務先の電信分局跡地隣に句碑を建立。
後志	余市町	史跡	シロバケールン群遺跡	余市町港町	S35.3.22	余市駅より北西に約4kmのシロバ山第1峰、第2峰の山麓にある。いずれも南西の傾斜地に、拳大の石約10t～50tを円状や長形に積み上げた形の積石塚。
後志	余市町	史跡	旧ヤマウス稲荷社石垣階段	余市町港町231	S51.5.24	18世紀後半のヤマウス稲荷社のもので推定される石垣階段。
後志	余市町	史跡	旧ヨイチユフナイ間山道余市口	余市町浜中町	S54.10.17	文化元年、幕府目付遠山金四郎景晋及び幕府勘定奉行村垣左太夫が西蝦夷地を巡回し、余市岩内間を各場所請負人に命じて開削させた山道の余市側口。
後志	余市町	史跡	川内漁場敷地	余市町浜中町150	S53.1.12	明治末期から大正初期に建築された川内漁場の建物群の存する敷地。干場など広い面積が必要な漁家経営を知る上で重要。
後志	余市町	史跡	開村記念碑	余市町黒川町7丁目78-5	H18.12.21	大正9年建立。余市町黒川・山田地区入植50周年を記念して建立された。碑文には団体移住の背景が記され、今日の余市農業を語る上で貴重な歴史的な石碑。
後志	余市町	史跡	旧今邸園	余市町沢町349番地	S62.10.19	庭園は大正3年、山本喜代松氏が東京の庭師に築造させたもの。住宅は大正8年頃建築の和洋折衷の建築。昭和11年、北海道に移管され、その後余市町に寄贈された。
後志	余市町	名勝	奇岩えびす・大黒岩	余市町潮見町海上	S35.3.22	二セコ積丹小樽海岸国定公園の内にいる奇岩。鳥居が設けられている大黒岩と並ぶえびす岩は夫婦岩とも呼ばれた。岩石は集塊岩。
後志	余市町	名勝	奇岩ローソク岩	余市町潮見町海上	S35.3.22	二セコ積丹小樽海岸国定公園の内にあり、高さ45mをこえる。岩石は集塊岩。
後志	余市町	天然記念物	神木サイカチの木	余市町富沢14丁目(余市神社境内)	S40.5.1	樹齢約300年、樹高約17mで、分布域は東北以南。
胆振	室蘭市	有形文化財/建造物	輪西屯田兵旧火薬庫	室蘭市宮の森町1-1-64(中島神社境内)	S47.3.23	明治19年に建設された室蘭屯田兵中隊本部の火薬庫。
胆振	室蘭市	有形文化財/美工作品	輪西屯田兵記念碑	室蘭市宮の森町1-1-64(中島神社境内)	S47.3.23	明治19年に室蘭屯田兵中隊本部が建設され、その記念碑が明治42年に建立された。
胆振	室蘭市	有形文化財/美工作品	日本製鋼所室蘭製作所製造複葉エンジン(室0号)	室蘭市茶津町4	H11.9.2	国産第1号の航空機エンジンで、室蘭の企業が1918年に完成させた。
胆振	室蘭市	有形文化財/美工作品	南部藩陣屋跡出土砲弾	室蘭市陣屋町2-4-25(民俗資料館)	H22.3.3	安政3年(1856)から慶応4年(1868)まで南部藩により構築・使用され、国指定史跡となっている史跡東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡から出土した砲弾。昭和45年(1970)の内陣発掘調査における出土資料である。鉄製の球形砲弾で、柘榴彈(ざくろだん)と銃玉(ずくだま)、計79点からなる。
胆振	室蘭市	有形文化財/美工作品	胆振国室蘭郡全図	室蘭市本町2-2-5(図書館)	H22.3.3	絵図・軸装(ただし原本は折図)。絵図目視範囲で縦54.0cm、横78.8cm。紙本に手書・彩色。図書館の所蔵印あり。制作者及び所蔵経緯は不明。名称は「膽振国室蘭郡全図」と記載される。明治初期に作成された室蘭周辺の絵図。チマイベツからフシベツまでの範囲で、各地の地名や道路・里程、当時の入植者や植生・海産物などの情報が細かく記載される。ただしその記載は蘭北に詳しく、蘭西は疎。制作年代については、明治4～5年と推定されている。
胆振	室蘭市	有形文化財/美工作品	友情人形(青い目の人形)	室蘭市陣屋町2-4-25(民俗資料館)	H22.3.3	全長39cm、重量約700gのコンポジションドール。アメリカ製。人形本体と靴が贈られた当時のものである。音声装置が組み込まれており、本来「ママー」と発声したとされる。眼球も可動する。摩擦により一部判読不能であるが、背中には、「GENUINE MADAME HENDREN DOLL 216」と製造先によるスタンプがなされている。昭和2年アメリカより「友情人形」として日本各地に約12,000体贈られた人形のうちの一つ。絵巻尋常高等小学校(当時)に贈られた1体を、養護教員をしていた泉田ヒデ氏が戦後約50年間保存し、平成6年に資料館に寄贈された。
胆振	室蘭市	有形民俗文化財	輪西屯田兵関係資料	室蘭市宮の森町1-1-64(中島神社境内)	S47.3.23	中隊本部が使用していた印鑑、軍服等。
胆振	室蘭市	有形民俗文化財	仙台藩角田領添田家関係資料	室蘭市陣屋町2-4-25(民俗資料館)	S47.3.23/S48.3.27	明治3年に入植した添田龍吉らは室蘭開拓の事業にあたった。仙台から持参した銃、刀等。
胆振	室蘭市	有形民俗文化財	室蘭市本町2-2-5(図書館)	室蘭市本町2-2-5(図書館)	H10.5.7	室蘭開拓の経緯等を記した古文書。
胆振	室蘭市	有形民俗文化財	瑞泉鍛刀所の輪	室蘭市茶津町4	H12.11.2	堀井家歴代の刀匠は、この用具を使って数々の名刀を生み出してきている。
胆振	室蘭市	有形民俗文化財	石川家不動明王像	室蘭市神代町77(地藏堂)	H15.1.9	高さ1尺の立像で台座等全容を一つの安山岩からの全面に高肉彫りに彫成。金箔、朱色で旧角田領主石川氏が奉じていたと伝えられている。
胆振	室蘭市	無形民俗文化財	室蘭神楽	室蘭市海岸町2-9-3	H10.5.7	明治34年に新潟県の三条神楽が室蘭八幡宮に奉納され、今日まで傳承されている。昭和初期に、御当地神楽「蘇神の舞」が創作された。
胆振	室蘭市	無形民俗文化財	御供獅子舞	室蘭市香川町22	H10.5.7	明治25年に香川県から入植した開拓者によって始められ、今日まで受け継がれている。
胆振	室蘭市	天然記念物	白鳥大橋海底部等出土の材化石及び貝化石の標本	室蘭市祝津町4-16-15	H12.11.2	これらの化石を調査したところ、室蘭港はかつて湖であったことなど、3万9千年前以降における室蘭の地形の生成過程が明らかになった。
胆振	苫小牧市	有形文化財/美工作品	林重右衛門墓碑	苫小牧市宇錦岡238-7	S54.7.4	江戸時代、タルマエ浜で鰯漁の網元として活躍した人物で、天保10(1839)年病没後、并筒屋大橋久右衛門により建立された。
胆振	苫小牧市	有形民俗文化財	勇払恵比須神社奉納品21点	苫小牧市宇勇払138-1	S36.10.4	勇払地区の総鎮守社である勇払恵比須神社に、明治初めの神仏分離による神社の統廃会により各社の奉納品が収納保存された。
胆振	苫小牧市	有形民俗文化財	錦岡樽前山神社円空作樽前権現像及び奉納品7点	苫小牧市宮前町3-6-20	S54.12.28	寛文6(1666)年、円空が製作したもので、像の背に「たるまゑ乃たけ」の刻銘がある。ほか、江戸時代以降に製作された奉納品7点が同社に奉納されている。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
胆振	苫小牧市	有形民俗文化財	勇武津不動及び奉納品7点	苫小牧市字勇弘46-2	S54.12.28	享和3(1803)年、当時の幕府役人、商人らが願主となって建立し、奉納品7点とともに海上安全、大漁満作を祈願した。
胆振	苫小牧市	史跡	勇弘会所の跡	苫小牧市字勇弘50-4、12	S31.3.10	寛政11(1799)年、東蝦夷地を直轄地とした幕府は当時の商業・交通の中心であった勇弘に、国防・行政上の見地から設置。
胆振	苫小牧市	史跡	蝦夷地開拓移住隊士の墓	苫小牧市字勇弘132-38	S31.3.10	東蝦夷地の警備、開拓のため移住してきた武州多摩八王子千人同心とその部下子弟の犠牲者及び勇弘場所関係者の墓碑。
胆振	登別市	有形文化財/美工	円空作観音像	登別市登別温泉町無番地	H5.9.2	寛文6年(1666)に、円空が道南各地を巡りながら作ったといわれる観音像の1つ。
胆振	登別市	有形文化財/美工	円空作聖観音像	登別市登別温泉町119-1	H5.9.2	昭和32年に、名古屋市の荒子観音寺に安置されていた観音像を入手したもの。
胆振	登別市	有形文化財/美工	高村東雲作観音像	登別市登別温泉町119-1	H5.9.2	三代目高村東雲による一連のまとまった遺作として貴重な文化財。
胆振	登別市	有形文化財/美工	日野愛蔵の「明治2年以降片倉家北海道移住顛末」	登別市片倉町6-27-2	H5.9.2	明治2年に宮城県白石市から登別に移住してきた日野愛蔵が、移住後24年間のできごとをまとめた登別の貴重な開拓記録。
胆振	登別市	有形文化財/美工	黒澤家史料	登別市片倉町6-27-2	H10.2.10	旧仙台藩白石城主片倉家の家臣、黒澤家に代々伝わる武家文書。
胆振	登別市	無形民俗文化財	幌別鉦山獅子舞	登別市鉦山町	H5.9.2	鉦山町で働く人々の安全と鉦山の増産を願って踊られた獅子舞である。
胆振	登別市	無形民俗文化財	札内神楽獅子舞	登別市札内町	H5.9.2	明治30年に入植した開拓民に伝えられ、五穀豊穡と地鎮の願いを込めて踊られる。
胆振	伊達市	有形文化財/建造物	土蔵倉	伊達市鹿島町6	S62.3.27	明治33年頃新潟の土蔵職人を呼び寄せ、建築1階は米や穀物、2階は衣類や書物を保管。
胆振	伊達市	有形文化財/建造物	パチラー夫妻記念教会堂	伊達市向有珠町119	H4.9.28	アイヌの父とうたわれたジョン・パチラー博士夫妻を記念して信者らが建てた石造りの建物。
胆振	伊達市	有形文化財/建造物	迎賓館	伊達市梅本町61-2	H4.9.28	明治25年、開拓状況を視察する政府高官や開拓使などを接待するために伊達家が建築。
胆振	伊達市	有形文化財/建造物	旧伊達家蔵	伊達市梅本町61-2	H4.9.28	明治10年頃の建築で、大きな梁に桁を組む仙南地方の手法が特徴的で御蔵と呼ばれた。
胆振	伊達市	有形文化財/美工	旧もんべつ製糖所製糖機械	伊達市館山下町1	H16.4.23	フランス製の製糖機械で、1880年に我国最初の官営製糖工場が伊達に建設された際に導入されたもの。
胆振	伊達市	無形民俗文化財	仙台神楽	伊達市東開内町78	S46.8.27	明治の入植とともに持ち込まれた豊穡祈願の「神芸事」で、12の舞から構成される。
胆振	伊達市	無形民俗文化財	柳心介胃流	伊達市末永町7	S59.3.10	互理伊達家の御留流柔術で、移住とともに当地にわたり保存会により伝承されている。
胆振	伊達市	無形民俗文化財	さんさ時雨	伊達市弄月町211	H20.6.27	伊達政宗が戦勝を祝って歌わせられたのが始まりとされ、移住にともない当地に持ち込まれ、今日まで受け継がれている。
胆振	伊達市	史跡	伊達市開拓記念館庭園	伊達市梅本町61-2	S48.12.27	開拓伊達市の旧邸跡で、昭和31年莫大な史料や美術品とともに伊達家が市に寄贈した。
胆振	伊達市	史跡	鎌入れの碑	伊達市梅本町37	S48.12.27	明治3年の第1回移住の際に初鎌が下ろされた所で、開基50周年に碑が建立された。
胆振	伊達市	史跡	館山チャシ	伊達市館山町7	S48.12.27	縦100m幅10mの塚が北西部と南部に2条ずつあり西部に盛土がある典型的なチャシ。
胆振	伊達市	史跡	ハッタ塚	伊達市松ヶ枝町217	S48.12.27	明治13年に飛来したイナゴの大群を焼き払って塚としたもので長方形の形態が特徴的。
胆振	伊達市	史跡	有珠会所跡	伊達市有珠町86	S48.12.27	寛文年間に設けられた有珠場所の経営の中心となった建物のあった場所。
胆振	伊達市	史跡	創治記念碑	伊達市梅本町44	S56.3.11	開拓の際に行政庁を置いた本市開拓の拠点で、開基50周年に碑が建立された。
胆振	伊達市	史跡	ボンチャシ	伊達市向有珠町163-2	S62.3.27	頂部を削って平らにし、南側に段を2段築造した祭事用のチャシと考えられている。
胆振	伊達市	史跡	茶飲み場遺跡	伊達市北黄金町75-10	H9.4.25	家臣を率いて移住した伊達邦成公が、巡回の際にお茶を飲んだところ。
胆振	伊達市	史跡	北黄金3遺跡	伊達市北黄金町75内	H9.4.25	縄文時代晩期の遺跡で、曲玉が採集されていることから墓地の可能性が高い遺跡。
胆振	伊達市	史跡	有珠6遺跡	伊達市有珠町271-1内	H19.6.22	道内でも最古級の縄文時代早期～前期の貝塚。
胆振	伊達市	天然記念物	伊達市百年記念樹12件	伊達市内12ヶ所	S48.12.27	開基百年を記念して開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件を百年の樹に指定した。
胆振	伊達市	天然記念物	シナサワグルミ	伊達市鹿島町28	S58.7.19	中国に自生していたものを明治時代に持ち帰ったとされ、道内には珍しい巨木である。
胆振	伊達市	天然記念物	いちよう	伊達市元町18	H9.4.25	伊達家の菩提寺である胆振山大雄寺の境内に明治13年頃植えられた地域の象徴的老木。
胆振	伊達市	天然記念物	三本杉	伊達市有珠町124	H9.4.25	文化元年に幕府の官寺として善光寺が建立される以前より生育、歴史を物語る老杉。
胆振	伊達市	天然記念物	いちよう	伊達市有珠町124	H9.4.25	文化元年に幕府の官寺として善光寺が建立される以前より生育、歴史を物語る老木。
胆振	伊達市	天然記念物	石割り桜	伊達市有珠町124	H9.4.25	奇僧第2世鷲州上人が植えたとされ、石を割って成長した樹齢190余年の名木である。
胆振	伊達市	天然記念物	かしわ	伊達市北黄金町75-10	H9.4.25	かしわはその樹勢がきわめて強いことから先人の教育に対する熱意の象徴であった。
胆振	伊達市	天然記念物	ハルニレ	伊達市大滝区本郷町10-1	H19.11.22	旧大滝村の記念樹であり開拓のシンボルであった。樹齢約400年、樹高約15m。
胆振	豊浦町	有形民俗文化財	アイヌ祭具一式(佐茂家)	虻田郡豊浦町字船見町95番地中央公民館内	H15.4.4	旧佐茂家に保管されていたアイヌ儀式用具一式で、杯・天目台・バスイ・イナウ・行器等などの他、魔よけとして用いられた小熊の足・狐の頭蓋などを含む。
胆振	豊浦町	史跡	カムイチャシ	虻田郡豊浦町字礼文華茶津岬	H15.4.4	内浦湾に突出した岬上に構築、臨海性先丘式1条塚。塚内2,200㎡とその前庭部を含む。ほぼ原形をとどめ、史蹟公園として保存。
胆振	壮瞥町	無形民俗文化財	仲洞爺獅子舞	有珠郡壮瞥町字仲洞爺	S53.12.18	仲洞爺須賀(菅)八幡神社の建立と時を同じくし、これを奉納するために発足。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
胆振	社管町	無形民俗文化財	久保内獅子舞	有珠郡社管町字久保内	H5.1.20	昭和6年創設。
胆振	白老町	有形文化財/ 美術	社台1遺跡出土の朱塗土器	白老郡白老町本町1-1-1	S61.4.4	女性を思わせるようなゆつたりと豊かに胴部がふくらんだ優美な朱塗りの大壺など多くの土器や石器が、縄文時代晩期縄文文化期の墓72基から出土。
胆振	白老町	有形文化財/ 美術	アコロ遺跡出土の装身具等	白老郡白老町本町1-1-1	S61.4.4	縄文時代の墓から110を超える恵山式土器とともに1,376個もの琥珀製平玉などの装身具が多数出土。
胆振	白老町	有形民俗文化財	ルウンベ	白老郡白老町若草町2-3-4	S61.4.4	和人との交易で得た木綿の古着に、絹・メリンス・木綿などの色物の古裂を細かく切って張り付け、さらにその上から刺繍を施したもの。白老から噴火湾沿岸の限られた地域にのみ伝えられている。
胆振	白老町	有形民俗文化財	白老八幡神社社宝5点	白老郡白老町本町1-1-11	H8.6.5	ロシア皇帝エカテリーナⅡ世像として伝えられる「仙台藩士奉納女性像」をはじめ絵馬・扁額等の社宝は、江戸時代後期及び幕末の白老の歴史を鑑みるに重要である。
胆振	白老町	有形民俗文化財	アイヌ生活用具コレクション(児玉コレクション)	白老郡白老町若草町2-3-4	H12.3.31	アイヌ資料の個人的なコレクションである「児玉コレクション」は、2,279点に及び個人収集のものとしては世界有数である。道内はもとより樺太アイヌにまで及び、アイヌ文化の調査研究に欠かせない一級資料となっている。
胆振	白老町	無形民俗文化財	虎杖浜越後盆踊り	白老町字虎杖浜43-4	H12.10.3	新潟県北蒲原郡から虎杖浜地区への移住者により、明治40年頃から唄い踊り継がれてきた。「新保幸代寺踊り」がルーツと言われる。
胆振	白老町	無形民俗文化財	白老町伝統文化継承者	白老町高砂町2丁目ほか	H19.3.8	アイヌの古式舞踊、伝承的食文化、手工芸技術を永年にわたり継承し、後継者育成に寄与し、その知識・技能を生かし次代を担う世代の模範ともなる14名を指定。H19年の5名、H20年12月12日の5名に加え、H23年3月4名を追加指定した。
胆振	厚真町	有形文化財/ 美術	獅子頭	勇払郡厚真町字幌内616-1 (幌内神社)	S48.10.22	明治40年9月、山で働く岩手県出身の人達が寂しさをまぎらすために作り幌内神社に奉納したと言われている。シロコの木で約5kg。
胆振	厚真町	有形文化財/ 美術	丸木舟	勇払郡厚真町字幌里(旧幌里小)	S48.10.22	明治10年頃に厚真川河口の渡舟用として使っていたもの。舟の前後とも上部の両端をアゴ形に残し、他を10cm程削り落とした道内唯一の割竹形をしており、縦断面はメーリングン形をしている。ナラの木で長さ5.6m、内径45cm、円周1.75m。
胆振	厚真町	有形文化財/ 美術	髷口	勇払郡厚真町字浜厚真132-2(浜厚真神社)	S57.4.1	120年ほど前に本州で制作され、豊漁と漁の安全を祈願して浜厚真神社に奉納したと推測。直径20cm、厚さ8cm。
胆振	厚真町	有形文化財/ 美術	御輿	勇払郡厚真町字新町75(厚真神社)	S57.4.1	明治2年、明治天皇が道開拓使長官として東久世通禧(ひがしくぜ・みちとし)が赴任するに当たり、北海道の鎮守として開拓三神を授かった。最初、三神は1基の御輿にまとめて札幌神社に奉られていたが、明治32年に3基に分けられたのがそのうちの1基である。
胆振	厚真町	有形文化財/ 美術	振瀬灌漑用水記念碑	勇払郡厚真町字朝日192	S48.10.22	明治41年11月15日、3.6kmの用水施設の完成を記念して建立。高さ2.18m、幅50cm、厚さ26.5cm。
胆振	厚真町	有形文化財/ 美術	青木与八記念碑	勇払郡厚真町字浜厚真132-2	S57.4.1	昭和3年、浜厚真開拓の祖としての功績を称え建立。高さ1.27m、幅56cm、厚さ26cm。
胆振	厚真町	有形文化財/ 美術	松浦武四郎之碑	勇払郡厚真町字富里179-1地先	S57.4.1	昭和32年、蝦夷地探検家であった「松浦武四郎」が安政5年6月にこの地に2泊したことから探検100年を記念して建立。高さ1.38m、幅78cm、厚さ31cm。
胆振	厚真町	有形民俗文化財	熱送り及び太鼓	勇払郡厚真町字軽舞	S48.10.22	明治36年、富山県の所有者から買い受けたもので、豊作を祈願するため熱送りの行事を毎年7月31日に神社前で奉納太鼓を打ち鳴らし、軽舞地区の各戸を回る。
胆振	厚真町	無形民俗文化財	幌内神楽	勇払郡厚真町字幌内	S48.10.22	明治40年に完成し、岩手県の南部神楽の流れをくむ。獅子頭と神楽舞かなり、頭を持つ2人の踊り手と太鼓、笛、ホラ貝、テンビラなど7人で構成。
胆振	厚真町	天然記念物	ハルニレの木	勇払郡厚真町字幌里156-1 (旧幌里小中学校校庭)	S48.10.22	推定樹齢500年、直径1.5m、樹高28m。昭和48年北海道から「開拓記念の木」として指定される。
胆振	厚真町	天然記念物	正楽寺の樹林	勇払郡厚真町字軽舞294(正楽寺境内)	S48.10.22	寺の2haの境内に樹齢100年程になるニホンアカマツや周囲3,7mの100年桜など28種類390本の樹林。
胆振	厚真町	天然記念物	いん石	勇払郡厚真町字表町11	S57.4.1	昭和10年9月3日に落下し、昭和11年に北大の中尾清蔵助教授が鑑定した。アルミ24%、鉄3%、重さ10.69kg。
胆振	洞爺湖町	有形文化財/ 美術	入江貝塚出土の猪牙製装身具	虻田郡洞爺湖町高砂町44番地(入江・高砂貝塚館)	H14.11.28	大型の猪(雄)の下顎大歯を素材とし、ヒトの歯列を模して作られた製品。縄文時代後期初頭のものと考えられる。
胆振	洞爺湖町	有形文化財/ 美術	史跡入江・高砂貝塚9号環状列石出土の遺物	虻田郡洞爺湖町高砂町44番地(入江・高砂貝塚館)	H15.8.26	高砂貝塚出土の土偶は、護符的な意味をもち、土偶そのものが神聖視され崇拜の対象であるだけでなく、埋葬などの祭祀行事に関連した特別な意味をもつものと考えられる。9号環状列石出土の土偶及び土器は、当時の埋葬風習や縄文人の精神文化を考えると非常に貴重である。
胆振	洞爺湖町	有形文化財/ 美術	洞爺村移住開拓記録「岩倉日誌」	虻田郡洞爺湖町洞爺町	H9.10.13	岩倉三代吉氏が明治20年に香川県から北海道移住を受け昭和2年に死去するまで書き綴られた開拓記録日誌である。
胆振	洞爺湖町	無形民俗文化財	月浦獅子舞	虻田郡洞爺湖町月浦	S44.9.20	明治33年、月浦神社建立を機に、香川県神田に伝わる獅子舞を取り入れて始められた。
胆振	洞爺湖町	無形民俗文化財	曙獅子舞	虻田郡洞爺湖町洞爺町	H2.6.8	明治22年に湖畔・曙地区に入植し、獅子舞が持ち込まれた。現在までほぼ姿を変えずに継承されている。
胆振	洞爺湖町	無形民俗文化財	香川獅子舞	虻田郡洞爺湖町香川	H17.9.30	明治36年に香川地区に入植したひとたちにより香川県財田に伝わる獅子舞を導入して始められた。
胆振	洞爺湖町	史跡	入江馬頭観世音碑群	虻田郡洞爺湖町入江103	S55.10.3	入江馬頭観世音碑(道指定)の周囲には明治以降も50基の碑が建てられた。毎年7月5日に虻田馬頭観世音碑保存協賛会により、慰霊祭を行っている。
胆振	洞爺湖町	史跡	大磯馬頭観世音碑群	虻田郡洞爺湖町大磯町	S55.10.3	文政5(1822)年の有珠山噴火は、村田卯五郎を始とする100名前後の人たちが死亡、牧場の多くの馬も焼失、父母や大勢の牧場関係者が死亡した。その他、崖から転落死した馬も多くあったと伝えられている。2代目小太郎(初代小太郎の長男、長太郎)が牧場関係者や馬の追善と供養を祈ってこの碑を建立したと考えられている。
胆振	安平町	有形文化財/ 建造物	木造サイロ	勇払郡安平町遠浅730番地2	H16.5.27	日本最古の木製サイロとして70年以上歳月がたち、歴史的価値があり指定される。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
胆振	安平町	有形文化財/建造物	石倉	勇払郡安平町早来大町21	H20.12.25	昭和8年基礎工事を翌年の昭和9年建造完了。建造目的は雑穀貯蔵のためであるが、戦時中は軍需品を一時保管。現在は木炭倉庫として使用。
胆振	安平町	有形文化財/建造物	石倉	勇払郡安平町早来大町20	H20.12.25	記録がないため不明だが、大正15年頃建造とのこと。ピラミッド方式により石を重ねた。建設目的は米倉庫。
胆振	安平町	有形文化財/建造物	勇払電灯株式会社の跡	安平町早来大町	H20.12.25	大正8年7月資本金10万円をもって「勇払電灯株式会社」を設立。昭和15年4月日高電灯株式会社に合併して閉鎖。その後、「小熊医院」となっていた。
胆振	安平町	有形文化財/美工	蒸気機関車D51-320号機	勇払郡安平町追分白樺2丁目14番地	H12.11.21	旧追分町がJR北海道より無償貸与されている蒸気機関車。
胆振	安平町	有形文化財/美工	蒸気機関車D51-241号機ナンバープレート	勇払郡安平町追分白樺2丁目14番地	H12.11.21	D51として本道の軌道(線路)を最後に走ったD51-241号機の主動輪一基とナンバープレート一枚。
胆振	安平町	有形文化財/美工	1890年代の軌道レール	勇払郡安平町追分白樺2丁目14番地	H12.11.21	ドイツ、イギリスに北海道炭鉄道会社が製造発注したレール2本。明治25年(1892年)室蘭線の開通時を町の誕生と定めた同時期のレールとして貴重。
胆振	安平町	有形文化財/美工	小型消防ポンプ車	勇払郡安平町追分本町6丁目54番地	H12.11.21	アメリカ、ウイリス社製造(昭和30年製)の小型消防ポンプ車。
胆振	安平町	有形文化財/美工	火災消火機用ポンプ	勇払郡安平町追分本町6丁目54番地	H12.11.21	民間の自衛消火として追分町内に残っていたものを、消防の歴史を伝える物件として保存。
胆振	安平町	有形文化財/美工	消防半鐘	勇払郡安平町追分本町6丁目54番地	H12.11.21	大正4年11月「御即位記念鐘」と明記された、火災警鐘用とされる半鐘。
胆振	安平町	有形文化財/美工	灌漑溝記念碑	勇払郡安平町追分豊栄	H12.11.21	大正11年に新田開発に向け工事開始。大正15年完成。記念碑は、当時の苦労と完成を祝い昭和6年に建立。平成11年に現在の地に移設。
胆振	安平町	有形文化財/美工	明春迎灌漑溝記念碑	勇払郡安平町追分春日	H12.11.21	大正7年着工、大正8年完成。完成を記念し、大正11年に記念碑を建立。
胆振	安平町	有形文化財/美工	開拓の碑(早来町開基の地)	安平町早来富岡224番地	H20.12.25	佐々木駒吉が農耕放牧地として、フモンクの開拓を志し、明治22年秋に約50町歩の払下げの許可を受け開墾した。
胆振	安平町	有形文化財/美工	水田発祥の地(記念碑)	安平町安平	H20.12.25	支安平川と明春迎川の交わる北側のところ(昭和44年9月建立。明治26年鳥取県人布広幸太郎が単身この地に踏み込み水田耕作に成功したことを記念して建立)
胆振	安平町	有形文化財/美工	開拓記念碑	安平町早来瑞穂1211番地	H20.12.25	昭和44年9月建立。明治27年入植以来苦難の開墾を続けていた記念に建立
胆振	安平町	有形文化財/美工	開拓の碑	安平町早来緑丘	H20.12.25	昭和17年9月建立。昭和8年民有未墾地創設地として開放をうけてから開拓10周年を記念して建立
胆振	安平町	有形文化財/美工	記念碑	安平町早来北進92番地9	H20.12.25	昭和59年9月建立。昭和58年度北海道教育実践表彰受賞と、同校卒業生橋本聖子選手サラエボオリンピック出場を記念して建立
胆振	安平町	有形文化財/美工	名馬テンポイントここに眠る(記念碑)	安平町早来富岡	H20.12.25	昭和53年10月建立。昭和51年のダービーで前足骨折着外になるなど悲運がつきまとう。52年春の天皇賞、暮れの有馬記念を制し日本の座に就いたが、53年1月左後足を複雑骨折、競馬会史上初の大手術を行ったが死去した
胆振	安平町	有形文化財/美工	チーズ発祥の地(記念碑)	安平町追浅125番地1	H20.12.25	日本初の本格的なチーズ工場が昭和8年に建設され、工場生産としては日本における「チーズ発祥の地」。
胆振	安平町	史跡	教育発祥の地	勇払郡安平町追分本町3丁目7番地	H12.11.21	明治26年、町の有志により、寺小屋方式による子どもたちの教育がはじまった場所。
胆振	安平町	史跡	学校施設建設の地	勇払郡安平町追分本町1丁目	H12.11.21	明治27年に苫小牧尋常小学校植苗分校として創立。明治35年に移転するまで、学校があった場所。
胆振	安平町	史跡	北海道炭鉄道炭炭所(コークス工場跡)	勇払郡安平町追分白樺1丁目	H12.11.21	明治34年、当時は東洋一の規模を誇るコークス工場が建設。翌年よりコークスの製造が開始された場所。
胆振	安平町	史跡	追分機関区跡地	勇払郡安平町追分白樺2丁目	H12.11.21	明治25年追分停車場の開業と同時に機関区が置かれた。北海道の中でも5本の指に入る重要な拠点として役割を果たした場所。
胆振	安平町	史跡	日本最古の指定の保険保安林	勇払郡安平町追分白樺2丁目	H12.11.21	明治35年、日本で最初に保険保安林の指定を受けた貴重な森。
胆振	安平町	史跡	郵便局の始まりの地	勇払郡安平町追分本町1丁目	H12.11.21	明治29年、現在のJA追分支所の付近に追分郵便局が開設された場所。
胆振	安平町	史跡	富士酒造合名会社の跡	安平町早来大町127番地	H20.12.25	明治28年に高橋久松が「高橋酒造所」を開業した。昭和17年企業整備会の公布によって「早来酒造」と合併して室蘭酒造株式会社早来工場となり、昭和22年山田武雄が独立し早来酒造合名会社、昭和27年に富士酒造合名会社となる。
胆振	安平町	天然記念物	ニシの大木	勇払郡安平町追分向陽	H12.11.21	旧追分町に現存する中で最も太い大木。推定樹齢300年。
胆振	むかわ町	有形文化財/美工	鶴川大漁地蔵尊	勇払郡むかわ町宮戸74	H6.3.28	総丈130cm。木像立姿の仏像。
胆振	むかわ町	有形文化財/美工	聖観世音菩薩像(通称賢治観音像)	勇払郡むかわ町穂別富内91-18	S54.3.5	宮沢賢治の描いた理想郷「イーハトーブ」思想に強い影響を受けた故・横山村長が、昭和27年町営発電所建設工事の安全と豊かな村づくりを祈願して作られた。檜一木彫立像、1.8m、佐藤端圭作。
胆振	むかわ町	天然記念物	ホベツアラクリュウ化石骨	勇払郡むかわ町穂別80-6	S54.3.5	昭和52年7月に旧穂別町宇福里地内で発掘された。約1億年前の白亜紀に海に生息し、歴史学上学的に非常に価値の高い地質鉱物である。
日高	平取町	天然記念物	芽生すずらん群生地	平取町芽生82-382-7	H8.4.1	15haの広さを有するスズランの自生地であり、保護すべき優れた自然遺産。
日高	浦河町	有形文化財/美工	縄文式土器(後期)	浦河町西幌別273-1浦河町立郷土博物館	S57.3.19	上東栄遺跡から出土した縄文時代後期(約3000年前)の土器4点。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
日高	浦河町	有形文化財/ 美 工	迎賓馬車	浦河町西幌別273-1馬車資料館	S57.3.19	明治40年に設立された日高種馬牧場で迎費用に使用されていた馬車。
日高	浦河町	無形文化財	アッシ織り	浦河町	S58.12.6	発明時期が不明であるが、オホウの織維で織ったアイヌ民族の衣裳(着物)で古くから伝承されてきた伝統技術。
日高	様似町	有形文化財/ 建 造 物	等澗院護摩堂	様似町潮見台11-4	S40.11.1	オクタマン(栄町)に建立された等澗院の初代住職、秀暁の請願により文化8年に竣工。北海道開拓と様似の歴史を物語る代表的な建物。
日高	様似町	有形文化財/ 美 工	和助地蔵尊	様似町幌満	S44.3.1	寛政11年(1799年)様似山道開発工事に活躍、旅人の利便をはかるなど数々の功績を讃えて建立した、斉藤和助の御影石造り座像。
日高	様似町	有形文化財/ 美 工	弁財天像	様似町潮見台11-4	S57.10.10	安政4年(1857年)に会所付近に建立された弁天社の主神として祀られていた木造の座像で、江戸時代前期、松井右近作(推定)。
日高	様似町	有形文化財/ 美 工	薬師如来三尊佛像	様似町潮見台11-4	S57.10.10	文化元年(1804年)等澗院が蝦夷三官寺の首席に推された当時からの本尊で、江戸時代後期(推定)、黒田高山作。
日高	様似町	有形文化財/ 美 工	聖観世音菩薩像	様似町潮見台11-4	S57.10.10	寛政年間(1790年)エンルム岬にあった観音堂の本尊で、鎌倉時代(推定)作者不明、様似最古の仏像。
日高	様似町	有形文化財/ 美 工	南無仏太子像	様似町潮見台11-4	S57.10.10	南無仏太子彫刻史上貴重な作例であり、聖徳太子二歳木彫像で、室町時代(推定)、作者不明。
日高	様似町	有形文化財/ 美 工	等澗院古文書	様似町会所町1	S58.4.12	等澗院創生住職秀暁の選任(享和3年)からの住職記13冊、什物帳1冊、書付(寺務通減法通知書)1冊。
日高	様似町	史 跡	様似山道	様似町(冬島〜幌満)	S60.11.19	寛政11年(1799年)北方警備のために開削された北海道道路史上初期の官営道路といわれ、全長7キロメートルの風光明媚な山道。
日高	えりも町	有形文化財/ 美 工	蝦夷一覧	えりも町字新浜207えりも町水産の館	S59.1.27	アイヌ民族のアッシ織りや狩猟風景などを描いた民俗画。
日高	えりも町	有形文化財/ 美 工	住吉神社境内江戸時代建立の石碑群	えりも町字本町230	H14.3.20	嘉永3年(1850)建立の石手鉢には、場所請負人福嶋屋善四郎の銘、嘉永4年(1851)建立の石灯籠脚台には、場所請負人福嶋屋善四郎及び名越屋善吉、和田屋元吉の銘、文久4年(1864)の建立の石手鉢には、福順丸又助の銘があり、江戸時代の場所請負と北前船の歴史を示す貴重な資料である。
日高	えりも町	有形文化財/ 美 工	襟裳神社境内江戸時代建立の石碑群	えりも町字えりも岬170-9	H14.3.20	嘉永3年(1850)建立の石手鉢には、讃岐粟嶋升屋虎蔵の名があり、升屋は場所請負人の雇船である。江戸時代に建立された狛犬台座には支配人卯三郎の銘があり、梶泉場所の支配人であったことがわかっている。文久元年(1861)建立の石灯籠を含め、江戸時代の場所請負と北前船の歴史を物語るものである。
日高	えりも町	有形文化財/ 美 工	不動明王	えりも町字本町23	H14.3.20	梶泉場所は文化10年(1813)嶋屋佐次兵衛が請け負っていたが、実際は高田屋嘉兵衛が経営していたと考えられている。文化9年(1812)高田屋嘉兵衛は、国後島にてロシアに捕らえられ、文化10年国後島に戻り、松前に着いたのは7月17日である。この不動明王は、文化10年3月に建立され、嘉兵衛の無事な帰還を願って奉納されたものと考えられる。
日高	えりも町	有形文化財/ 美 工	一石一字塔	えりも町字庶野11	H14.3.20	文化3年(1806)に建立された。東蝦夷地に場所が開かれ、多くの和人が暮らすようになり、またロシア南下による北方警備の重要性が高まり、アイヌへの統制も考慮し、幕府は蝦夷三官寺を文化3年に建立した。梶泉は様似等澗院の管轄であり、百人浜に一石一字塔が建立され、碑文から海難者の追善供養と法力による安全航海の願いがこめられている。
日高	えりも町	有形文化財/ 美 工	當世武大明神	えりも町字庶野707-4	H14.3.20	慶応2年(1866)建立。碑文には請負人杉浦喜七豊明、支配人紋蔵とあり、梶泉場所請負人が建立したものである。言い伝えによると北前船が風待ちをした入江を望む段丘上にあることから、北前船の航海の安全と梶泉場所の繁栄を祈願して建立したと考えられ、江戸時代の場所請負と北前船の歴史を示す貴重な資料である。
日高	えりも町	有形文化財/ 美 工	目黒神社境内江戸時代建立の石碑群	えりも町字目黒230	H14.3.20	石灯籠には、越後鬼舞伊吉丸、口増口口口口村口太郎などの銘があり、北前船の船主と請負人が、元治元年(1864)に建立したものである。社内にいる狛犬は慶応2年(1866)に建立され、番屋守中村惣太郎、宮石熊次郎の銘がある。江戸時代の場所請負の歴史を示す貴重な資料である。
日高	えりも町	史 跡	猿留山道と蝦夷時代建立石碑2体	えりも町字庶野、字目黒の北海道有林、日高管理区127林班、134林班、135林班の5.9km	H21.4.1	猿留山道(さるさんどう)は、寛政十一年(1799年)開削江戸時代末、蝦夷地周辺に頻繁に出没するようになったロシア・アメリカなどから、蝦夷地(北海道・北方四島など)を警備するため、外国船の接近など急務の連絡が必要となった場合に備え、情報伝達や物資運搬などが容易になるよう陸路の整備が幕府によって行われた北海道における最初の官製道路の一つである。猿留山道沼見岬にある石碑2体は、ともに場所請負人が建立したものであり、江戸時代場所請負制度の梶泉場所として栄えた物的証拠である。「妙見神」は、安政6年(1859年)建立(高さ130cm)、「馬頭観世音菩薩」は、文久元年(1961年)建立(高さ113cm)。
日高	えりも町	無形文化財	無形文化財 郷土芸能「えりも駒踊り」	北海道梶泉郡えりも町字本町	H21.6.10	全体として二部構成になっており、踊りは「流し馬」「あい馬」「あそび馬」の三つの基本形があり、駒の動きは非常に激しく、躍動感あふれ、馬が牧野を走り回る様子が彷彿と、踊り子のりりしい顔化粧が大きな特徴となっている。現在の笠は編み笠であるが、かつては花笠であった。えりも町開基100年(昭和55年)の記念事業時に衣装新調の際、激しい動きに向けた編み笠になった。
日高	えりも町	無形文化財	無形文化財 郷土芸能「襟裳神楽」	北海道梶泉郡えりも町字えりも岬	H21.6.10	航海の難所といわれた襟裳岬を通る船の安全と大漁を祈願して舞うと伝えられる「襟裳神楽」は、文化十一年(1814年)襟裳岬に襟裳神社が建立されて以来、奉納の舞として受け継がれてきている。由来は明らかではないが、囃子に、笛・太鼓・鐘の伴奏で、ひょっとこが獅子を踊らせる獅子神楽のスタイルをもち、北海道内に現存する郷土芸能の中では、珍しい存在である。襟裳神楽はえりも町えりも岬地区の住民によって受け継がれ、襟裳神社の秋の祭典で奉納されてきた。
日高	新ひだか町	有形文化財/ 美 工	エソオオカミ(頭蓋骨)	新ひだか町静内古川町1丁目1-1(新ひだか町静内郷土館)	H18.3.31	表面に皮膚が残存している。左後頭部に穿孔があり中にキケ(削りかけ)が詰められている。全体に保存状態は良好。町内の民家にあった。絶滅したエソオオカミであり、アイヌの伝統的儀礼に供されたものとしては国内唯一の資料である可能性が高い。
日高	新ひだか町	有形文化財/ 美 工	静内中野式土器	新ひだか町静内古川町1丁目1-1(新ひだか町静内郷土館)	H18.3.31	ほぼ完形。昭和27年静内高校郷土史研究部によって中野台A遺跡(現名称)で発掘されたもの。静内中野式の標式土器。
日高	新ひだか町	無形文化財	淡路豊年舞踊り	新ひだか町三石蓬菜49-5 下司政美方	H18.3.31	明治18(1885)年から始まった兵庫淡路島から延出地区(現・豊岡、富沢地区)への集団入植で移住してきた人々によって伝えられた。明治38(1905)年に、延出地区で日露戦争の凱旋祝いの演芸会が行われて以来、9月の村祭りに演芸会が毎年開催され「舞踊り」が欠かさず踊られたことから、淡路出身者以外の入植者にも伝えられ、地域全体のものとして現在に受け継がれている。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
日高	新ひだか町	無形文化財	歌笛越前踊り	新ひだか町三石歌笛35番地北道健一方	H18.3.31	明治23(1890)年から始まった福井県大野地方から歌笛・川上地区への集団入植で移住してきた人々によって伝えられた。
日高	新ひだか町	名勝	蓬莱山	新ひだか町東蓬莱296番地地先	H18.3.31	海拔68m、周囲約150mの独立した岩山で、地衣類の「イワタケ」や日高固有の植物「ヒダカイワザクラ」など、300種を超える高等植物や100種を超えるコケ類が自生している。
渡島	函館市	有形文化財/建造物	旧イギリス領事館	函館市元町33-14	S54.10.23	最初の領事館は元治元年(1864)に建てられたがその後焼失等にあり、現在のものは大正2年に建てられたレンガ造塗壁仕上2階建瓦葺(現トタン葺)で、イングリッシュコロネーションスタイルを採用している。
渡島	函館市	重要伝統的建造物群保存地区	函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区	函館市弥生町、大町、元町、末広町および豊川町の各一部	H元.4.21	
渡島	函館市	有形文化財/美工	小林源之助 蝦夷地草木写生図	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S37.11.3	小林源之助が、寛政4年(1792)に幕府の命により蝦夷地と樺太の実情を調査した際に写生した図である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	小玉貞良筆 蝦夷国風図絵	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S37.11.3	今日伝わるアイヌ風俗の絵としては最古のもの写しの一つで、内容は、魚釣りや昆布採り、熊祭の酒宴の様子を描かれている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	アイヌ風俗12カ月屏風1双(うち7月～12月は平沢屏山筆、1月～6月は宮原柳庵模写)	函館市青柳町17-1(博物館)	S37.11.3	この作品は、アイヌ絵の第一人者といわれる平沢屏山によるもので、アイヌ民族の研究資料として貴重なものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	近藤重蔵書翰	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S37.11.3	寛政11年(1799)近藤重蔵が国後島のアトイヤで書いて、備中国(岡山県)の古河古松軒に送った手紙である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	イワン・マホフ著 ろしやのいろは	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S37.11.3	日本の子供に読ませるために出版された最初のロシア語入門書で、文久元年(1861)500部を出版し、そのうち、日本での現存はこの2冊だけといわれている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	古川古松軒筆 松前蝦夷地之図	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S37.11.3	天明8年(1788)幕府の巡見使随員として松前に来た古川古松軒が、松前藩等の資料をもとに作った地図であり、地形が不完全であるので、むしろ歴史書として評価されている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	菅原透ほか鈔23点 唐草文ほか小物5点	函館市青柳町17-1(博物館)	S37.11.3	日魯漁業網の創立者の実弟堤清次郎のコレクション約1,500点のうち、選別された格別優秀なものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	恵山貝塚出土品を中心とする恵山文化期骨角器製品一括資料506点並びに恵山貝塚出土遺物を中心とする恵山式土器一括資料62点(旧能登川コレクション)	函館市青柳町17-1(博物館)	S37.11.3	函館市在住の考古学者能登川隆のコレクションで、そのうち縄文時代約2000年前の骨角器は500点を越え学術的にも貴重な資料となっている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	日ノ浜遺跡出土硬玉製玉(縄文晩期)	函館市青柳町17-1(博物館)	S37.11.3	昭和35年日ノ浜遺跡の墳墓から発見されたヒスイ製の曲玉(2.4cm)で、縄文時代晩期に使用されたものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	セイウチ(海象)剥製	函館市五稜郭町37-8(北洋資料館)	S37.11.3	明治11年根法華村沖に現れたものを漁師が捕らえて函館に運び、剥製標本にしたもの。体長3.3m、体重800kg
渡島	函館市	有形文化財/美工	十一面観音立像	函館市船見町18-14(称名寺)	S38.11.3	一木造りで、作風から藤原時代の作品と伝えられ明治40年の函館大火後、檀家信徒から掘り出し本州から求めたものといわれている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	阿弥陀如来像	函館市船見町18-14(称名寺)	S38.11.3	阿弥陀如来の典型的な坐像で、江戸時代初期のものと言われているが、どのような経過でここにあるのか不明。
渡島	函館市	有形文化財/美工	不動明王立像	函館市船見町20-20(真言寺)	S38.11.3	真言寺の主仏で木彫、高さ約36cmのものであるが、作者・作成年代とも不詳である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	梁川八景	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S38.11.3	徳川幕府は、文化4年(1807)に松前藩を福島県の梁川に移した。その時代に蠣崎波響が扇面に梁川の四季や夜景などを取りまぜて描いたものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	唐美人	函館市青柳町17-1(博物館)	S38.11.3	花鳥画人といわれる蠣崎波響が51歳のときに描いた貴重な人物画で、全国的に有名な絵画のコレクターの佐々木嘉太郎氏のコレクションであった。
渡島	函館市	有形文化財/美工	落下コロボックル人の図	函館市青柳町17-1(博物館)	S38.11.3	この絵は、折れ曲がった落の葉の下から三人の小人(コロボックル)が顔を出して外を眺めている雅趣に富んだ面白い作品で、松浦武四郎によって描かれた。
渡島	函館市	有形文化財/美工	蝦夷嶋図説	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S39.11.3	秦禮丸の養子の村上貞助とその配下の間宮林蔵が文政6年(1823)までにまとめたもので、アイヌの住居、耕作等をとりあげ折帳8冊からなっている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	蝦夷嶋奇観	函館市柏木町28-15	S39.11.3	寛政10年(1798)近藤重蔵が蝦夷地を巡視した際、同行した秦禮丸がその時に得た見聞をもとに著した書物である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	維摩	函館市青柳町17-1(博物館)	S39.11.3	東京美術学校の第1回卒業生の下村観山の作である。この絵の維摩居士は、釈迦の教化を助けるために遣わされた一世の賢人で、観山の傑作の一つといえる。
渡島	函館市	有形文化財/美工	アイヌ絵巻	函館市青柳町17-1(博物館)	S39.11.3	富岡鉄斎の作で、明治7年の北海道遊歴の際に描かれたスケッチ風のものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	蓬莱園	函館市湯川町2-10-1	S39.11.3	17世紀後半ごろの狩野安恒の作で、縦159cm横96cmもある三幅対の図である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	詩書 榎本武揚筆	函館市青柳町17-1(博物館)	S39.11.3	明治2年榎本武揚が東京に護送された際に、当時の心境や情景を表現した詩書で箱館戦争の最後を物語る貴重な遺品である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	函館新聞綴込一括	函館市柏木町28-15	S39.11.3	明治11年発行された北海道で最初の新聞。1ヶ月の購読料は7銭で、当時の米1升4合分に換算される。当初3,000部を印刷し、最初は5日ごと、半月目から隔日、明治18年には日刊となった。
渡島	函館市	有形文化財/美工	有尖頭器類73点	函館市青柳町17-1(博物館)	S39.11.3	昭和33年北海道磯谷郡蘭越町の立川遺跡から発掘された石器類の遺物で、約1万年前のものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	絹本着色春雨桜雑図 蠣崎波響筆(旧花光コレクション)	函館市青柳町17-1(博物館)	S40.11.3	蠣崎波響62歳のときの作品。春雨にぬれる彼岸桜に雉が止まった図柄だが、独特の表現方法で本当に雨が降っている感じを与える波響の傑作である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
渡島	函館市	有形文化財/美工	絹本着色 巖上鷺鷥図 蠣崎波響筆 (旧花光コレクション)	函館市青柳町17-1(博物館)	S40.11.3	蠣崎波響35歳のときの作品。波の押し寄せる岩に遊ぶさまを描いた図で、当時の波響の代表作品である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	絹本着色 五節句図 蠣崎波響筆 (旧花光コレクション)	函館市青柳町17-1(博物館)	S40.11.3	五節句は、明治6年まで日本古来の式日として行われ、波響はこれを、1月は羽子、3月は桃の花とによって表現した。
渡島	函館市	有形文化財/美工	絹本着色 牡丹睡猫図 蠣崎波響筆 (旧花光コレクション)	函館市青柳町17-1(博物館)	S40.11.3	この絵は、絢爛たる牡丹花の根本に三毛猫がうずくまって日向ボッコをしているという、実に滋味とのかささいっぽい図柄で、波響の最優秀作品と言っても過言ではない出来栄である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	紙本単彩 雁来紅図 蠣崎波響筆 (旧花光コレクション)	函館市青柳町17-1(博物館)	S40.11.3	雁来紅は、秋雁の来る頃紅色になる非常に美しい花で、1本の雁来紅を青の淡彩で淡々と描き上げ、現代にも通じる波響の新しい絵である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	羽太庄左衛門正義 手沢本休明光記 9冊	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S40.11.3	前幕領時代に最初の箱館奉行を勤めた羽太庄左衛門正義が、在任中の寛政11年(1799)から9年間に起こった蝦夷地の事件や風俗などを記録したもので、本書9冊附録12冊からなっている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	羽太庄左衛門正義 手沢本休明光記 付録12冊	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S40.11.3	前幕領時代に最初の箱館奉行を勤めた羽太庄左衛門正義が、在任中の寛政11年(1799)から9年間に起こった蝦夷地の事件や風俗などを記録したもので、本書9冊附録12冊からなっている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	蝦夷日誌 松浦武四郎著	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S41.11.3	弘化2年(1845)松浦武四郎が江差に渡り東蝦夷地を根室、知床まで往復した際の紀行で、12巻よりなっている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	実験北蝦夷山川地理取調図 松浦武四郎著	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S41.11.3	安政4年(1857)幕府から蝦夷地山川地理取調を申し渡された武四郎は、「東西蝦夷山川地理取調紀行」を作成したが、その付録として万延元年(1860)に作成された自筆の樺太全図である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	蝦夷家財図説 松浦武四郎稿	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S41.11.3	安政6年(1859)に武四郎はアイヌの生活様式や風俗を軽妙な筆さばりで描いた「蝦夷漫画」を著したが、その原稿となったものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	蝦夷隣奇観 松浦武四郎写	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S41.11.3	弘化3年(1846)江差に滞在した武四郎が翌年春江戸に出立前、秦樺丸の蝦夷崎奇観を雲庵先生の求めに応じて写したものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	短冊 松浦武四郎筆	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S41.11.3	武四郎自筆の短冊で、いつ頃の作品か不明である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	黒百合 松浦武四郎筆	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S41.11.3	縦44.4cm、横51.2cmのこの絵は、武四郎が蝦夷地探検中に用いた「北海道人」の雅号を使い、北海道呼称の因となっている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	蝦夷人亜寒山遙拝の図 松浦武四郎筆	函館市柏木町28-15	S41.11.3	武四郎が明治15年夏に、かつての蝦夷地探検途上の1シーンを回想して書いたもの。
渡島	函館市	有形文化財/美工	伝ゴローニンの書	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	S43.12.4	ロシア軍艦ディアナ号艦長ゴローニンが文化8年(1811)千島列島測量の際、日本側に捕えられ、2年後に釈放されたときに書いたといわれているが、彼からロシア語を学んだ日本人が書いたといわれる。
渡島	函館市	有形文化財/美工	ペリー提督寄贈の洋酒びん2本(小島家旧蔵・旧花光コレクション)	函館市青柳町17-1(博物館)	S54.10.23	嘉永7年(1854)ペリー率いる米国軍艦が20数日間箱館に滞在した際に、寄贈されたものといわれている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	カムチャツカ出土マンモス牙	函館市青柳町17-1(博物館)	S37.11.3	我が国における動物の移動や海陸地の変化を知る上で重要な資料となっている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	樺太出土マンモス下顎骨と臼歯	函館市青柳町17-1(博物館)	S37.11.3	下顎骨に臼歯が付いて保存されていて、我が国では珍しいものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	函館八幡宮大神輿	函館市谷地頭2-5(函館八幡宮)	H14.6.5	明治27年に製作された当時の最高の工芸技術を表す八角形の大型神輿である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	弁天島八千代橋の図	函館市白尻町595(白尻小学校)	S53.2.28	大正4年、白尻青年団が御大典記念事業として弁天島に架橋した社団を伝えるものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	川汲温泉薬王殿奉納絵馬「竜の図」	函館市青柳町17-1(博物館)	S53.2.28	嘉永4年(1851)に奉納されたもので、松前藩士新井田新兵衛の妻が療養のため川汲温泉へ向う旨、町奉行所へ届出された裏付資料がある。
渡島	函館市	有形文化財/美工	川汲温泉薬王殿奉納絵馬「馬の図」	函館市青柳町17-1(博物館)	S53.2.28	北海道の数少ない絵馬の中で古さを誇り、絵画技術の面からも優秀な作品である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	厳島神社旧社殿彫刻	函館市白尻町151(厳島神社)	S53.2.28	明治6年、厳島神社旧社殿再建に際し、青森県佐井村・長福寺住職の筆による彫刻である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	奉納経神社仏閣順拝帳	函館市川汲町975	S53.2.28	天保12年(1841)川汲の小板屋久兵衛が諸国の神社仏閣を順拝したときに御朱印帳である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	飯田屋漁場文書	函館市尾札部町1220	S53.2.28	明治39年から大正3年に至る町開祖飯田家の飯田屋漁場帳簿類15点の資料である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	ヲタハマ稲荷文書	函館市大船町136-1(ヲタハマ稲荷神社)	S53.2.28	安政4年(1857)ヲタハマ村市右衛門が南部より安置したときの勧請文である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	尾札部稲荷神社文書	函館市尾札部町473(尾札部稲荷神社)	S53.2.28	文化6年(1809)の尾札部稲荷神社の勧請文であり、郷土の歴史解明研究上重要な古文書である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	熊泊稲荷文書	函館市大船町316-1(大船稲荷神社)	S53.2.28	文化9年(1812)公文所より熊泊村名主と右衛門にあてたもので、熊泊村稲荷神社に神名を与えた文書である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	伝目定作釈迦如来坐像	函館市尾札部町675	S54.12.7	一木造り全長22.5cm、詳細不明の仏師目定の作といわれ、北海道南部に点在し、荒彫り系統に属し30cm前後の小像が多く、笑っているような眼、小さく可愛らしい口などの特徴がある。
渡島	函館市	有形文化財/美工	伝目定作釈迦如来立像	函館市木直町94	S54.12.7	一木造り全長27cm、詳細不明の仏師目定の作といわれる。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
渡島	函館市	有形文化財/美工	伝目定作脇侍形菩薩立像	函館市川汲町1520-4(南茅部公民館)	S54.12.7	一木造り全長24.5cm、詳細不明の仏師目定の作といわれる。
渡島	函館市	有形文化財/美工	伝目定作釈迦如来坐像	函館市川汲町1520-4(南茅部公民館)	S54.12.7	一木造り全長20.7cm、詳細不明の仏師目定の作といわれる。
渡島	函館市	有形文化財/美工	伝目定作恵比須像	函館市大船町124	S54.12.7	一木造り全長23cm、詳細不明の仏師目定の作といわれる。
渡島	函館市	有形文化財/美工	伝目定作恵比須大黒神像	函館市安浦町105	H12.8.10	二体揃って良好な状態で保管されており、鉦彫りによる荒々しく素朴で、愛らしい表情が特徴。
渡島	函館市	有形文化財/美工	川汲稲荷神社奉納絵馬「楠木正成正行父子桜井驛の別れの図」	函館市川汲町1520-4(南茅部公民館)	H12.8.10	文久2年(1862)に奉納された武者をあしらった貴重な絵馬で、本道に残る江戸時代の絵馬として特徴的で優秀な作品である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	臼尻B遺跡出土「シカ絵画土器」	函館市川汲町1520-4(南茅部公民館)	H12.8.10	昭和61年に出土した縄文時代中期後葉のもので雄シカと見られる動物が沈線で描かれている。
渡島	函館市	有形文化財/美工	八木B遺跡出土「注口土器及び下部有孔土器」	函館市川汲町1520-4(南茅部公民館)	H12.8.10	平成3年に出土した縄文時代後期中葉のもので、縄文土器として造形的に優れており、祭祀儀礼に伴う貴重な資料である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	日米親善人形「メリー」	函館市臼尻町595(臼尻小学校)	H12.8.10	昭和2年、アメリカの世界児童親善会から贈られた12,739体の親善人形の一つである。大部分は太平洋戦争中に廃棄され、全国でも僅かしか残存しない日米交流史上貴重なものである。
渡島	函館市	有形文化財/美工	ブラキストンの大形磨製石斧	函館市青柳町17-1(博物館)	H18.4.12	動物・博物学者T.W.ブラキストンが発見した縄文早期～前期の、全長39cmを超える大型の磨製石斧である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	高松凌雲の医療器具	函館市青柳町17-1(博物館)	H18.4.12	箱館戦争期に高松凌雲が用いた英仏製顕微鏡および手術道具。
渡島	函館市	有形文化財/美工	五稜郭初度設計図	函館市青柳町17-1(博物館)	H20.10.8	箱館奉行支配下の諸術調書教授役で蘭学者の武田斐三郎成章が設計した五稜郭(箱館御役所)築造に関わる設計平面図。本平面図は計画初期の草稿図面ではあるものの、フランスから直接伝えられた図面を基にして、五稜郭の築造が行われた歴史的な経緯を示すものとして極めて価値が高く、国内に現存する数少ない西洋式土塁の築造変遷を物語る第一級資料である。
渡島	函館市	有形文化財/美工	五稜郭平面図	函館市五稜郭町26-1(中央図書館)	H20.10.8	安政4年(1857)着工、7年後の元治元年(1864)竣工の五稜郭(箱館御役所)築造に関わる最終計画図面と考えられる。図面に描かれる五稜郭全体の形状や規模等に関しては、現代の実測図面と重ね合わせても差異は少なく、精度が高い。奉行所庁舎はもとより附属建物の形状及び建物規模等が詳細に記述されており、そのほとんどが発掘調査結果と符号している。
渡島	函館市	有形文化財/美工	円空作 仏像観音像	函館市舟見町18番14号 護念山摂取院称名寺	H24.2.8	寛文6(1666)年の作と言われ、円空仏としては初期の作品で、一個人の作品としてその作者がはっきりわかるものとして貴重な仏像。
渡島	函館市	有形民俗文化財	木直稲荷神社第1号～第6号棟札	函館市木直町803(木直稲荷神社)	S54.12.7	文化6年(1809年)～万延元年(1860)までの棟札。
渡島	函館市	有形民俗文化財	川汲稲荷神社第1号～第4号棟札	函館市川汲町861(川汲稲荷神社)	S54.12.7	文政10年(1827)～安政5年(1858)までの棟札。
渡島	函館市	有形民俗文化財	厳島神社第1号～第6号棟札	函館市臼尻町151(厳島神社)	S54.12.7	文政8年(1825)～慶応2年(1866)までの棟札。
渡島	函館市	有形民俗文化財	ヲタハマ稲荷神社第1号～第2号棟札	函館市大船町136-1(ヲタハマ稲荷神社)	S54.12.7	江戸時代の棟札。
渡島	函館市	有形民俗文化財	コディアック・アリュート3人乗皮舟 付かい3本	函館市末広町21-7(北方民族資料館)	S54.10.23	明治8年、開拓使が千島列島を現地調査した際に採集したもので、3人乗皮舟としては、世界でも数少ない貴重な資料である。
渡島	函館市	無形民俗文化財	安浦駒踊り	函館市安浦町	S53.2.28	松山騒動にからむ南部藩士の斗争、勝利凱旋の様子を一連の踊りで表現したものである。
渡島	函館市	無形民俗文化財	木直大正神楽	函館市木直町	S53.2.28	大正元年、青森県より移入し、南部神楽で木直地区に定着し、年中行事の中で披露されてきた。
渡島	函館市	史跡	日ノ浜遺跡	函館市高岱町	S34.8.1	縄文前期、中期、晩期の三重遺跡で、道南地方の古代文化を知る上で貴重である。
渡島	函館市	史跡	北海道建網大謀網発祥の地及び記念碑	函館市尾札部町2725	S53.2.28	天保10年(1839)飯田屋三代目与五左衛門と小川屋幸吉は建網による鮭漁法を図り、大謀網を試作し、黒鷲岬沖に投網した。
渡島	函館市	史跡	東エゾ箱館在六箇所臼尻会所跡	函館市臼尻町234-1	S53.2.28	北海道漁業開拓功労者小川屋幸吉の屋敷跡で、当町の漁業を代表する地である。
渡島	函館市	史跡	高田屋嘉兵衛碑	函館市柏野町	S34.8.1	高田屋嘉兵衛が恵山沖合で遭難した際に海上航行者の安全を祈願して、恵山の麓の河原へ建立した十一面観音の石仏である。
渡島	函館市	名勝	恵山	函館市柏野町	S34.8.1	標高618mで、巨大な石英輝石安山岩の溶岩円頂丘をもつ二重式火山である。
渡島	函館市	名勝	道南金剛	函館市日浦町	S34.8.1	日浦海岸は、その昔、断崖絶壁の連続する海岸であったが、昭和4年地方参道として、断続するトンネルは掘削され、訪れる人々によって名付けられた。
渡島	函館市	名勝	糞の河原	函館市柏野町	S34.8.1	爆発火口が生成の際、噴出された砕屑物が火口原内に散布し、これらは硫黄ガスに侵されて灰白色等に变质して荒蕪たる感を与え、人霊供養信仰の場となっている。
渡島	函館市	天然記念物	恵山断層	函館市柏野町117	S34.8.1	恵山火山帯の中腹に見られる一大断層面である。
渡島	函館市	天然記念物	恵山高山植物群	函館市柏野町	S34.8.1	恵山は618mという低い山ながら南方分子と北方分子とが混在し、37科137種にのぼる豊富な高山植物群である。
渡島	函館市	天然記念物	イチョウの大樹	函館市臼尻町175(覚王寺)	S53.2.28	樹齢約200年といわれる大樹である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
渡島	函館市	天然記念物	「大船の杉」大樹	函館市大船町526	S53.2.28	北海道における第1回造林事業実施の際、植栽したもので、造林事業の歴史を語る巨樹である。
渡島	函館市	天然記念物	旧臼尻村役場のエゾヤマザクラ	函館市臼尻町119番地	H16.3.10	昭和22年(1947)、初の公選により就任した臼尻村の北越栄三村長の当時に、大船川上流の村有林から移植したもので、臼尻村役場時代を今に伝える貴重なサクラである。市街地においては、稀に見る大樹で、本町を代表する樹木である。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	神像円空仏	北斗市中央2丁目3番26号(宗教学法人上磯八幡宮内)	S40.11.1	寛文6年(1666)蝦夷地に渡ってきた円空の作で、保存状態は良好で、初期の作風をよく知ることができる。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	円空作仏像観音像	北斗市富川町294(宗教学法人富川八幡宮内)	S55.9.1	円空仏の背面には墨書きで梵字が書かれており、「みそぎ」の神事の言い伝えを残している。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	円空作仏像観音像	北斗市茂辺地4丁目4番37号(宗教学法人曹溪寺内)	S55.9.1	昭和10年道庁の史跡調査員杉山氏により発見されたもので、円空仏調査の発端となったものである。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	大野村絵図(後幕領時代)	北斗市本町200(郷土資料室)	S57.2.12	安政年間(1855～1859)のものと推定され、田畑や屋敷には地番のほか所有者や面積が明記されている。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	大野村絵図(明治3年)	北斗市本町200(郷土資料室)	S57.2.12	記載内容範囲などは安政年間のものとほぼ同じで現在の町道を中心とした市街地、人名などが容易に理解できる。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	市渡村絵図(明治2年)	北斗市本町200(郷土資料室)	S57.2.12	現在の七飯町峠下、仁山、さらに森町赤井川方面にも及ぶ当時の村境が明確になっている。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	鶴山道園巻 石版画	北斗市本町200(郷土資料室)	S57.2.12	明治19年に開通した江差山道の視察に随行した沢田雪溪の作で、江差に至る45景を石版画に集録したものである。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	文月稲荷神社社号額「正一位文月白狐稲荷大明神」	北斗市文月116番地(文月稲荷神社内)	H16.6.22	文月稲荷神社は松前家14世・松前藩10代藩主松前章広公が再建した。同社の「社号額」は文政6年東在海辺の台場を巡視した際草木の茂みに祠を見つけ修復を命じ、大野村の旅館で自ら書いた章広公自筆の神号である。文月稲荷神社は白狐稲荷と称し、湊(函館市鎌倉沢)の石倉稲荷・江差笹山の直満稲荷と共に、松前藩下における、蝦夷地の3大稲荷として数えられた。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	文月稲荷神社造営由来額「正一位稲荷宮奉額序」	北斗市文月116番地(文月稲荷神社内)	H16.6.22	文月稲荷神社再建の由来を松前藩家臣の杉田明が詳細に記録したもので、「正一位稲荷宮奉額序」と題する額には44行、455字に及ぶ漢文が毛筆で鮮やかに書かれている。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	文月稲荷神社俳句額「正一位稲荷宮奉額」	北斗市文月116番地(文月稲荷神社内)	H16.6.22	「正一位稲荷宮奉額」と題する俳句額は松前と箱館の俳人58人が名を連ね137種の俳句を詠んでいる。松前藩主・松前章広公が補修を命じた文月稲荷神社の完成を祝って奉納されたものと思われ、当時の箱館や松前でも上階級を中心に俳句が盛んだったことがわかる。
渡島	北斗市	有形文化財/美工	越前すり鉢(2点)	北斗市本町200番地(北斗市郷土資料室)	H16.6.22	昭和58年(1983)春、大野町宇市渡の畑の土中、深さ約1メートルの所から壊れたものと完全な形のものが出土した。北海道立埋蔵文化財センターなどの調査で、15世紀前半に北方交易船で運ばれてきた越前焼のすり鉢であることが判明した。越前焼は道内で数点出ているが、完全体は珍しい。すり鉢は和人の生活用具であり、使用痕も確認されたことから少なくとも15世紀前半に市渡周辺に和人が住んでいた可能性を証明する史料といえる。大野には越前地方(福井県東部)からも多く移住していることから、大野の起源を探る上で貴重な文化財である。
渡島	北斗市	有形民俗文化財	御神輿	北斗市中央1丁目3番3号(宗教学法人有川大神宮)	S39.10.1	嘉永6年(1853)に大阪で購入された六角神輿で、「嘉永6年丑桃月大阪心齋橋通り本町鎌田常衛門調之」の銘がある。
渡島	北斗市	無形民俗文化財	上磯奴	北斗市中央1丁目3番10号(教育委員会)	S55.9.1	この原形は、江戸時代の参勤交代の大名行列といわれる。嘉永6年(1853)購入の六角御神輿と一緒に伝わり、ここ有川大神宮の祭典に組み込まれていたものである。
渡島	北斗市	無形民俗文化財	有川天満ばやし	上磯町中央1丁目3番9号(有川大神宮内)	S62.3.28	嘉永6年(1853)に購入の六角型神輿と一緒に大阪の天満ばやしが伝授されたといわれ、北海道で最も古い囃子である。
渡島	北斗市	無形民俗文化財	大野おんばやし	北斗市本郷186-1(教育委員会内)	S57.2.12	今から280年前の享保年間に、北国船で京都から伝えられたといわれる。
渡島	北斗市	史跡	矢不來台場跡	北斗市矢不來 356～359	S39.10.1	箱館戦争の際、最大の激戦地となった地である。前幕領時代(1799～1821)に構築された第一台場、火薬庫跡と箱館戦争の時に造られた第二台場からなる。
渡島	北斗市	史跡	北海道水田発祥の地及び記念碑	北斗市村内369-4	H20.3.26	文月、村内地区が水田発祥の地であることは「松前志」などにより間違いないところ。元禄5年、文化2年説の「文月の御上田」跡と道が設置した「北海道水田発祥之地」碑を一体として指定する。
渡島	松前町	有形文化財/建造物	松本家土蔵及び松本家資料	松前町字福山	H2.9.7	土蔵は、天保2年(1831)築で、切妻・瓦葺2階建、1階筋石造り、2階は堅牢な木造である。資料は、松本家1,288件、同文書史料1,978件が一括収蔵され、保存状態は良好である。
渡島	松前町	有形文化財/美工	赤神神社棟札	松前町赤神	S55.12.1	万延元年(1860)から大正13年(1924)までの12枚の棟札で、赤神鉛山の採掘状況や神社鳥居の建立、神殿の改築など、赤神神社の変遷を知ることができる。
渡島	松前町	有形文化財/美工	蠟崎波響筆 柴垣群雀図	松前町字松城	S58.12.6	蠟崎波響は文政9年(1826)63歳で没したが、この作品は彼が青年期に描いた秀作で、縦87.7cm、横42.8cmの軸物である。
渡島	松前町	有形文化財/美工	法源寺古文書	松前町字松城	S60.4.6	寺院記録としては道内最古の「松前山法源禪刹縁起」寛文9年(1669)をはじめ、計41点からなる。
渡島	松前町	有形文化財/美工	源直義作 刀(松前藩八木橋秀親応需、慶応2年霜降月日)	松前町	S62.12.10	源直義が松前において、慶応2年(1866)11月松前藩八木橋氏の求めに応じ作刀したものの。
渡島	松前町	有形文化財/美工	斎藤流松前家資料	松前町字松城松前城資料館	H2.9.7	当家は、江戸時代後期から幕末の家老を勤めた名流で、写真や扇面など計34件の資料があり、中でも銀板写真は我が国最古の写真である。
渡島	松前町	有形文化財/美工	宗円寺旧蔵 羅漢像	松前町字大沢	H2.9.7	宗円寺は寛永7年(1630)創建されたが、明治42年解体され小樽に移転した。その際この2軀の羅漢像はなぜか法隆寺に安置され現在に至る。
渡島	松前町	有形文化財/美工	自在法師遠天作観音像(神像)	松前町字白神	H2.9.7	宮城県気仙沼の曹洞宗補陀寺の住職遠天の作で、岩座に腰を下ろし、頭頂から白衣をまとい、法衣を着用する白衣観音形に一本で造られた2軀の像である。
渡島	松前町	有形文化財/美工	源直義作 刀(松前藩高田氏応需、慶応元年11月日)	松前町	H5.11.25	源直義が松前において、慶応元年(1865)11月松前藩高田氏の求めに応じ作刀したものの。
渡島	松前町	有形文化財/美工	難船図絵馬	松前町字札前	H9.2.14	江戸時代に、時化にあい九死に一生を得た船乗りが、感謝の意味を込めて奉納したものである。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
渡島	松前町	有形文化財/美工	カラフトアイヌ供養・顕彰碑	松前町字松城303番地 光善寺本堂前境内	H21.3.26	嘉永元(1848)年に72歳で没した惣乙名・キムラカアエを弔い、供養するために、惣乙名ハリハリホクンが清水平三郎の世話を受けて、安政3(1856)年頃、建立したものと考えられており、当時の日中間の国境交渉にかかわる領土概念、とりわけカラフト南部のアイヌ社会が、幕府に協力的であったという物的証拠として重要である。
渡島	松前町	有形文化財/美工	佐藤家資史料	松前町字神明30番地 (松前町教育委員会)	H21.3.26	太刀1、刀2、短刀1、古文書44。七代佐藤準治から十代佐藤勇破蔵に関連したものが主体であり、これらの書簡や遺品を通して、幕末・維新期の動乱を知ることが出来る一括資料である。
渡島	松前町	有形文化財/美工	松前家伝銅雀台瓦硯	松前町字神明30番地 (松前町教育委員会)	H21.3.26	陶質で硯下部の刻字に、洪武辛未(1391)9月9日と刻まれている瓦硯で、藩主宗家の家伝によれば、代々家宝として伝えられたものであり、江戸時代を通じて松前氏の居城であった福山城を持つ松前町にとって重要な資料である。
渡島	松前町	有形文化財/美工	藤倉家資史料	松前町字神明30番地 (松前町教育委員会)	H22.12.27	藤倉家は二度の中興を経て、松前藩士のなかで重要な役割を果たしており、この一括資料は松前町の歴史を知るうえで貴重な資料である。
渡島	松前町	有形民俗文化財	月島奴振立道具	松前町字月島	H9.2.14	奴振の立道具は、先触、挟箱2、鉄砲2、薙刀、弓、台傘、立傘、大鳥毛(長柄)2によって構成される。
渡島	松前町	有形民俗文化財	アイヌ民俗関係資料	松前町字松城144番地	H23.12.26	本資料は、アイヌ文化研究を目的として村岡格が設立した「ピリカ会」(明治42年設立)が収集したもので、その後松前城復興天守完成記念として、格の孫である村岡チヤ氏(七飯町)によって松前町に一括寄贈されたものである。
渡島	松前町	無形民俗文化財	松前追分節	松前町	S41.3.10	起源には諸説があるが、信州の小諸付近の馬子歌の変化したものとされ、信州から越後に伝った追分節が「越後追分」となり、さらに北上して松前に上陸したと考えられる。
渡島	松前町	無形民俗文化財	松前三下り	松前町	S41.3.10	中山道の碓氷峠に発達した馬子歌が越後に入り、さらに海を渡って北海道に入ったものと考えられる。
渡島	松前町	無形民俗文化財	月島奴振り	松前町字月島	S50.1.30	月島奴振りの沿革についての明確な史料はないが口伝によれば、松前家登城奴のうち奥方奴であるといわれ、立道具も藩政時代のもので、累代月島町内が保管伝承してきたものである。
渡島	松前町	無形民俗文化財	白神タナバタ	松前町字白神	S50.1.30	沿革及び伝承は不明であるが、南部七夕踊りの影響をもつものと考えられ、幕末の頃から保存されている。
渡島	松前町	無形民俗文化財	江良杵振舞	松前町字江良	S50.1.30	幕末に江良地区に伝えられ、踊りの構成・振付けなどから南部七夕踊りの影響を受けた踊りであろうと考えられるが、その沿革は不明である。
渡島	松前町	無形民俗文化財	松前沖揚げ音頭	松前町	H9.2.14	幕末の頃からニンシ漁が盛んになり、その漁夫のための作業歌である。
渡島	福島町	有形文化財/美工	円空作 観世音菩薩像(来迎観音像)	福島町字吉野	H2.7.13	寛文6年(1666)北海道に渡ってきた円空の作で、保存状態は良好で、その形容から「来迎観音像」と呼ばれている。
渡島	福島町	有形民俗文化財	神楽用獅子頭	福島町	H7.11.3	松前神楽に使用される獅子頭で、文化4年(1807)に福島大神宮宮氏子らの寄進による。
渡島	福島町	無形民俗文化財	福島大神宮祭礼行列	福島町	S43.11.3	京風の芸術的影響を受けた開拓初期の松前文化の特色を備え、古式や由来がそのまま表現されている。
渡島	福島町	無形民俗文化財	白符荒馬踊	福島町	S43.11.3	松前藩の武威を表す、勇敢で独特な駒踊りである。
渡島	木古内町	無形民俗文化財	みそぎ行事	木古内町(佐久川神社)	S58.2.9	天保2年(1831)に神社守に「御神体を潔めよ」とのお告げがあり、御神体を抱いて海で潔めたところその年から豊漁豊作が続いたといわれている。それから、みそぎ祭は伝統行事として毎年1月15日に行われている。
渡島	七飯町	有形文化財/美工	迫田家文書(225点)	七飯町字本町6丁目1番3号 (七飯町歴史館)	S59.11.7	元七重官園職員迫田喜二が残した筆記録、書籍等で、明治初年の近代農業指導センターとしての北海道の開拓に大きく貢献した七重官園の事業内容や技術水準を知ることができる資料である。
渡島	七飯町	有形文化財/美工	飯田甚兵衛の地蔵	七飯町字桜町532	H3.9.30	町名表記のもととなった飯田郷の頭取飯田甚兵衛の建立した地蔵尊である。
渡島	七飯町	有形文化財/美工	富山山形別冊	七飯町字本町6丁目1番3号 (七飯町歴史館)	H17.5.13	明治初期の七重村における土地利用状況が詳細に描かれている絵図。
渡島	森町	有形文化財/美工	冷凍機械	森町字港町34	S48.9.1	大正9年、葛原猪平氏によって最新式凍結冷凍設備を有する冷蔵庫が建設され、我が国における本格的冷凍食品事業の発祥とされている。現存はコンプレッサー及びモーターの各1台である。
渡島	森町	有形文化財/美工	三界萬霊塔	森町字駒ヶ岳624	S52.2.1	文久3年(1863)に建立された高さ90cmの安山岩質の石塔である。これは、人も獣も広く生あるものを永遠に祀るために建てられたといわれる。三界とは、仏教でいう過去・現在・未来を示す。
渡島	森町	有形文化財/美工	イカ形土製品(鐮形土製品)	森町字森川町292-24(森町遺跡発掘調査事務所)	H21.7.21	縄文時代後期前半(約4,000年前)に北海道南部から東北地方で造られた祭祀・儀礼の道具。イカ形土製品は、鐮形土製品を特殊化したものであり、頭部が三角形で他の鐮形土製品よりも大きく、際だっている。森町でしか出土していない。
渡島	森町	天然記念物	行幸柳	森町字上台町(オニウシ公園内)	S42.9.13	明治14年天皇が行幸の際に植樹した高さ15m、直径1mの柳である。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	新刻日本輿地路程全図	八雲町末広町154(郷土資料館)	S44.9.18	安永4年(1775)長久保赤水制作のもので山越内閣所で使用していたといわれる。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	重訂萬國全図	八雲町末広町154(郷土資料館)	S44.9.18	明治4年、大学南校において改定出版されたもので、山越内の学校で指導用として使用された。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	刀	八雲町末広町154(郷土資料館)	S44.9.18	室町時代初期の関兼常の作である。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	鐮形土器	八雲町末広町154(郷土資料館)	S44.9.18	擦文時代のもので、熱田遺跡から出土された。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	根崎神社円空彫像	八雲町熊石根崎町384	S54.12.25	熊石には円空が滞在して仏像を作ったと言われる滞洞跡があり、この円空仏は立像で自然木を使用し、初期円空の貴重な傑作である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
渡島	八雲町	有形文化財/美工	北山神社円空彫像	八雲町熊石泊川町	S54.12.25	座像の観音像で北海道式と言われる形の典型であり、道内に現在するものの代表的な作品である。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	板状土偶	八雲町熊石雲平町325(熊石歴史記念館)	S54.12.25	昭和54年に町内の畑より偶然発見された土偶。顔の表情がはっきりしており、頭部には横に広がった穴が貫通しており、土偶としても不思議な形をしている。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	門昌庵開山柏庵和尚三脈	八雲町熊石岩町553	S54.12.25	非業の禪師、柏庵和尚のねむる寺。門昌庵から発見された。三脈は血脈とも言われ、僧職者が師から弟子に伝える大切なもので納骨の際に埋葬が原則とされ残されての発見は極めて珍しいものである。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	無量寺過去帳	八雲町熊石相沼町129	S54.12.25	1741年7月に松前大島が大噴火を起し、大津波が発生、その死者の記録が残されている。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	木喰作業者如来立像	八雲町熊石泊川町	H2.1.17	木喰行道作の立像で、寺の名前はこの業者如来立像に由来するものである。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	木喰作安地藏立像	八雲町熊石泊川町	H2.1.17	木喰行道作の立像で、病に悩む子供達の救済者として当時は人々に祈願された。
渡島	八雲町	有形文化財/美工	円空作来迎観音座像	八雲町熊石相沼町	H2.1.17	円空作座像で、この像は人々にある時は神様としある時は子供の遊び相手、病が流行した時は縄をまき引いて歩く等長い間、人々と喜怒哀楽を共にした民俗資料として価値がある。
渡島	八雲町	有形民俗文化財	家庭用澱粉製造器	八雲町末広町154(郷土資料館)	S44.9.18	明治末期から大正初期に使用された馬鈴薯をすりおろして澱粉を作る道具。
渡島	八雲町	有形民俗文化財	いも切り	八雲町末広町154(郷土資料館)	S44.9.18	明治末期から大正初期に使用された馬鈴薯をさいの目にきざむ道具。
渡島	八雲町	有形民俗文化財	鯨の骨	八雲町末広町154(郷土資料館)	S44.9.18	明治30年代にユースラップのアイヌが捕獲し、鯨祭りを行った鯨の骨。
渡島	八雲町	有形民俗文化財	木喰行道作日本廻国供養碑	八雲町熊石椋崎町398	H2.1.17	花崗石の自然石に陰刻された石碑で高さ65cm幅42cmである。昭和29年に発見され木喰行道が熊石に滞在したことを立証。歴史資料としても貴重である。
渡島	八雲町	無形民俗文化財	相沼奴	八雲町熊石相沼町	S54.12.25	伊達正宗公の道中奴をモデルとし、その所作は、赤坂の八幡神社に奉納した振りを原型とするものである。安政6年頃本州から入稼していたやん衆が行ったのがはじまりとされている。
渡島	八雲町	史跡	山越内閣所跡	八雲町山越206	S45.3.19	享和元年(1801)、東部松前の蝦夷地境が山越に移されて関門が設置され、文久元年(1861)に廃止された。
渡島	八雲町	史跡	徳川農場事務所跡	八雲町宮園町128	S45.3.19	明治11年、旧尾張藩が設置した徳川開墾試験場で、昭和23年に廃止した。
渡島	八雲町	史跡	竹内農場事務所跡	八雲町浜松168-1	S45.3.19	明治36年、竹内幸輔が開いた農場で、自然の地形を利用し、提を設けてある。
渡島	八雲町	名勝	梅村庭園	八雲町末広町151	S58.5.9	個人の庭に取り入れた池泉回遊式庭園で、梅村多十郎が大正12年頃に完成させたもの。
渡島	八雲町	天然記念物	御所の松と碑	八雲町落部332	S45.3.19	明治33年、井開風次郎が皇太子ご成婚に小熊2頭を献上したお礼に天皇より拝領したもの。
渡島	八雲町	天然記念物	奇岩雲石	八雲町熊石雲石町	H2.1.17	アイヌと和人の戦いにまつわる伝説が伝えられる。その岩の形状が雲の形をしているところから名付けられた。現在の所在地の字名「雲石」はこの岩に由来する。
渡島	長万部町	有形文化財/美工	円空作「観音菩薩坐像」	長万部町字長万部413番地	H23.3.23	寛文期(1661～1673)の間に制作された円空作像の代表的作品。
渡島	長万部町	有形民俗文化財	アイヌ民族衣装①「ルウンベ」	長万部町字長万部413番地	H23.3.23	長万部町在住アイヌ民族が実際に着用していた衣服。
渡島	長万部町	有形民俗文化財	アイヌ民族衣装②「ルウンベ」	長万部町字長万部413番地	H23.3.23	長万部町在住アイヌ民族が実際に着用していた衣服。
渡島	長万部町	有形民俗文化財	アイヌ民族衣装③「チヂリ」	長万部町字長万部413番地	H23.3.23	長万部町在住アイヌ民族が実際に着用していた衣服。
渡島	長万部町	有形民俗文化財	アイヌ民族衣装④「チヂリ」	長万部町字長万部413番地	H23.3.23	長万部町在住アイヌ民族が実際に着用していた衣服。
渡島	長万部町	有形民俗文化財	丸木舟	長万部町字長万部413番地	H23.3.23	アイヌ民族が使用していた丸木舟。昭和50年の台風の水害により偶然発見された。長さに対して幅が広いという特徴がある。船首は反りは小さく、薄手造りである。
檜山	江差町	有形文化財/建造物	檜山奉行所正門	江差町字本町71番地	S46.12.5	約380年前に檜村伐採事業取締のために設置された檜山奉行所の正門。後に、この奉行所は江差発展に大きな役割を果たした。明治15年法華寺に払下げされた。
檜山	江差町	有形文化財/建造物	旧関川家別荘	江差町字豊川町55番地	S56.7.14	関川家別荘のうち土蔵は関川家文書等から判断すると6代目関川与左衛門の時代に建設されたものと思われる。江差の経済史を物語る上でも極めて貴重な建造物である。
檜山	江差町	有形文化財/建造物	金丸家住宅母屋及び土蔵	江差町字橋本町40番地	S57.7.22	明治14年建設の本住宅は橋本屋の屋号で呉服・太物・洋反物を販売していた鈴鹿甚右衛門所有のものである。橋本町の町名発祥の住宅として貴重なものである。
檜山	江差町	有形文化財/美工	法華寺八方にみろの竜壁画	江差町字本町71番地	S46.12.5	法華寺本堂の壁画で京都の画師・池大雅の作といわれている。画の中央に頭があり、どの方向から見ても自分の方を覗んでいるといわれている。美術的価値も高い。
檜山	江差町	有形文化財/美工	阿弥陀如来像(円空仏)	江差町字泊町369番地	S52.2.17	1665年から北海道各地で仏像を彫った円空上人の作。この仏像がいつから観音寺にあったのかはあきらかではないが保存状態も非常に良好である。
檜山	江差町	有形文化財/美工	来迎観音像(円空仏)	江差町字柏町	S52.2.17	円空上人の作。江差地方の鎌が不漁になった頃、豊漁祈願のため海に投げ込まれたが再び海岸に漂着したという。顔の輪郭は、はっきりしないが保存状態は良好である。
檜山	江差町	有形文化財/美工	来迎観音像(円空仏)	江差町字尾山町	S52.2.17	円空上人の作。神社川尻に漂着したのを畑中ハツさんが自宅で祀っていた。頭部が半分かけ破損が激しい。明治35年頃神社に奉納された。
檜山	江差町	有形文化財/美工	あられ庵の句碑	江差町字姥神町98番地	S52.2.17	叡庵は松窓乙二の高弟太呂によって結社。文化11年太呂が江差に滞在中揮毫し、句碑に刻んで素心屋敷に建立。明治5年素心屋敷が焼失、昭和6年に鷗島に移された。
檜山	江差町	有形文化財/美工	江差八勝の額	江差町字姥神町98番地	S62.10.27	瀬三樹三郎は、弘化3年(1846)に江差の文人7人と、桂景を八景選定しそれぞれ詩題として作詩した。この作詩八題を額に表装し姥神大神宮に献額したものである。貴重な文化遺産である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
檜山	江差町	有形文化財/美工	子安地藏菩薩像(木喰仏)	江差町字中歌168番地	S62.10.27	子安地藏菩薩像は安永8年(1779)の作品で二百有余年もの間庶民信仰の対象として保存されており貴重な資料である。
檜山	江差町	有形文化財/美工	地藏菩薩像(木喰仏)	江差町字泊町369番地	S62.10.27	地藏菩薩立像は、安永9年(1780)の作品で初期の木喰仏らしい作風を残している。二百有余年もの間庶民信仰の対象として保存されており貴重な資料である。
檜山	江差町	有形文化財/美工	「陸民殿」の額	江差町字姥神町98番地	S62.10.27	寛政11年(1799)松前藩主13代道広は「降福孔夷」と草書にて書き姥神社に掲げた。これが因をなして奥州梁川に文化4年(1807)移封されることとなったのは、北海道史上有名な事件の一つである。
檜山	江差町	有形文化財/美工	松沢伊八翁記念碑	江差町字本町271番地	H3.11.26	松沢伊八は天保6年(1835)佐渡赤泊に生まれ慶応3年(1867)で江差で独立した。海運業に大きな業績をあげるとともに初代江差郵便局長・田畑開墾・道路改修・江差灯台建設など公益事業に大きな功績を残した。
檜山	江差町	有形文化財/美工	瓊江丸記念碑	江差町字本町271番地	H3.11.26	明治24年7月11日津軽海峡で西海岸鯨場からの帰郷客321人を乗せて航行中、新潟県の三吉丸と衝突し乗客253名、乗員8名溺死という悲惨な事件となった。犠牲者を供養するため、明治27年10月この碑が建立された。
檜山	江差町	有形文化財/美工	尾山徹三先生之墓	江差町字緑丘46番地	H3.11.26	尾山徹三先生は天保7年(1836)城下福山に生まれる。江差市で私塾江明学校・鶴島学校を開設し、明治期の教育に大きな役割と影響を与えた。明治22年、師の徳を讃える弟子達の手によって巨大な墓碑が建立された。
檜山	江差町	有形文化財/美工	開陽丸出土遺物	江差町字中歌町193番	H3.11.26	開陽丸は、1861年幕府がオランダに発注し1867年引き渡され幕府海軍軍艦となった明治元年江差沖で坐礁沈没昭和50年から引揚げた出土遺物の総数は32,905点となっている。
檜山	江差町	有形文化財/美工	贈徒五位鈴鹿基右衛門之碑	江差町字姥神町98番地	H3.11.26	6代目鈴鹿基右衛門は、文政6年(1823)江差に生まれる。私財を投じ、太田・狩場山道での開削を完成し、さらに鶴山道を開削するなど公益事業の功績により、大正5年五位を追贈されたことを記念し、碑は、大正5年曾孫・秀二郎が、町民の協賛を得て姥大神宮境内に建立した。
檜山	江差町	有形民俗文化財	船絵馬(2枚)	江差町字陣屋町9番地	S56.7.14	安政7年と明治12年に奉納されたもの、弁財船の所有者が安全を祈り奉納したもので当時の信仰の様子が理解できる。美術的価値としても貴重なものである。
檜山	江差町	有形民俗文化財	船絵馬	江差町字姥神町98番地	S62.10.27	明治12年に弁財船の所有者が、航海の安全を祈り奉納したもので、当時の信仰の様子が理解できる。美術的価値としても貴重なものである。
檜山	江差町	有形民俗文化財	祭礼山車蛭子山人形御面相及び付属品	江差町字中歌町	H12.4.19	京都人形彫師常川又右衛門の作と推定。明治29年江差町法花寺町田中龍北により修繕。町区改正により、昭和12年旧中歌町から新中歌町に引き渡し。
檜山	江差町	有形民俗文化財	祭礼山車蛭子山水引猩々緋水引	江差町字中歌町	H12.4.19	緋羅紗地に金糸等で布袋・龍・虎を描いている。明治元年、旧九艘川町住宅の豪商岸田三右衛門が京都の呉服織物問屋糸屋忠蔵に依頼制作。
檜山	江差町	有形民俗文化財	祭礼山車豊年山水引唐子春秋之図	江差町字姥神町	H12.4.19	各種色糸の刺繍にて図柄を描き、主要図柄は中に錦を入れて盛り上げ、四方を緋羅紗地に緑取りし、紫色の房が付く。昭和55年、京都宇佐美松鶴堂にて修復。
檜山	江差町	有形民俗文化財	祭礼山車豊年山水引日本三景之図	江差町字姥神町	H12.4.19	日本三景が緋羅紗に刺繍されている。四方の縁は緑色の緋羅紗でしてられている。明治45年、中歌町蛭子山にて制作。
檜山	江差町	有形民俗文化財	祭礼山車聖武山人形御面相及び付属品	江差町字橋本町	H12.4.19	祭礼山車の人形で、明治22年に大阪の大江良助によって作られた。
檜山	江差町	無形民俗文化財	江差土場鹿子舞	江差町字柳崎町地区	S48.2.5	厚沢部川口の土場で伐採によって発生。鹿子は三頭で前半は神事、後半は雌鹿子争い、中間に木々振り舞いがある。津軽鹿子の影響を強く受けている。
檜山	江差町	無形民俗文化財	江差田沢鹿子舞	江差町字田沢町地区	S48.2.5	数人の若者がヤマメを取りに谷川へ出かけた折、5頭の鹿がたわむれているのを見て舞いにまとめたという。構成は、五勝手鹿子舞と同じであるが鹿子頭が異なる。
檜山	江差町	無形民俗文化財	江差鹿子舞	江差町字豊川町地区	S48.2.5	豊部内の檜山で杜夫によって山岳信仰と結合して発生した鹿子は三頭で雌鹿子争いが主観であり、南部鹿子の影響を強く受けている。
檜山	江差町	無形民俗文化財	江差鉦踊り	江差町旧五勝手地区	H3.11.26	五勝手地域という漁業従事地域に発生し古くから盆踊りの形態をとおして伝承されてきた。
檜山	江差町	無形民俗文化財	江差追分踊り	江差町全域	H7.6.13	江差追分踊りは、文化文政(1804～1829)の頃、江差経済繁栄のなかで座敷踊りとして、芸妓の間で踊られたのが創始といわれている。
檜山	江差町	史跡	戊辰の役戦死者の墳墓地	江差町字松の壘	S46.12.5	明治元年11月から2月5日まで、榎本武揚との戦いで戦死した政府方の墳墓である。松前藩士や水戸藩士92名の墓があり、本道黎明期における歴史的価値が高い。
檜山	江差町	史跡	かもめ島砲台跡(南北2カ所)	江差町字鷗島	S56.7.14	嘉永5年松前藩が外国から侵略を防ぐため設置した。現在はその跡だけが残されているが、藩政時代の沿岸警備の様子を知るうえで貴重な資料である。
檜山	江差町	史跡	北前船飲用井戸	江差町字鷗島	S57.7.22	江差町の歴史の中で北前船の活躍は欠かすことのできない重要なものであり、この井戸の果たした役割は非常に大きなものである。
檜山	江差町	史跡	北前船係船柱及び同跡(かもめ島周辺)	江差町字鷗島	S57.7.22	鷗島に係船するために江差商人の手によって設置したのがこの係船柱及び同跡であり、江差の経済を支えた北前船の資料として貴重なものである。
檜山	上ノ国町	有形文化財/建造物	上ノ国八幡宮本殿	上ノ国町字勝山	S55.11.8	文明5年(1473)武田信広が勝山館に館神として創建。本殿は、明和7年(1770)建立。現在ある神社建築では、本道最古に属する。
檜山	上ノ国町	有形文化財/建造物	清浄寺本堂	上ノ国町字上ノ国	H5.8.10	松前専念寺により建てられた掛所道場のひとつで専念寺10世了幻のとき、明和3年5月に落成されたという。道南各地に建てられた掛所道場の実態を示す数少ない遺構として貴重である。
檜山	上ノ国町	有形文化財/建造物	久末家住宅主屋・物置	上ノ国町字中須田	H5.8.10	創建を証する資料はないが、和釘が用いられていることから江戸末期頃と考えられる。歴史上極めて価値の高いものである。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	紺糸威胴丸	上ノ国町字大留	S47.9.11	山上八郎氏二よと「江戸時代中期室歴頃のもの。万石以上の格式を備えた作りであり松前藩主着用の品であらう」としている。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	円空作仏像観音座像	上ノ国町字北村	S60.7.23	江戸時代の代表的造仏像である円空は北海道にわたり多数の仏像を作った。町内には6体が確認されている。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	円空作仏像観音座像	上ノ国町字木ノ子	S60.7.23	江戸時代の代表的造仏像である円空は北海道にわたり多数の仏像を作った。町内には6体が確認されている。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	円空作仏像観音座像	上ノ国町字石崎	S60.7.23	江戸時代の代表的造仏像である円空は北海道にわたり多数の仏像を作った。町内には6体が確認されている。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	円空作仏像観音座像	上ノ国町字大留	S60.7.23	江戸時代の代表的造仏像である円空は北海道にわたり多数の仏像を作った。町内には6体が確認されている。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	絵画(掛軸)(裏書輪島屋太左衛門)	上ノ国町字小砂子	H1.2.23	安政2年松前藩領上知に際し、松前城下在村々の名主等の有力者が復讐運動に奔走した。本資料は安政4年復讐に尽くした有力者等に裏書を付して、輪島屋太左衛門名をもって藩主松前崇広より下賜された。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	絵画(掛軸)(裏書輪島屋太左衛門)	上ノ国町字大留	H1.2.23	安政2年松前藩領上知に際し、松前城下在村々の名主等の有力者が復讐運動に奔走した。本資料は安政4年復讐に尽くした有力者等に裏書を付して、輪島屋太左衛門名をもって藩主松前崇広より下賜された。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	絵画(掛軸)(裏書輪島屋太左衛門)	上ノ国町字上ノ国	H1.2.23	安政2年(1855)松前藩領上知に際し、松前城下在村々の名主等の有力者が復讐運動に奔走した。本資料は安政4年(1857)復讐に尽くした有力者等に裏書を付して、輪島屋太左衛門名をもって藩主松前崇広より下賜された。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	書(掛軸)(裏書輪島屋太左衛門)	上ノ国町字大留	H1.2.23	安政2年(1855)松前藩領上知に際し、松前城下在村々の名主等の有力者が復讐運動に奔走した。本資料は安政4年(1857)復讐に尽くした有力者等に裏書を付して、輪島屋太左衛門名をもって藩主松前崇広より下賜された。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	書(掛軸)(裏書輪島屋太左衛門)	上ノ国町字勝山	H1.2.23	安政2年(1855)松前藩領上知に際し、松前城下在村々の名主等の有力者が復讐運動に奔走した。本資料は安政4年(1857)復讐に尽くした有力者等に裏書を付して、輪島屋太左衛門名をもって藩主松前崇広より下賜された。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	書(掛軸)(裏書輪島屋太左衛門)	上ノ国町字勝山	H1.2.23	安政2年(1855)松前藩領上知に際し、松前城下在村々の名主等の有力者が復讐運動に奔走した。本資料は安政4年(1857)復讐に尽くした有力者等に裏書を付して、輪島屋太左衛門名をもって藩主松前崇広より下賜された。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	書(掛軸)(裏書輪島屋太左衛門)	上ノ国町字木ノ子	H1.2.23	安政2年(1855)松前藩領上知に際し、松前城下在村々の名主等の有力者が復讐運動に奔走した。本資料は安政4年(1857)復讐に尽くした有力者等に裏書を付して、輪島屋太左衛門名をもって藩主松前崇広より下賜された。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	書(松前氏13代道広筆)	上ノ国町字勝山	H5.8.10	道広が八幡宮に奉納したもの。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	書(松前氏14代章広筆)	上ノ国町字勝山	H5.8.10	松前藩領上知を解かれ梁川より帰国した章広が復讐奉養のため八幡宮に奉納したものである。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	書(掛軸)(松前氏14代章広筆)	上ノ国町字大留	H5.8.10	章広が天保3年(1832)町内字石崎の牧場を巡視の時詠んだ俳句3句が記されている。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	チカルカルベ(木綿衣)	上ノ国町字大留	H5.8.10	生地は厚手の縮木綿。裏に「西川堅作」の記載あり。衿と袖口の文様は樺太のアイヌ衣服であるアットウシに似ている。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	マエタレ(前掛け)	上ノ国町字大留	H5.8.10	生地はオヒョウ。切り伏生地は紺木綿。裏に「上ノ国六年笹浪キサ(旧笹浪家11代当主久英氏の母)」の記載あり。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	テタラベ(草皮衣)	上ノ国町字大留	H5.8.10	生地はイラクサまたは麻。切り伏生地は紺木綿。刺繍糸は白。紺木綿。縫い糸はイラクサ、白木綿裏に「上ノ国六年笹浪キサ(旧笹浪家11代当主久英氏の母)」の記載あり。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	マエタレ(前掛け)	上ノ国町字大留	H5.8.10	生地はオヒョウ。切り伏生地は紺木綿。裏に「西川堅作」の記載あり。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	チカルカルベ(木綿衣)	上ノ国町字大留	H5.8.10	生地は茶格子木綿、衿は紺木綿。切り伏生地は古い紺木綿。刺繍糸は、縫い糸は紺木綿。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	アッシ(樹皮衣)	上ノ国町字北村	H5.8.10	生地はオヒョウ。刺繍糸は、紺木綿。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	マエタレ(前掛け)	上ノ国町字北村	H5.8.10	生地はオヒョウ。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	チカルカルベ(木綿衣)	上ノ国町字大留	H5.8.10	生地は茶格子木綿、切り伏生地は古い紺木綿。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	蝦夷錦(袱紗)	江差町字柏町106-1	H9.2.24	能登屋旧笹浪家の所蔵品。江戸時代に山丹交易によりもたらされたと思われる絹製袱紗(縦63.0cm、横65.6cm)。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	アイヌ絵巻	上ノ国町字大留	H9.2.24	旧笹浪家所蔵品であり、江戸時代における上ノ国の歴史を知る上で貴重である。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	短刀 銘 助光及び拵一式	上ノ国町字北村	H9.2.24	旧笹浪家所蔵品であり、江戸時代における上ノ国の歴史を知る上で貴重である。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	松前ぼっかくの墓	上ノ国町字石崎471番地	H13.6.5	齋藤流松前家の松前平角源則忠の墓。寛政元年のクナシリ・メナシの戦いに出陣。寛政3年には高橋社四郎らとともに樺太を調査し、樺太見聞書を著している。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	赤門の墓	上ノ国町字木ノ子474-4	H13.6.5	蠣崎将監廣当の墓と伝えられる。
檜山	上ノ国町	有形文化財/美工	南條の墓	上ノ国町字桂岡51番地	H13.6.5	南條安右衛門若しくは南條越中廣継の墓と伝えられている。南條家の祖季継は知内町の藩本の館主と知られ、後に子孫は松前家に仕えた。廣継は天文17年勝山の城代となり、安右衛門包元は享保18年から寛保2年まで寺社奉行を勤めた。
檜山	上ノ国町	有形民俗文化財	円空作仏像観音座像	上ノ国町字上ノ国	S60.7.23	この仏像は像の一部を護符等として削ったり、子供達が遊び相手にした等との言い伝えも残されており、そうした当町における庶民信仰の過程を伝えるものとして貴重である。
檜山	上ノ国町	無形民俗文化財	大留鹿子舞	上ノ国町字大留	S50.12.13	開拓当時大留地区の人々が大千軒岳に住むという鹿を形どり、集落の平和、五穀豊穡を祈願して大留山神社に奉納したのが創始と伝えられる。
檜山	上ノ国町	無形民俗文化財	石崎奴	上ノ国町字石崎	S57.9.10	江戸時代から伝えられている字石崎地区の無形文化財である。石崎八幡神社の祭典に毎年奉納されている。
檜山	厚沢部町	無形民俗文化財	土橋鹿子舞	厚沢部町字富栄	H17.4.26	元禄年間に、江差町豊部内山中で鹿の不思議な動きを模して踊りが創作されたと伝えられ、文化5年に江差市中で土橋の鹿子舞が踊られていたとの記録がある。明治34年に町内沼ノ沢へ鹿子分けがなされた。踊りの動作に神楽の足運びが取り入れられているといわれる。ソバまきという独特の動作があることが特徴である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
檜山	厚沢部町	無形民俗文化財	上俄虫鹿子舞	厚沢部町字上里	H17.4.26	文化年間に陸奥国福島から伝来したとされる。陸奥国のある集落で鹿子頭がひとりてに踊っていたことが目撃され、不吉に感じた村人が鹿子頭を川に流してしまつたところ、集落で不幸が続いたという。この話を伝え聞いた上俄虫の人々が、鹿子の祟りを鎮めるため、鹿子分けを受けたことが由来とされる。
檜山	厚沢部町	無形民俗文化財	安野呂鹿子舞	厚沢部町字滝野	H17.4.26	東北地方の大名(又は天皇)の病を治すために犠牲となった鹿の霊を慰める目的で、山で目撃された鹿の動きを取り入れて踊りを創作したとされる。明治40年に町内の赤沼集落へ鹿子分けがされた。
檜山	厚沢部町	無形民俗文化財	当路鹿子舞	厚沢部町字当路	H17.4.26	明治30年頃に木材の流送などで関わりのあった厚沢部川下流の土場集落から鹿子分けがされた。明治40年頃に踊りが改良され、現在の激しい中腰踊りとなった。
檜山	厚沢部町	無形民俗文化財	目名権現獅子舞	厚沢部町字美和46	H21.4.24	神楽系獅子舞の中でも権現舞を演目の中心とする「修験系」と称される類である。美和(旧大字目名村)集落の草分けは天正年間に定住した若狭出身の六右衛門、金蔵の二人と言われている。獅子舞の由来については確実な伝承は存在しないが、美和集落の奥の山に住んでいた「行者」がこの芸能を伝えたという言い伝えがある。
檜山	乙部町	有形文化財/美工	蝦夷錦七条袷袋	乙部町字緑町386番地	H10.3.3	本体の裏打ちには、明治7年に能代権次郎が施主となり父治兵衛の法名をもらった事が記されている。
檜山	乙部町	有形文化財/美工	享保七年銘喚鐘(半鐘)	乙部町字栄浜367番地	H13.3.9	宮歌文書に、龍宝寺の前身の清順庵は熊野三社守護のため享保3年に創建とあり、当時の大茂内村の状況が記載してある。
檜山	奥尻町	有形文化財/建造物	宮津井天宮	奥尻町字宮津83番地	H11.7.26	奥尻最古の祭祀場である、弁天島に立地。
檜山	奥尻町	有形文化財/美工	丁字頭勾玉	奥尻町字奥尻36番地(奥尻島津波館内)	H21.12.22	北日本で最大級の勾玉であり、丁字頭は北日本で唯一の出土例である。形状や特徴から弥生時代の西日本に由来する可能性がきわめて高い一級品の丁字頭勾玉である。糸魚川産のヒスイ原石を用いた丁字頭勾玉は近畿地方を中心とする西日本に多く発見され、古代における日本海交易の結果、奥尻島にもたらされたと考えられる。
檜山	奥尻町	名勝	鍋釣岩	奥尻町字奥尻	H11.7.26	石質安山岩からなり、自然浸食によって空洞になっている、形が鍋の釣り掛けに似た奇岩。
檜山	今金町	有形文化財/美工	美利河遺跡出土品	今金町字今金字美利河228-1	H3.5.9	国指定重要文化財をのぞく約11万点の石器類。
檜山	今金町	天然記念物	ピリカカイギュウ化石	今金町字今金303-1	H6.12.14	約120万年前の哺乳類化石32個他。
檜山	せたな町	有形文化財/美工	兜(明珍信家作)	せたな町北檜山町字徳島63-1	H15.12.25	この兜は、当時開拓の祖、丹羽家に重代の家宝として伝えられてきたもので、会津藩が戊辰戦争の役に敗れ、会津若松開城まで丹羽五郎翁が使用していたものである。
檜山	せたな町	有形文化財/美工	青い目の人形	せたな町北檜山町字徳島63-1	H15.12.25	平成2年5月10日、日米親善の証として、「青い目の人形 ルイーズ・アルコット嬢」がアメリカの子どもたちから贈られたものである。
檜山	せたな町	有形文化財/美工	荻野吟子の遺品・資料	せたな町北檜山町字徳島63-1	H17.8.9	明治18年、日本で公式に試験を受けて合格した日本の女医第1号「荻野吟子」の遺品と資料。
檜山	せたな町	有形民俗文化財	阿波浄瑠璃人形	せたな町北檜山町字徳島63-1	H15.12.25	嘉永元年(1948)から文久年間[1861~1863]の桐造りといわれる作品で、目、眉、口まで微妙に操作できる精巧なものである。
檜山	せたな町	無形民俗文化財	久遠神楽	せたな町大成町字都427	S59.1.7	武士の奮戦の模様を舞踊化したもので、戦場における、かけひき、戦意を示し、激戦を交えた当時の祖先の勇武を再現し、鎮魂除災の意を含めた踊りで、豊年を祈願している。
上川	旭川市	有形文化財/建造物	上川郡農作試験所事務所棟	旭川市神居1条1丁目	S41.1.15	上川地方に現存する最古の建物で、明治19年8月道庁の農作試験所として建設された。
上川	旭川市	有形文化財/建造物	永山屯田兵屋	旭川市神楽3条7丁目(旭川市博物館)	S45.7.6	兵屋番号332。明治23~24年に永山に建設された400戸の屯田兵屋の一つ。
上川	旭川市	有形文化財/建造物	養蚕民家	旭川市東旭川町瑞穂1576-1	S48.3.19	明治31年に入植した福島団体の一員が、明治42年に郷里の養蚕民家を模して建てたもの。
上川	旭川市	有形文化財/建造物	旧神居古澤駅舎	旭川市江丹別町春日197-1	H3.3.15	明治43年に建設され、平成元年度に復元が行われた。明治時代の駅舎建築として貴重。
上川	旭川市	有形文化財/美工	旭川兵村中隊記録及び屯田物語原画綴	旭川市東旭川南1条6丁目 旭川兵村記念館	S56.2.20	明治25年に配置された第3大隊第3中隊・第4中隊の実態と、屯田生活様式を明らかにする資料。
上川	旭川市	有形文化財/美工	錦町5遺跡出土の斧柄	旭川市神楽3条7丁目(旭川市博物館)	S61.8.20	擦文時代(約1000年前)の旧河川跡から出土。木製品の稀な出土例。
上川	旭川市	有形文化財/美工	蕨手刀	旭川市神楽3条7丁目(旭川市博物館)	S61.8.20	昭和20年頃に恵庭市で発見されたもので、保存状態もよく擦文時代を考えるうえで貴重な資料。
上川	旭川市	有形文化財/美工	第七師団関係記録	旭川市春光町無有無番地 陸上自衛隊旭川駐屯地 北鎮記念館	H18.3.30	「師団歴史」(明治2~昭和20年)、「満洲駐塔間留守師団歴史」(大正6~昭和15年)、「樺太守備隊司令部歴史」(明治38~大正2年)
上川	旭川市	有形文化財/美工	知里幸恵遺稿ノート	旭川市神楽3条7丁目 旭川市博物館	H18.3.30	「アイヌ神謡集」の著者・知里幸恵の草稿ノート(大正9年11月~大正10年3月?)。
上川	旭川市	有形文化財/美工	旭川兵村中隊記録	旭川市東旭川南1条6丁目 旭川兵村記念館	H18.3.30	「第七師団屯田歩兵第三大隊第四中隊履歴」ほか25冊
上川	旭川市	史跡	近文山園見の碑	旭川市江丹別町嵐山公園内	S41.1.15	明治18年8月に、後の北海道初代長官岩村通俊と屯田兵本部長永山武四郎らが近文山頂から未開の平野を国見し上川開拓を決意したのを記念して、明治19年岩村が建立させたもの。
上川	旭川市	天然記念物	梅の木	旭川市東旭川町米原(旭川第一小学校庭)	S41.1.15	樹齢が100年を越えると推定される梅の木。樹齢とその巨大な点において上川地方では稀有なものである。
上川	旭川市	天然記念物	神居古澤おう穴群	旭川市神居町神居古澤石狩川河川敷	S41.7.25	神居古澤変成岩が石狩川に浸食された部分に見られ、7つの群をなして分布している。
上川	士別市	有形文化財/建造物	士別屯田兵屋	士別市西士別町ふどう公園	S53.7.19	士別は明治32年7月、北海道最後の屯田入植によって開発された。屯田兵屋は川津万次郎氏宅(兵屋番号67番)で、昭和44年、九十九山の士別神社境内に復元し、その後博物館横の現在地に移転した。内部には当時のタンスや戸棚、官給品の自在鉤や鉄瓶、農機具などの展示をしている。屋根の煙出しや無双窓などが特徴だが、酷暑の冬季をしのぐにはあまりにも粗末な造りで、開拓期の苦勞を物語っている。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
上川	士別市	史跡	上士別遺跡	士別市上士別町13線南14番地	S53.7.19	縄文時代前期(推定5,000年前)の住居址。昭和46年の発掘調査で平地式住居址4基、平地式貼床住居址1基、仕事場や炉穴などが発見された。住居が堅穴式でないことや炉跡や貯蔵穴が屋外にあることから、越冬生活をしては考えにくく、夏場の狩猟時期だけ居住していたものと推定される。また、周囲から土器、石器が数多く出土した。
上川	士別市	天然記念物	祖神の松	士別市西士別町学田道有林	H6.7.1	幹回り7.5m、直径2.4m、樹高18mのイチイの銘木。樹齢1千数百年と推定され、古くから林業関係者の中で山の守り神と崇められている。昭和49年、北海道記念保護樹木に指定され、平成2年に環境庁が実施した日本の巨樹・巨木林調査「イチイの部」で全国2位、全道1位となった。
上川	士別市	無形民俗文化財	瑞穂獅子舞	士別市朝日町中央4071番地 瑞穂獅子舞伝習館	S44.9.16	朝日町は明治38年から入植が始まった。その多くは富山県から移住してきたこともあり、ふるさとの伝統文化である越中獅子舞の技能をもちより創舞した。大正5年に奥士別御料地開拓に心血を注いだ先人有志の手によって奥士別神社祭典に五穀豊穡と悪魔払いの願いを込めて、奉納されたのが始まりとされている。
上川	名寄市	有形文化財/建造物	日本基督教団名寄教会堂	名寄市大通南2丁目	H14.11.27	明治42年(1909)に建設され、市内で現存する最古の木造洋風建築。
上川	名寄市	天然記念物	名寄公園のミズナラ林	名寄市字緑丘3番地	H14.11.27	公園と周囲の推定樹齢100年～150年のミズナラ林で約10%に純林的な林相で広がっている。
上川	名寄市	天然記念物	グイマツ	名寄市風連町字東風連	S53.4.1	大正時代に住んでいた人が、水耕に転換した事を記念して寄贈した10本のうちの1本。指定時推定樹齢67年。
上川	名寄市	無形民俗文化財	風連獅子舞	名寄市風連町	S52.4.1	下多寄地区に伝わる獅子舞。風連獅子舞保存会が伝承している。
上川	富良野市	史跡	北海道中央経緯度観測標	富良野市若松町10番1号(富良野小学校校庭)	S46.7.13	1914年(大正3年)、後の京都大学教授新城新蔵博士が中心となり、地球重力・経緯度の測定のため、富良野小学校校庭に長さ95cm・幅65cmの長方形のコンクリートの台座を建てた。この地点が北海道の中心にあたることから「北海道中心標」と呼ばれ、俗に「北海道のへそ」として市民に親しまれている。毎年、7月28・29日には「北海へそ祭り」が盛大に行われている。
上川	富良野市	史跡	北大第八農場富良野成聖記念碑	富良野市中五区(天満宮境内)	H15.12.22	北大第八農場は、当時の札幌農学校校長佐藤昌介の献言により富良野盆地の一部を所管して開墾が始まり、成聖記念碑は、1909年(明治42)、開墾がほぼ完了したのを記念して、小作人たちが苦しい生活の中、資金を拠出して建立した市内最古の歴史的な碑である。除幕式は、山部記念碑が1909年(明治42)6月8日、富良野記念碑が同年7月7日に、佐藤昌介学長、南廬次郎農場長らの臨席のもと、盛大に挙行された。
上川	富良野市	史跡	北大第八農場山部成聖記念碑	富良野市山部(山部神社境内)	H15.12.22	北大第八農場は、当時の札幌農学校校長佐藤昌介の献言により富良野盆地の一部を所管して開墾が始まり、成聖記念碑は、1909年(明治42)、開墾がほぼ完了したのを記念して、小作人たちが苦しい生活の中、資金を拠出して建立した市内最古の歴史的な碑である。除幕式は、山部記念碑が1909年(明治42)6月8日、富良野記念碑が同年7月7日に、佐藤昌介学長、南廬次郎農場長らの臨席のもと、盛大に挙行された。
上川	富良野市	無形民俗文化財	富良野獅子舞	富良野市山部東21線12番地 (富良野市生涯学習センター内)	S44.2.19	富良野市学田三区に入植した農民により伝承された大型の越中獅子舞。明治42年から始まり「学田三区獅子舞」として市民に親しまれたが、戦後、若者の流出のため中断した。昭和44年、富良野工業高校生によって復活し、「富良野獅子舞」と改名した。現在、市街の青年の人々により伝承されている。
上川	鷹栖町	史跡	治水の碑	鷹栖町13線9号	S59.8.30	蛇行乱流するオサラツベ川を改修しようとする沿岸住民が中心になって鷹栖土組組合を組織し、6年間余りに渡る難工事の末、大正15年に完了した。これを記念し、昭和2年に建立。
上川	鷹栖町	無形民俗文化財	北野神社獅子舞	鷹栖町14線3号	S53.12.12	石川県から伝わった雄雌2頭の獅子を持っていた富山県東野尻村神明社より、明治31年、北野神社建立の際雄獅子を譲り受け町文化財の第1号となる。
上川	当麻町	有形文化財/建造物	忠魂堂	当麻町中央7区	H2.12.21	明治40年、日清・日露戦後における戦病死者の英霊と屯田兵物故者追悼のため陸軍省より発布された忠魂堂位追悼の事により忠魂堂名録その他を奉祀するために建てられた。
上川	当麻町	有形文化財/建造物	誓王寺	当麻町中央7区	H2.12.21	大正9年9月7日完成。安部辰衛氏作の彫刻や建築技術は現在残っている氏の作品の中でも粹を極めているといっても過言ではない。大正初期時代の寺院建築として歴史的価値が高いと評価されている。
上川	当麻町	有形文化財/建造物	誓王寺鐘楼	当麻町中央7区	H2.12.21	鐘楼としては町内唯一のものである。昭和5年5月に築造されている。歴史的芸術的価値が高いと評価されている。
上川	当麻町	史跡	旧当麻神社跡丘陵地	当麻町中央1区	H2.12.21	明治26年5月10日、この地から当麻の開拓が始まった場所です。翌27年5月5日「富麻神社」と命名した1尺角の標木を建てた。翌年11月には、ヤチダモによる7.5m程の神殿が建てられた。
上川	愛別町	無形文化財	愛別岐阜獅子神楽	愛別町	S46.10.1	岐阜県大野郡荘川村ほか4村から愛別に団体移住した入植者達らが、奥社白山神社に伝わっていた神楽で故郷をしのび、農作業の合間に舞ったというもので、五穀豊穡、無病息災を祈る舞。現在、保存会により伝承されている。
上川	東川町	有形文化財/建造物	相馬妙見宮	東川町8丁目2-2	S46.10.1	明治33年、郷土の開拓先駆者、細川久八氏が名工の技術を尽くして、切込み建立したものである。御神体は、天神中主神の分身で、産業を司る大御神であるが、社は小造りであり、富造りとして技術的な建物で価値がある。
上川	東川町	有形文化財/建造物	土蔵	東川町西7号北45番地	S60.4.1	この土蔵の建設年次は、明らかではないが、推定では大正10～11年頃に建築されたものであるといわれている。構造は、木造2階建てで、外壁は土つくい壁、下見板張りであり、外壁と内壁の間に砂をつめているところに特徴がある。建築時の原形をそのままとどめており、建築様式として貴重な建物である。
上川	東川町	有形文化財/建造物	明治の家	東川町1丁目15番	S62.11.11	明治44年、香川県人、尾田松造氏が東川町西7号南5番地に民家として建築。以後、家人に代々受け継がれ、途中何回か増改築があるものの当時の原形をとどめ今日に至っている。
上川	東川町	有形文化財/建造物	大正の家	東川町西5号北44番地(キトゥン森林公園)	H18.7.21	大正14年、棟梁菅原徳助が建築。木造入母屋茅葺造としては、北海道では珍しい。平成2年、所有者が町に寄付、青少年の体験学習施設として解体移築。
上川	東川町	有形文化財/美工	聖徳太子像	東川町北町8丁目2-9	S46.10.1	無名の佛師、福山齋堂の作りである。聖徳太子が16歳の時の姿を彫ったものであり、芸術的な価値がある。
上川	東川町	有形文化財/美工	開拓記念碑	東川町西2号北31番地	S46.10.1	明治27年、佐々木定多氏が北海道開拓を志し、富山団体を組織し団体長となり、明治28年東川に入植、これを記念し建立されたものである。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
上川	東川町	有形文化財/美工	園田仁右衛門翁碑	東川町西7号北36番地	S46.10.1	広部農場管理の功に感謝し、建立されたものである。園田仁右衛門氏は、明治28年移住団体60戸の長として、胆振有珠郡に來たが、明治31年東川に移住、開拓に従事した。
上川	東川町	有形文化財/美工	岡本篤太郎氏碑	東川町西7号北48番地	S46.10.1	明治28年4月、徳島県海部郡中木頭村より、移住団体27戸の長として東川に入植。数多くの功を残した。これに感謝し建立されたものである。
上川	東川町	有形文化財/美工	開拓記念碑	東川町北町4丁目1-3	S46.10.1	明治28年、日比野堅次郎氏が北海道開拓を志し、愛知県より北海道に渡り、翌29年忠別原野に移住。これを記念して建立されたものである。
上川	東川町	天然記念物	五葉松(ヒメコマツ)	東川町西町9丁目17-1	S44.11.23	この木は、宅地内にあり、指定時推定樹齢約80年以上と見られる。高さ3m、木廻り0.65m。
上川	東川町	天然記念物	いちい	東川町西2号北31番地	S44.11.23	この木は、瑞宝寺敷地内にあり、指定時推定樹齢約280年以上と見られる。高さ18m、木廻り2.02m。
上川	東川町	天然記念物	シンバク	東川町3号北18番地	S44.11.23	この木は、宅地内にあり、指定時推定樹齢約100年以上と見られる。高さ2m、木廻り0.37m。
上川	東川町	天然記念物	かしわ(群生)	東川町西1丁目6-2	S44.11.23	この木は、東川神社境内に散在し、指定時推定樹齢約250〜260年と見られる。
上川	東川町	天然記念物	まいたや	東川町西2号北2番地	S44.11.23	この木は、宅地内にあり、指定時推定樹齢150年以上と見られる。高さ18m、木廻り2.74m。
上川	東川町	天然記念物	はい松	東川町西3号北21番地	S44.11.23	この木は、宅地内にあり、指定時推定樹齢130年以上と見られる。高さ2.50m、木廻り0.40m。
上川	東川町	天然記念物	いちい	東川町南町2丁目4-2	S44.11.23	この木は、宅地内にあり、指定時推定樹齢300年以上と見られる。高さ12m、木廻り2.50m。
上川	東川町	天然記念物	いちい	東川町西11号北32番地	S51.10.1	この木は、宅地内にあり、指定時推定樹齢280年以上と見られる。高さ20m、木廻り2.60m。
上川	東川町	天然記念物	ミズナラ(群生8本)	東川町東4号北23番地	H5.9.2	この木は、工場地内公園内にあり、指定時推定樹齢275〜154年と見られる。
上川	東川町	無形文化財	東川氷土会	東川町東町1丁目3番11号	H21.3.26	昭和40年12月に氷彫刻に魅せられた志を同じくする者で結成、日本の氷彫刻は、氷土会の創設者が中心となって日本氷彫刻会を立ち上げた経緯もあり、数々の受賞歴もある。40余年継続してきた氷彫刻の技術等は、特に貴重なものである。
上川	東川町	無形民俗文化財	北海道東川町郷土芸能羽衣太鼓保存会	東川町西6号北40番地	H21.3.26	昭和44年に有志が集まり発足、郷土の自然を表現した局の数々、北海道史跡名勝天然記念物に指定されている、町の「羽衣の滝」の流れのようなパズ裁きから「羽衣太鼓」と命名され40周年を迎えた。その間、次世代へと確実に伝承され数々の受賞歴もある。ふるさと東川を太鼓で表現する「羽衣太鼓」は、郷土芸能として特に貴重なものである。
上川	美瑛町	有形文化財/美工	高橋北修 筆「絵画」(6点のうち1)	美瑛町本町3丁目5番15号(美瑛町郷土資料館)	H6.6.1	当絵画にあつては、美瑛町開拓50周年の昭和24年に「町の歴史を絵で」残すということで、町が旭川出身の高橋北修氏に依頼して描かれた作品の内の6点で、入植の様子や凶作、災害などの状況を絵で著したもので近世画として町の歴史上又は芸術上価値の高い作品である。
上川	美瑛町	有形文化財/美工	高橋北修 筆「絵画」(6点のうち2)	美瑛町本町3丁目5番15号(美瑛町郷土資料館)	H6.6.1	当絵画にあつては、美瑛町開拓50周年の昭和24年に「町の歴史を絵で」残すということで、町が旭川出身の高橋北修氏に依頼して描かれた作品の内の6点で、入植の様子や凶作、災害などの状況を絵で著したもので近世画として町の歴史上又は芸術上価値の高い作品である。
上川	美瑛町	有形文化財/美工	高橋北修 筆「絵画」(6点のうち3)	美瑛町本町3丁目5番15号(美瑛町郷土資料館)	H6.6.1	当絵画にあつては、美瑛町開拓50周年の昭和24年に「町の歴史を絵で」残すということで、町が旭川出身の高橋北修氏に依頼して描かれた作品の内の6点で、入植の様子や凶作、災害などの状況を絵で著したもので近世画として町の歴史上又は芸術上価値の高い作品である。
上川	美瑛町	有形文化財/美工	高橋北修 筆「絵画」(6点のうち4)	美瑛町本町3丁目5番15号(美瑛町郷土資料館)	H6.6.1	当絵画にあつては、美瑛町開拓50周年の昭和24年に「町の歴史を絵で」残すということで、町が旭川出身の高橋北修氏に依頼して描かれた作品の内の6点で、入植の様子や凶作、災害などの状況を絵で著したもので近世画として町の歴史上又は芸術上価値の高い作品である。
上川	美瑛町	有形文化財/美工	高橋北修 筆「絵画」(6点のうち5)	美瑛町本町3丁目5番15号(美瑛町郷土資料館)	H6.6.1	当絵画にあつては、美瑛町開拓50周年の昭和24年に「町の歴史を絵で」残すということで、町が旭川出身の高橋北修氏に依頼して描かれた作品の内の6点で、入植の様子や凶作、災害などの状況を絵で著したもので近世画として町の歴史上又は芸術上価値の高い作品である。
上川	美瑛町	有形文化財/美工	高橋北修 筆「絵画」(6点のうち6)	美瑛町本町3丁目5番15号(美瑛町郷土資料館)	H6.6.1	当絵画にあつては、美瑛町開拓50周年の昭和24年に「町の歴史を絵で」残すということで、町が旭川出身の高橋北修氏に依頼して描かれた作品の内の6点で、入植の様子や凶作、災害などの状況を絵で著したもので近世画として町の歴史上又は芸術上価値の高い作品である。
上川	美瑛町	史跡	旧陸軍演習場敵舎門柱	美瑛町西町1丁目1番1号(美瑛小学校敷地内)	H9.5.13	明治40年2月14日陸軍演習場規則の発布に伴い、旧陸軍第7師団が創設され、昭和20年まで存在していた。演習場の兵舎、連隊本部等敵舎敷地入口の門柱として建造されたもので演習場の歴史を残す数少ない遺品であり、本町資料として価値が高いと認められる。
上川	上富良野町	有形文化財/建造物	東中尋常高等小学校御神影奉置所	上富良野町東8線北18号	S48.6.15	大正天皇の即位に際し、東中尋常高等小学校校庭に造営、大正12年当該小学校の火災により、現東中小学校校庭に移設、昭和16年10月に、紀元2600年記念事業で同窓会は、木造奉安殿を寄贈したことにより本建築物は倍本熊野神社本殿となり、昭和39年2月熊野神社と八幡神社との神体合祀により、神社としての使命を終え、現在八幡神社境内に保存されている。
上川	上富良野町	史跡	憩の楡跡の碑	上富良野町西3線北29号	S55.2.26	明治30年4月、未開の地であった富良野原野に初めて三重県から上富良野町分地区に団体が移住し、開拓の礎をおろした。その時に田中常次郎他8名の先発隊が1本の楡の木の下で一夜を過ごしたことを記念して「憩いの楡」を刻まれた石碑を建て、当時をしのんでいる。
上川	上富良野町	史跡	富原地区の地神及び山の神	上富良野町東7線北24号	S55.12.9	上富良野郷土資料研究会は、この「地神及び山の神」は、依然旭川永山農場内にあり、ここから現在の富原地区へ移住した四国出身者により創祀されたものと研究報告した。この報告を受け、調査した結果、これらが富良野地方で最も古い史跡であることの結論が得られ、町指定文化財となった。
上川	中富良野町	無形文化財	大注連(大注連愛好会)	中富良野町東3線北9号	S52.1.15	大正14年頃、有志が中心となり古老の指導で神社大鳥居に大注連を供え敬虔の念を表している。最近、大きさ、重量、できあがり美術品の配慮もされている。4年に一度、北海道神宮に奉納している。
上川	中富良野町	無形民俗文化財	雅楽(雅楽愛好会)	中富良野町基線北15号	S45.5.1	現在使用している楽器は、大太鼓、筆樂(4)、龍笛(6)、証鼓(1)、鳳笙(1)、謙鼓(1)等である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
上川	中富良野町	無形民俗文化財	津軽獅子舞(津軽獅子舞保存同好会)	中富良野町東3線北9号	S54.9.12	本町では50年前、古老や有志により伝承された。曲目は5曲、楽器は、笛太鼓、天びら金等である。ねらいは、悪しきを倒し、平和な明るい社会をつくること。
上川	南富良野町	無形民俗文化財	幾寅獅子舞	南富良野町幾寅	S40.10.21	幾寅獅子舞は、幾寅開拓と同時に富山県から伝来した越中獅子であり、明治36年当時恵光寺住職をはじめとする同寺の女人講中の諸氏により結成されたお寺の獅子として親しまれた。昭和58年には80周年記念式を実施した。構成・獅子8名、獅子取3名、太鼓役2名、鐘役1名、笛役3名、天狗1名。
上川	和寒町	有形文化財/美工	神楽面	和寒町字西町(和寒神社)	H11.7.5	明治38年広島団体として和寒町に入植した先人たちが開拓の苦しみを慰めるために故郷に習い覚えた神代神楽を舞う面として使用していた。神楽舞は、昭和初期まで中和地域で行われていたが、神楽団の解散に伴い、紛失を恐れた関係者が、昭和19年、和寒神社に奉納した。
上川	和寒町	有形文化財/美工	青い目の人形	和寒町字北町	H23.3.30	昭和2年文部省を通じて各都道府県に贈られ、北海道には643体の人形が子どもたちの手元に届いた。和寒町にはその内の3体が贈られ、旧三和小学校に贈られた人形だけが現存している。
上川	和寒町	史跡	ペオッペ駅通所跡	和寒町字西和	H11.7.5	明治42年剣淵村ペオッペ14線に官設駅通所が開設され、昭和3年に廃止になるまで和寒から幌加内を結ぶ軍馬道として位置づけられ、当時としては多くの交流を通して、最も優れた文化の集まる場所として、活気を呈していた。
上川	和寒町	天然記念物	ミズナラ	和寒町字東和	H11.7.5	昭和63年環境省の巨木調査で全道2位、全国6位となった自然木。推定樹齢300年と言われる。樹高18m、幹周(胸高)620cm。
上川	和寒町	無形民俗文化財	稚児舞	和寒町字西町	H23.3.30	昭和14年8月神社の新築を祝って稚児舞が奉納された。戦時中途絶えていた稚児舞を、町内婦人会が「和寒神社稚児舞奉納婦人会」を結成し昭和28年8月に戦後初めて和寒神社に奉納した。三条神楽の流れを組む七つの舞を低学年から高学年へ順次受け継ぎ、同じ稚児が9年間舞いを奉納する構成は今も伝承されている。
上川	剣淵町	有形文化財/建造物	剣淵屯田兵屋	剣淵町緑町15番4号	S50.7.12	屯田兵屋337戸は、面積約57.7㎡の樞軍兵屋で6畳と4畳半の座敷、6畳の板の間と7.5坪の土間からなる。屯田入地前年の明治31年から翌32年にかけて建設され、同年7月に屯田兵とその家族2,000人余りを受入れた。
上川	剣淵町	史跡	元屯田兵射的場	剣淵町西岡町2387番地	S29.9.1	北辺の整備と開拓の大任を担って入地した屯田兵の射撃訓練のための施設である。高さ4.5mの射弾止め土堤を南北に築き、観の塚や距離によって4段階に分けた射たを盛土で作った大掛かりな射撃訓練場であった。
上川	剣淵町	天然記念物	開拓記念木やちだも	剣淵町仲町34番2号	S31.9.1	屯田兵が入植した時、既に一際ぬきんでた大木でモクセイ科の「やちだも」である。調査の結果、室町時代の初期に芽生えた樹木であり、開基100年を経た時点では推定樹齢は約640年と考えられている。
上川	剣淵町	天然記念物	緋鮒・銀鮒・鉄魚	剣淵町東町	S39.9.1	これらの魚類は鮒が突然変異したものといわれている。通称「へび沼」「赤沼」「馬蹄沼」などと呼ばれる剣淵川や六牛別の旧河川での発見が多いことから、剣淵が生息地と言われている。
上川	下川町	有形文化財/美工	毘沙門天立像	下川町北町	S34.8.3	平安初期の作(作者不明)で、岡山県重要文化財に指定され、倉敷市勝福寺に安置されていた47体中の1体である。高さ約205cmの一本造りの立像である。
上川	下川町	天然記念物	はるこれ	下川町西町(下川小学校校庭)	S39.10.14	樹齢約800年、直径136cm、樹高23m、明治40年12月に下川町簡易教育所を建設した際に校庭に残した。
上川	下川町	天然記念物	下川鳴る石	下川町瑠瑠(国有林内)	S57.12.10	新第三紀中新世(2,500万年前～1,000万年前)の火山噴出物でサンル溶岩といわれる流紋岩の球?であって、直径が数ミリメートルから数センチメートルのものが多く、手に取って振ると「サラ・サラ」と音を発する。
上川	下川町	無形民俗文化財	上名寄郷土芸能	下川町上名寄	S39.10.14	明治34年に岐阜県東上郡高鷲村から上名寄地区に入植した開拓者が、開拓の苦しみの中で故郷をしのび、唄い踊られ今日まで伝えられてきたもの。「妻や節」「郡上節」「たいじん」の三種である。
上川	美深町	史跡	天塩川名由来の地	美深町字紋穂内	S58.10.3	安政4年6月7日松浦武四郎幕史は天塩川水源までの実地踏査のため、川をのぼり、名付けられた。
上川	美深町	史跡	富岡遺跡	美深町字富岡174,175番地	S58.10.3	縄文文化中期の遺跡。
上川	美深町	史跡	モンボナイ遺跡	美深町字紋穂内1086番地	S58.10.3	擦文時代の住居跡3つと土器数点が発掘されている。
上川	美深町	史跡	楠遺跡	美深町字楠9番地の1	S58.10.3	擦文時代の集落が発掘された。
上川	美深町	天然記念物	松山湿原	美深町字仁宇布506番地の2	S58.10.3	標高797mの高層湿原で山頂に数個沼があり、高山植物が分布している。昭和51年北海道から松山ビヤリ道自然環境保全地域の指定を受けている。
留萌	留萌市	有形文化財/美工	星兜残欠	留萌市大町2丁目3番地の1	H11.9.27	高さ18cm、直径23.1cmの鉄製半球型・大円山型兜・脇張出形式(切板を両側面内で側へ嵌留し、順次に重ねていく)の兜は、明治年間に北海道留萌市エンドマツカ(現在の塩見町)から出土したものと伝えられる。
留萌	留萌市	有形民俗文化財	アトウシ(1)	留萌市大町2丁目3番地の1	H11.9.27	オヒョウニレの樹皮から採取した繊維で布を織り、その布でつくられた衣服。木綿の裂き切れの切り伏せを置き、その上に刺繍を施している。また袖はムジリ袖である。留萌の旧五十嵐家が収蔵していたもので、留萌並びに日本海側において、先人であるアイヌの人たちのことを語る上で貴重な資料となっている。
留萌	留萌市	有形民俗文化財	アトウシ(2)	留萌市大町2丁目3番地の1	H11.9.27	オヒョウニレの樹皮から採取した繊維で布を織り、その布でつくられた衣服。和人の服を意識した浴衣様の袖の形で、切り伏せなどはほとんどはっていない。留萌の旧五十嵐家が収蔵していたもので、留萌並びに日本海側において、先人であるアイヌの人たちのことを語る上で貴重な資料となっている。
留萌	留萌市	史跡	黄金岬の日和山烽火台跡	留萌市大町3丁目49番地の3	H11.9.27	江戸時代後期、黄金岬の高台は日和山(風向きを調べたり天候を見る場所)として使われ、沖行く舟の航業のためそこに烽火台を設置し、安全航海に務めたといわれる由緒ある場所である。
留萌	留萌市	史跡	三泊漁港遺跡	留萌市三泊町26番地の6,27番地の4,27番地の8 留萌市大字留萌村字三泊村2410番地の1	H11.9.27	続縄文・擦文時代の土器や石器、住居跡がこの地から見つかっており、比較的大きな河川の河口付近には集落跡のような遺跡が存在することは知られるが、小河川の河口にも小規模な遺跡が存在することがわかる。初めて本格的な発掘調査が行われた遺跡であり、留萌の歴史を考える上で重要な遺跡である。
留萌	増毛町	有形文化財/建造物	増毛敷島神社本殿	増毛町稲葉町3丁目38番地	H2.4.1	宝永三年、渡島国松前の商人村山伝兵衛の増毛場所運上屋の氏神(弁天社)として創立した。本殿は明治三十二年に建てられ、建築材料は樺一式、現今においては全道随一の彫刻神社である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1 現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
留萌	増毛町	無形民俗文化財	雄冬神楽	増毛町大字岩尾村字雄冬	H2.4.1	明治12年頃、雄冬に木賃宿を営んでいた津島幸二郎方に投宿した旅の老人が、時の部落民情に接して非常に愛い、融和協調の必要性と協力の実現について、若者衆に語り合ひ、神楽舞を教え授けたのがはじまり。
留萌	増毛町	史跡	開拓使増毛船改所跡	増毛町港町4番地	S53.6.30	明治13年7月頃、北海道天塩国増毛船改派出所としてあったもの。役所は旧沖口番所、後の税関である。
留萌	増毛町	史跡	御料局札幌支庁増毛出張所跡	増毛町弁天町4丁目81番地	S53.6.30	明治23年から明治41年のあいだ、皇室の林野を営務管理する役所としてあった場所。
留萌	増毛町	史跡	増毛運上屋跡	増毛町港町4番地	S53.6.30	宝暦5年から明治4年があった。村山伝兵衛が開設した後、伊達林右衛門が引き継いで運営にあたった。通行屋もおいていた。
留萌	増毛町	史跡	津軽藩増毛勤番越年陣屋跡	増毛町稲葉町	S53.6.30	北蝦夷地(樺太)守備の越冬陣屋で、文化10年に焼失した。
留萌	増毛町	史跡	秋田藩増毛元陣屋跡	増毛町永寿町4丁目	S53.6.30	安政三年以降、秋田藩がこの地に元陣屋を設営し、北方警備にあたった。
留萌	増毛町	史跡	増毛治安裁判所跡	増毛町弁天町	S53.6.30	ここでは、判事と検事が同一建物に同居する異質の機構をとっていて、札幌治安裁判所の管下に属していた。
留萌	増毛町	史跡	秋田藩元陣屋第一台場跡	増毛町弁天町	S53.6.30	ドイツ製のホイッスル大砲1門と日本製の砲3門がある。ろう火台や見張り台もある。
留萌	増毛町	史跡	開拓使増毛外五郡役所跡	増毛町弁天町	S53.6.30	はじめは増毛外九郡役所であり、のちに六郡管轄に変わった。増毛支庁設置に伴い廃庁となった。
留萌	増毛町	史跡	官立札幌病院増毛出張所跡	増毛町弁天町2丁目	S53.6.30	明治9年に建てられ、明治12年から増毛町立病院と改められ、後年道立病院に移管された。
留萌	増毛町	史跡	山口藩増毛出張所跡	増毛町弁天町	S53.6.30	維新戦後秋田藩と増毛支配の共闘に勝ち、旧増毛運上屋の建物を役所とした。
留萌	増毛町	史跡	雄冬冷清水	増毛町雄冬	S54.7.25	文化四年、近藤重蔵がこの地を訪れ「西蝦夷地日誌」に当時の様子を記述している。
留萌	増毛町	史跡	雄冬遺跡	増毛町雄冬	S54.7.25	縄文中期の石器等の破片が数多く出土され、崖壁堆積による巨大石が林立し、その間には住居址があると言われている。
留萌	増毛町	史跡	松浦武四郎信砂越えの地	増毛町信砂	S54.7.25	安政三年函館奉行動番手付として西エゾ地巡回のため石狩の国イタイベツから国領マシケに向け出発。この地は信砂前浜到着地である。
留萌	増毛町	史跡	増毛土木派出所跡	増毛町暑寒町3丁目	S54.7.25	明治35年、北海道庁土木部国費工事課増毛派出所として開庁した。
留萌	増毛町	史跡	入船町浜茶屋跡	増毛町中歌	S54.7.25	入舟町は船頭、船子を相手として、飲食はもとより花街に類する営業も行われていた。
留萌	増毛町	史跡	旧増毛山道入口	増毛町別荘	S54.7.25	寛政8年浜益、増毛両場所請負人である三代目伊達林右衛門の手によって自費で開かれた山道である。
留萌	増毛町	史跡	増毛郡別荘出張所跡	増毛町別荘	S54.7.25	増毛郡別荘出張所として町制施行される明治三十年までで続した。
留萌	増毛町	史跡	旧高橋農場跡	増毛町舎熊	S54.7.25	明治十九年月寒で開拓に成功を収めた庄内藩士高橋卯七が新天地を求め、朱文別に入った。
留萌	増毛町	史跡	別荘発祥の地	増毛町別荘	S55.7.1	漁場守護として恵比寿神社の建立があって定住民が村落を形成していった。
留萌	増毛町	史跡	普伝寺跡	増毛町弁天町	S55.7.1	秋田藩が一堂守を建立し、普伝寺と名付け、藩士や住民の死者をまつた。
留萌	増毛町	史跡	秋田藩元陣屋第二台場跡	増毛町別荘	S55.7.1	大砲二門の砲壘を築き、他に見張り台、ろう火台を設け、海上からの防衛にあたった。
留萌	増毛町	史跡	仁奈良山道仁奈良駅遺跡	増毛町信砂	S55.7.1	信砂越えと言われた山道で、石狩方面にでるには必ず通る道であった。また、山道の下には下駅遺跡が建てられ、当時の幹線道路としてにぎわっていた。
留萌	増毛町	史跡	水戸藩主一行宿営の地	増毛町港町	S55.7.1	旧水戸藩十一代藩主「徳川昭武」一行が明治三年増毛本陣に宿営した。
留萌	増毛町	史跡	舎熊遺跡	増毛町舎熊	S55.7.1	縄文中期、北筒式、後期及び晩期の続縄文、擦文土器が出土する。また、アイヌ人たちの遺骨や遺物も出土している。
留萌	増毛町	史跡	阿分発祥の地	増毛町阿分	S56.7.25	原名は「アブン・ル・パロ」で、地下の世界に入る道の口といい、阿分の地名の発祥地である。
留萌	増毛町	史跡	増毛新廟跡	増毛町畠中町	S56.7.25	明治十五年、貸座敷料理店を開くため、裏道の町割りをして新廟と名付けられた。
留萌	増毛町	史跡	信砂水田発祥の地	増毛町信砂	S57.8.20	明治四十三年小作人秋山清四郎が約三反の水田を造成した。「赤毛」と名付けられた米は、非常に美味で、その後、信砂では水田が急増した。
留萌	増毛町	史跡	リンゴ栽培の父藤原筆吉翁の碑	増毛町暑寒沢	S58.7.21	精米業を営みつつ、暑寒沢を開拓し、増毛の地にはじめてリンゴ栽培を試みた。リンゴの父としての功績をたたえ、大正十一年にこの碑が建立された。
留萌	増毛町	史跡	増毛税務署跡	増毛町畠中町4丁目	H4.12.4	明治三十年、民家を賃貸して開庁された。
留萌	増毛町	史跡	天塩国水産会さけます孵化場跡	増毛町南暑寒町6丁目	H11.2.10	昭和十三年手塩国水産会が孵化場を建設し、暑寒別事業所と呼ばれた。孵化事業は昭和三十八年に完成した道立水産孵化場増毛支場に引き継がれている。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
留萌	小平町	有形文化財/ 美工	臼谷弁財天碑	小平町字臼谷158番地の4	H21.4.1	享保21年(1736年)施主村山傳兵衛の銘のある弁財天碑。江戸時代中期には既に、当時西蝦夷地奥場所と呼ばれたルルモッベ場所のウシヤ(臼谷)の地にも和商人の何らかの交易拠点が置かれていたことを示唆する資料で、臼谷地区の成り立ちのみならず、本道の歴史を考える上でも貴重な資料である。
留萌	小平町	無形民俗文化財	鬼鹿松前神楽	小平町字鬼鹿港町	H1.3.1	祭典や各種の行事で奉納され、ふるさとの伝統芸能として愛されている。
留萌	苫前町	有形文化財/ 美工	須恵器(壺)	苫前町字苫前427-3(苫前町考古資料館)	H20.1.25	大正13年、古丹別川右岸の苫前町香川の畑から出土。器高54.3cm、胴部最大径44.2cm。10世紀ころ、青森県五所川原窯で生産されたもの。完全な形状を留めたものとしては、最北端の資料として貴重。
留萌	苫前町	有形民俗文化財	修羅	苫前町字苫前393番地(苫前町郷土資料館)	H16.11.30	苫前町字力屋の鎌建網漁場で船材の運搬に使用したという轡。(明治中期)
留萌	苫前町	無形民俗文化財	苫前町くま獅子舞	苫前町字古丹別187番地	S57.3.1	苫前町字三深地内(通称六線沢)で大正4年12月、冬眠を逸した1頭のヒグマが空腹から狂暴性を発揮し、10人の婦女子を殺傷した事件を素材とした獅子舞である。
留萌	苫前町	史跡	苫前運上屋跡	苫前町字苫前	S55.9.18	慶長年間(17世紀初め)頃よりトマイ交易所が開始され、天明7年(1787)当時この地を支配していた松前藩より、橋原家がトマイ場所の経営を請け負い、アイヌとの交易と漁業経営を行っていた。文化元年(1804)、橋原角兵衛なるもの海岸水産税徴収の請け負い及び拓殖民により漁業を自営し新しく開発の端緒がひらけた。
留萌	苫前町	史跡	陣屋の跡	苫前町字香川	S55.9.18	安政6年、えぞ地を六藩に賜り「トマエ」は庄内藩所領となる。藩主は古丹別、川尻の地の利と背後に広大な平野を有することに着目、ここに陣屋を築く。藩主、石川小兵衛が取り締まりの任に当たる。
留萌	苫前町	史跡	寺小屋発祥の地	苫前町字苫前	S55.9.18	明治9年、札幌病院苫前出張所の医師としてこの地にあった村山謙造氏により、自宅において読書・習字・算数を教え、本町教育の初めとされている。その後、明治16年苫前小学校が公設され児童数25名を教え、仮校舎は稲荷堂をもって行われた。
留萌	苫前町	史跡	苫前戸長役場跡	苫前町字苫前	S55.9.18	明治9年に開拓史留萌支庁苫前出張所が置かれ、大小区画設定の際29大区小區苫前、白志泊の2村となり、その後、明治13年苫前・力屋・白志泊の3村の戸長役場を苫前に置いた。当時の人口は、苫前村454人、力屋村407人、白志泊村297人であった。
留萌	苫前町	史跡	苫前町水田発祥の地	苫前町字香川	S55.9.18	苫前地方の農業移民の入植と開拓が、幕末に庄内藩によって試みられたが、成果をあげるに至らなかった。その中で藤田万助という一人の情熱家が、本町の農業の先駆者としての役割を果たした。藤田翁は、文政5年岩手県盛岡市に生まれ、安政2年万助37歳の時、故郷を離れ北海道のこの地に入り、豆類などの畑作をする一方、主食である米作りを試み、明治17年初めて米の収穫に成功、明治28年74歳で死亡。
留萌	苫前町	天然記念物	岩見の一本松	苫前町字岩見	S55.9.18	明治29年この地区に開拓者が入植する以前から生育しており、「岩見の一本松」の愛称で住民から親しまれている開拓の記念樹。
留萌	羽幌町	有形文化財/ 建造物	巖島神社旧鳥居の双脚	羽幌町大字焼尻字緑岡	S61.2.28	神社が弁天岬にあった当時の鳥居の双脚で、「文保15年辰五月吉日(1844年)」の刻印がある。大正8年に現在の所に移された。
留萌	羽幌町	有形文化財/ 美工	わにぐち	羽幌町大字焼尻字緑岡	S61.2.28	神社社殿の前にさげ、引き鳴らし礼拝に使用し「文政十三庚寅年(1830年)」の印が刻まれている。現在は社殿に保管。
留萌	羽幌町	無形民俗文化財	平越中獅子舞	苫前郡羽幌町字平	S50.12.15	明治33年9月10日、平神社祭典に奉じたのがはじまり。(富山県平村より伝承)
留萌	羽幌町	無形民俗文化財	加賀獅子舞	羽幌町南1条1丁目	S50.12.15	大正11年鎌漁とともに石川県内灘町より伝承。
留萌	羽幌町	無形民俗文化財	越中赤坂奴舞	羽幌町字幸町	S53.3.24	大正12年頃、富山県人によって羽幌神社祭典に奉納したのが始まり。
留萌	初山別村	無形民俗文化財	有明獅子舞	初山別村字有明	S60.7.24	明治36年富山県下新川郡入善町出身の上田勇左門が郷里から獅子舞用具と衣装を買い求め継承。例年9月14日の有明八幡神社宵宮祭に奉納。
留萌	天塩町	有形文化財/ 建造物	天塩巖島神社	天塩町川口基線1226番地	H23.10.28	「北海道形神明造」の系譜を引く建築様式で、大正期の建築と考えられる。
留萌	天塩町	史跡	運上屋跡	天塩町海岸通4丁目3975番地の2	S57.1.26	1807年3月交通施策を進めるための通行屋
留萌	天塩町	史跡	天塩駅通跡	天塩町海岸通2丁目23の1	S57.1.26	
留萌	天塩町	史跡	基線渡船場跡	天塩町字川口	S58.1.21	
留萌	天塩町	史跡	雄信内渡船場跡	天塩町字雄信内	S59.2.29	
留萌	天塩町	史跡	振老渡船場跡	天塩町字振老	S59.2.29	
宗谷	稚内市	有形文化財/ 建造物	宗谷巖島神社	稚内市大字宗谷村字宗谷	S45.6.11	天明2年(1782)以前の建立。
宗谷	稚内市	有形文化財/ 美工	釣鐘(1基)	稚内市大字宗谷村字宗谷	S41.9.19	文化7年9月藤原義行によって作られた。
宗谷	稚内市	有形文化財/ 美工	木製懸額(1基)	稚内市大字宗谷村字宗谷	S41.9.19	地獄と極楽浄土の様子を吉本善京が描いたもの。
宗谷	稚内市	有形文化財/ 美工	しょうご(1基)	稚内市大字宗谷村字宗谷	S41.9.19	文久元年辛酉7月宗谷護国寺の刻印あり。
宗谷	稚内市	有形文化財/ 美工	古文書(5冊)	稚内市大字宗谷村字宗谷	S41.9.19	過去帳、常回向帳、回向帳等がある。
宗谷	稚内市	有形文化財/ 美工	文化寛政の頃の宗谷絵図	稚内市大字宗谷村字宗谷	S43.12.21	現在の宗谷村字宗谷の俯瞰図である。
宗谷	稚内市	有形文化財/ 美工	内藤源助愛刀の鐔	稚内市ヤムワッカナイ	S43.12.21	横谷宗眠の作と伝えられている。桐鳳凰の図柄、鉄地の立長丸片彫である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
宗谷	稚内市	史跡	オンコロマナイ2遺跡	稚内市大字宗谷村字清浜	S42.12.16	河口左岸の標高数メートルの海岸砂地にあり、東大と北大の調査で8体の人骨が得られ、「オンコロマナイ人骨」と報告されている。
宗谷	稚内市	史跡	富磯貝塚	稚内市大字宗谷村字富磯	S42.12.16	国道238号線沿いの海岸砂地にあり、貝塚を伴うオホーツク文化の遺跡。
宗谷	稚内市	史跡	シュブントウ遺跡	稚内市大字声間村字声間シュブントウ北岸	S42.12.16	声間大沼の湖岸段丘にあり、擦文文化期の住居跡が確認されている。
宗谷	稚内市	史跡	恵北1遺跡	稚内市大字声間村字下声間1465-1	S42.12.16	標高35mの丘陵上にあり、竪穴住居跡が確認されている。
宗谷	稚内市	史跡	抜岩岩陰遺跡	稚内市大字抜海村字パッカイ	S42.12.16	海岸から約250mにあり、続縄文文化、オホーツク文化、擦文文化の遺跡。
宗谷	稚内市	史跡	弁天1・2号チャシ	稚内市港2・3丁目	S42.12.16	裏山丘陵にあり、塚で区画されている。
宗谷	稚内市	史跡	ピリカタイチャシ	稚内市大字宗谷村字清浜	S42.12.16	チャシ頂部20m四方が平坦化され、稚内市街やサハリンも遠望できる。
宗谷	稚内市	史跡	大岬旧海軍望楼	稚内市大字宗谷村字宗谷岬	S43.12.21	明治年間に造られた石造建築物としては稚内唯一である。
宗谷	稚内市	天然記念物	目梨高山植物群落	稚内市大字宗谷村字峰岡	S43.12.21	オホーツク海沿の低地であるにもかかわらず、高山植物の群生地である。
宗谷	稚内市	天然記念物	メグマミズナラ群落	稚内市大字宗谷村字増幌	S43.12.21	定期的な強い季節風によりできた、矮小なミズナラの大群落。
宗谷	浜頓別町	有形文化財/美工	山軽台地遺跡出土の遺物「細石刃核と細石刃」	枝幸郡浜頓別町字浜頓別	H6.6.1	旧石器時代第3期(15,000~12,000年前)の石器。素材の母石は黒曜石。
宗谷	浜頓別町	有形文化財/美工	ボンに連内遺跡の石刃核	枝幸郡浜頓別町字浜頓別	H6.6.1	旧石器時代に属する円錐状の剥片石刃核。素材は黒曜石。
宗谷	浜頓別町	史跡	ウソタンナイ砂金遺跡	枝幸郡浜頓別町字宇曾丹	H3.7.1	砂金堀跡の石垣や祭っていた神社・墓及び当時の飯場跡などである。
宗谷	浜頓別町	天然記念物	コモチカナヘビ	浜頓別町(ベニヤ原生花園及びクッチャロ湖一帯(道立自然公園内))	H13.6.1	北海道レッドリストに掲載された絶滅危惧種であり、ニホンカナヘビとは異なり、胴部のうろこは細かく、つやがある。
宗谷	枝幸町	有形文化財/建造物	厳島神社鳥居	枝幸郡枝幸町新栄町	S44.7.9	天保4年製作。近江産の小松石を使用。
宗谷	枝幸町	有形文化財/美工	厳島神社絵馬	枝幸郡枝幸町三笠町1614番地1	S44.7.9	幕末の北前船主又は船頭が航海安全を祈願して神社へ寄進したものと考えられる。
宗谷	枝幸町	有形文化財/美工	枝幸町ホロナイボ遺跡出土遺物	枝幸郡枝幸町三笠町1614番地1	S54.12.7	S56.10.29指定物件146点中、14点を町指定文化財より解除。(北海道有形文化財指定となったため)
宗谷	枝幸町	無形民俗文化財	上音標獅子神楽	枝幸郡枝幸町上音標	S44.7.9	大正7年、岐阜県出身の入植者が紀州熊野神社から伝えたもの。勇士素朴な舞。
宗谷	枝幸町	史跡	幌別川尻チャシ	枝幸郡枝幸町岡島	S46.3.30	川口付近の湿原に存在する大小2箇所のチャシ。
宗谷	枝幸町	天然記念物	音標のゴメ島	枝幸郡枝幸町音標	S46.3.30	音標岬の南東約15kmのオホーツク海に浮かぶ周囲1kmの無人の小島。海鳥の繁殖地として指定。
宗谷	枝幸町	天然記念物	エソサンショウウオ生息地	枝幸郡枝幸町目梨泊	S47.5.30	目梨泊市街地から北に約1kmの旧国道238号線西側に位置する。面積約125㎡。
宗谷	礼文町	有形文化財/美工	船泊遺跡出土遺物	礼文郡礼文町大字善深村字ワウシ958-4(礼文町教育委員会)	H16.7.29	船泊遺跡から出土した貝製品、骨角器、石製品536点。(縄文時代後期前葉から中葉。)
宗谷	利尻町	有形文化財/美工	亦稚貝塚出土の遺物	利尻郡利尻町仙法志字本町136	S53.12.26	亦稚貝塚から出土した遺物からオホーツク文化と古代日本との交流をしめす土師器、オホーツク文化の生業をあらわす網目土器、舟形土製品、動物への信仰をあらわすへう状骨角器の4点を指定。
宗谷	利尻町	史跡	会津藩士の墓	利尻郡利尻町沓形字種富町	S42.9.30	文化5年、ロシアの南下に備え北方警備についた会津藩士の殉職した墓。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	奥の院	利尻郡利尻富士町字鷺泊字本泊	S54.10.26	勧請は文政7年宗谷場所請負人、恵比須屋源兵衛と伝えられる。神社の建立は明和年間。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	厳島神社	利尻郡利尻富士町鷺泊字港町	S54.10.26	寄進は、文政13年宗谷場所請負人、恵比須屋支配人阿部善右衛門及び住吉丸船頭清六也。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	本泊頓富島居	利尻郡利尻富士町字鷺泊字本泊	S54.10.26	天保9年宗谷場所請負人恵比須屋の支配人阿部善右衛門の寄進により建立。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	利尻山神社境内	利尻郡利尻富士町鷺泊字本町	S54.10.26	本堂は明治30年12月15日建立。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	金刀比羅神社本殿	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	明治25年、八代市松の勧請により建立。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	北見神社境内	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	文政年間に草創され、昭和52年度改築。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	利尻島郷土資料館	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	大正2年、鬼脇村役場庁舎として建設。昭和48年郷土資料館として内部改装。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	大沢寺鐘樓堂	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	明治28年建立。利尻島最古の建造物。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	会津藩士の墓(1)	利尻郡利尻富士町鷺泊慈教寺境内	S54.10.26	文化年間、対ロシア防衛に派遣された会津藩兵で利尻で死亡した者の墓碑。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	会津藩士の墓(2)	利尻郡利尻富士町鷺泊宇港町(ベン峠)	S54.10.26	文化年間、対ロシア防衛に派遣された会津藩兵で利尻で死亡した者の墓碑。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	桐山三四郎顕彰碑	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	明治45年建立。同氏の東利尻町草創期の功績をたたえたもの。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	綱島貞助顕彰碑	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	明治2年建立。桐山氏と共に開拓に貢献した。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/建造物	北海道三景の碑	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	大正12年小樽新聞社主催の北海道名勝地コンクール第1位を記念して建立。
宗谷	利尻富士町	有形文化財/美工	宗谷区務所往書簡	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	明治10年、開拓史宗谷区務所と利尻振所との間で取り交わされた公文書の控綴。
宗谷	利尻富士町	無形民俗文化財	南浜獅子神楽	利尻郡利尻富士町鬼脇宇南浜	S54.10.26	明治中期、鯨漁の漁夫によって南浜地区に伝えられた富山地方の神楽。
宗谷	利尻富士町	史跡	リイシリ運上屋跡	利尻郡利尻富士町鷺泊宇本泊	S54.10.26	寛政年間から明治の初期まで建立されていたと思われる。
宗谷	利尻富士町	史跡	栄町キャンプ場遺跡	利尻郡利尻富士町鷺泊宇栄町	S54.10.26	昭和50年の調査で発見された旧石器時代の遺跡。
宗谷	利尻富士町	史跡	ラナルド・マクドナルド渡島の地	利尻郡利尻富士町鷺泊宇野塚	S54.10.26	嘉永元年、日本で初めて英語の教授を行ったアメリカ人青年が漂着した。
宗谷	利尻富士町	天然記念物	沼浦湿原	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	利尻島内で、モウセンゴケ、ワタズゲ等湿原特有の植物が群生。
宗谷	利尻富士町	天然記念物	南浜湿原	利尻郡利尻富士町鬼脇	S54.10.26	利尻島内で、モウセンゴケ、ワタズゲ等湿原特有の植物が群生。
オホーツク	北見市	有形文化財/建造物	屯田兵屋	北見市公園町1番地	S44.11.3	明治30、31年に入植した各戸主に与えられた原形の屯田兵屋。内部に遺品、給与品等も展示。
オホーツク	北見市	有形文化財/建造物	ピアノン記念館	北見市幸町7丁目4番28号	H8.7.8	洋風建築としての貴重な歴史的建造物。ピアノン牧師夫妻遺品の展示施設として活用。
オホーツク	北見市	有形文化財/建造物	ハッカ記念館	北見市南仲町1丁目7番28号	H8.7.8	昭和9年に北見薄荷工場事務所として建造される。昭和初期に世界一のハッカ生産地を誇った歴史を伝える関係資料展示施設として活用。
オホーツク	北見市	有形文化財/建造物	旧野付牛屯田第四大隊第一中隊本部被服糧秣庫	北見市端野町一区649番地1	H4.2.27	旧野付牛屯田第四大隊第一中隊本部被服糧秣庫として使用されたもの。一部改修し神社拝殿として使用。
オホーツク	北見市	有形文化財/建造物	武庫駅通	北見市留辺蘂町滝湯127番地	H12.3.27	大正9年開拓移住者の相談書や旅人の休憩・宿泊所等、人馬の継立業として開設。貴重な洋風木造建築物である。
オホーツク	北見市	有形文化財/美工	ビーボディ・マルチニー銃	北見市公園町1番地	S45.6.6	1867～71年にかけてアメリカのプロビデンス兵器会社で製造され、屯田兵が使用していた。
オホーツク	北見市	有形文化財/美工	中ノ島遺跡の出土遺物	北見市公園町1番地	S62.4.15	縄文中期からアイヌ期にかけての複合遺跡。特に縄文晩期末の土器群は貴重な資料である。
オホーツク	北見市	有形文化財/美工	広郷遺跡の出土遺物	北見市公園町1番地	S62.4.15	先土器時代終末期に編年された遺跡で、広郷型細石刃石核を中心とした彫器、石刃等の石器群。
オホーツク	北見市	有形文化財/美工	北進遺跡の出土遺物	北見市公園町1番地	S62.4.15	先土器時代終末期に編年された遺跡で、峠下型細石刃石核、彫器等で構成される石器群は重要。
オホーツク	北見市	有形民俗文化財	屯田兵人形	北見市川東412番地	S44.11.3	屯田兵の偉業をたたえるために製作された75体の人形。屯田兵の風俗を知る貴重な資料である。
オホーツク	北見市	史跡	鎖塚の区域	北見市端野町緋牛内842番地8	H4.2.27	明治24年に開削された中央道路工事の際に死亡した囚人の墓標とされる。土饅頭3基、鎖塚供養碑、六地藏。
オホーツク	北見市	天然記念物	緋牛内の大カシワ	北見市端野町緋牛内780-2、780-7	H8.4.26	樹高約17m幹周約500cmの端野町最大最古の樹木。開拓当時、山の神として祀られたという。
オホーツク	北見市	天然記念物	カタクリ及び周囲の北方性落葉広葉樹林	北見市端野町二区929番地36.39.40.41.93.94.96.98	H17.4.6	北海道のほぼ東の分布限界にある端野町のカタクリ個体群は、分布限界である厳しい環境条件下において、周辺から孤立して生息する貴重な個体群といえる。
オホーツク	網走市	有形文化財/建造物	永専寺山門	網走市南6条東2丁目	S54.2.10	旧網走刑務所正門の遺構で、擬洋風建築の流れを継ぐ和洋混交の独特の造り。明治末期の創建。
オホーツク	網走市	有形民俗文化財	網走神社絵馬	網走市桂町	S54.9.10	場所請負人藤野が航海の安全と大願成就を感謝して奉納。文政4年から明治6年。
オホーツク	網走市	有形民俗文化財	鱒浦福荷神社絵馬	網走市鱒浦	S54.2.10	船主や船頭が航海の安全と大願成就の感謝を絵馬に託して、当福荷に奉納したもの。
オホーツク	網走市	天然記念物	ボンモイ柱状節理	網走市台町2丁目、3丁目	S68.3.5	市街から東南に1km。大規模に広がっている。安山岩の柱状節理で、美しい海岸景観を呈している。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
オホーツク	紋別市	史跡	紋別市栄遺跡	紋別市元紋別80-1番地	S50.10.8	藻龜(もべつ)川とその支流に挟まれた台地先端に、オホーツク文化期と擦文化期の竪穴式住居が集中して20軒ほど所在。
オホーツク	紋別市	天然記念物	小向原生花園	紋別市小向232、2626番地地先	S40.11.10	小地域にもかかわらず、海浜植物、湿地性、乾地性の高山植物、一般荒原性植物の群落が一見できる。
オホーツク	紋別市	天然記念物	紋別流紋岩	紋別市幸町3丁目1番4号	S39.10.1	藻龜川支流より出土する独特のもので、珪酸沈殿物が乳房状、球状、葡萄状の形状で大型化して出土。
オホーツク	美幌町	有形民俗文化財	絵模様付襪	美幌町字美倉253-4	H11.10.12	縄文時代中期の絵模様付襪で隅丸三角形の扁平な石の表面に黒色の顔料を用いて円形を描きその円の外側に放射線状に6本の線が描かれている。
オホーツク	美幌町	無形民俗文化財	瑞治足柄奴	美幌町字瑞治	H11.10.12	昭和2年美幌神社秋季祭典の際に瑞治等の青年により足柄奴が神社に奉仕されて以降、毎秋25名編成の瑞治足柄奴行列が巡行。
オホーツク	美幌町	天然記念物	美幌小学校のかしわ	美幌町字西2条北3丁目	H11.10.12	明治33年11月1日に美幌町で最初に開校した現在の美幌小学校地内のかしわの木として親しまれ、町のシンボリック的存在。
オホーツク	美幌町	天然記念物	ベニバナヤマシャクヤク自生地	美幌町字野崎	H11.10.12	町内野崎の柏ヶ丘公園樹木園内に存在。ボタン科の草本種で国より指定されている絶滅危惧ⅠB類。
オホーツク	斜里町	有形文化財/建造物	旧斜里神社拝殿	斜里町本町49-2	S51.11.8	寛政8年(1796)に斜里場所請負人三代目村山伝兵衛より寄進された、町最古の建造物。木造で流造り、高さ118cm、巾65.5cm、奥行73.3cm。
オホーツク	斜里町	有形文化財/美工	絵馬	斜里町本町49-2	S51.11.8	文久2年(1862)に斜里場所請負人藤野家の支配人三右衛門より斜里神社に奉納された人物絵馬。吉本善京筆。
オホーツク	斜里町	有形文化財/美工	歌枕額	斜里町本町49-2	S51.11.8	享和元年(1801)に幕府役人北陸正幸他3名が、斜里地方へ旅行の折、宗谷から止別までの地名を歌いこんだもの。36首。
オホーツク	斜里町	有形文化財/美工	津軽藩士死没者の供養碑	斜里町本町49-2	S57.7.1	文化4年(1807)に死没した藩士供養のため、文化9年(1812)に斜里場所関係者により建立。材質は花崗岩で町民公園内にある。「南無阿弥陀仏」碑文。
オホーツク	斜里町	有形文化財/美工	津軽藩士死没者の供養碑	斜里町朝日町4-2	S57.7.1	文化4年(1807)に死没した藩士供養のため、文化9年(1812)に斜里場所関係者により建立。材質は花崗岩で日蓮宗日照寺内にある。「南無妙法蓮華経」碑文。
オホーツク	斜里町	有形文化財/美工	斜里神社石灯笼	斜里町本町44番地(斜里神社境内)	H15.3.26	近世のシャリ場所の繁栄を今に伝える数少ない資料の一つ。同時期の資料としては旧斜里神社拝殿、絵馬、歌枕額などが斜里町に現存するが、いずれもすでに町指定文化財となっている。また、同時期の藤野家由来の石灯笼で現存するものは稲市内と根室市にあるのみである。
オホーツク	斜里町	有形文化財/美工	津軽藩士死没者の過去帳	斜里町本町47-2	S57.7.1	文化4年(1807)、斜里地方の沿岸警備で死没した殉難藩士他77名の過去帳。和紙二つ折り7枚とじ。
オホーツク	斜里町	史跡	津軽藩士墓所	斜里町本町49-2	S62.7.1	文化4年(1807)、斜里地方の沿岸警備において、越冬にあたり死没した殉難藩士約70名の墓所跡。
オホーツク	斜里町	史跡	津軽藩士シャリ陣屋跡	斜里町本町52-24	S62.7.1	文化4年(1807)、斜里地方の沿岸警備を命ぜられた津軽藩士100余名が駐屯した際の陣屋跡。
オホーツク	斜里町	史跡	シャリ運上屋(会所)跡	斜里町港町8-28	S62.7.1	和人とアイヌ人の交易所として寛政3年(1791)頃創設されたシャリ運上屋の跡。
オホーツク	訓子府町	有形文化財/美工	緑丘B遺跡出土物	訓子府町仲町50番地	H12.4.1	昭和33年発掘調査が行われ、3,425点の石器などが出土した。貴重な旧石器時代の道具類が出土したことから、考古学者から高い評価を受けている。
オホーツク	訓子府町	有形文化財/美工	増田遺跡出土物	訓子府町仲町50番地	H12.4.1	昭和46年からの2か年の発掘調査が行われ、1,690点の石器などが出土した。貴重な旧石器時代の道具類が出土したことから、考古学者から高い評価を受けている。
オホーツク	遠軽町	史跡	幌加沢遺跡遠間地点	遠軽町旧白滝 網走西部森林管理署2112林班へ小班	S50.10.30	BC14,000～12,000ころ存在した細石刃文化時代の石刃、石槍、彫器、細石刃核、スキー状スポール等。
オホーツク	興部町	有形文化財/建造物	米田御殿	興部町栄町	H1.10.1	故米田常作が大正11年に伯爵を宿泊させる迎賓館として建設。結婚式場としても利用された。
十勝	帯広市	有形文化財/建造物	十勝監獄石油庫	帯広市緑ヶ丘公園内	S57.1.1	明治28年4月に開庁した北海道集治監十勝分監(明治36年4月「十勝監獄」と改称独立)の建物群の一部で、明治33年に建設されたと思われる。レンガ造りで、当時としてはめずらしいフランスレンガ積みによるもの。
十勝	帯広市	有形文化財/美工	依田勉三直筆の書「留別の詩」	帯広市緑ヶ丘2 帯広百年記念館	S57.1.1	帯広市の開拓の先駆者、晩成社依田勉三が伊豆を出発する前日の明治16年3月14日親族、知己の前で開拓の決意を詠んだ直筆の書。
十勝	帯広市	有形文化財/美工	ランダーの油絵	帯広市緑ヶ丘2 帯広百年記念館	S58.3.1	油絵作品としては帯広・十勝の中でもっとも古いものである。帯広の明治初期の様子を忠実に写生しているところから、資料的価値が非常に高い。
十勝	帯広市	有形文化財/美工	晩遺跡出土遺物	帯広市緑ヶ丘2 帯広百年記念館	S58.3.1	先土器時代後期～縄文時代の遺跡で、過去の6回にわたる発掘調査で、細石刃文化の石器群(約1万2千年前)や「晩式土器」と呼ばれるこの地方で最も古い土器(約8千5百年前)が出土し、先土器時代から縄文時代早期の文化解明に多く示唆を与える。
十勝	帯広市	有形文化財/美工	八千代A遺跡出土遺物	帯広市緑ヶ丘2 帯広百年記念館	H3.11.1	昭和60年～平成元年度の調査の結果、縄文早期(約8千年前)の住居跡105軒をはじめ、土坑(貯蔵穴)、野外の炉跡などの遺構や、土器・石器・石器・石装身具など約9万点の遺物が出土した。八千代A遺跡は、この時期としては全国的にも例を見ないほど大規模な集落跡であることが判明した。
十勝	帯広市	有形文化財/美工	十勝鉄道蒸気機関車4号客車コハ23号	帯広市西7条南20丁目	H6.11.1	奥地開発に大きな役割を果たしてきた両車両は十勝開拓史・日本鉄道史において重要な文化財である。
十勝	帯広市	有形文化財/美工	ロープ伝導式手押し播種機	帯広市緑ヶ丘2 帯広百年記念館	H9.6.1	大規模な畑作農業地域を形成するのに役立つ帯広地域で考案・開発・使用された農機具。帯広・十勝の農業開拓の歴史を特徴づけるものである。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
十勝	帯広市	無形民俗文化財	帯広カムイトボボ保存会	帯広市大空町1丁目10-1	S57.1.1	アイヌ民族の人々に伝承されている歌や舞はきわめて古い形態をとどめているものが多い。特に信仰と芸能と生活が密着不離に結びついているところに特色があり、芸術史的な価値が高い。
十勝	音更町	無形民俗文化財	十勝駒踊	河東郡音更町駒場地区	H12.3.28	大正5年に、十勝種馬所職員により、青森県から伝承され、継承され親しまれている。
十勝	音更町	無形民俗文化財	東士狩獅子舞	河東郡音更町東士狩地区	H12.3.28	明治35年に、郷里富山県の獅子舞を継承して始められ、地域住民に親しまれている。
十勝	音更町	無形民俗文化財	矢部獅子舞	河東郡音更町矢部地区	H12.3.28	明治37年に、郷里富山県の獅子舞を継承して始められ、地域住民に親しまれている。
十勝	音更町	天然記念物	十勝坊主	河東郡音更町字東音更東6線41番地2	H12.3.28	地域の歴史的な気象環境の中で生成した構造土であり、学術的価値がある。
十勝	上士幌町	有形文化財/美工	「音更山道」碑	河東郡上士幌町字黒石平75番地	H9.6.13	元小屋からメセツ沢までの車馬道改修工事の竣工を記念して、十勝監獄が建立したものである。
十勝	上士幌町	史跡	嶋木遺跡	河東郡上士幌町字上士幌東4線241番地の1他	S60.8.1	道内で初めて旧石器の遺跡が出土した。
十勝	上士幌町	天然記念物	三股永久凍土	河東郡上士幌町字三股国有林内	S60.8.1	1972年(昭和47年)10月に発見された。この永久凍土は標高900m付近にあり、特異な永久凍土と考えられている。
十勝	上士幌町	天然記念物	丸山噴泉塔群	河東郡上士幌町字幌加国有林内	S60.8.1	1980(昭和55年)8月に発見された。石灰堆積物で最大のものは基底からの高さが2.76m(H22調査)に達している。現在も活発に活動中。
十勝	鹿追町	有形文化財/建造物	拓鉄と河西鉄道の交差橋台跡	河東郡鹿追町柏が丘	H21.4.1	河西鉄道と拓殖鉄道が所在地で奇しくも上下構造により交差していた。その橋壁と軌道床跡が現存。
十勝	鹿追町	有形文化財/美工	北海道拓殖鉄道蒸気機関車	河東郡鹿追町緑町3丁目	H21.4.1	昭和3年新得町から鹿追まで総延長5.4kmを開通した拓殖鉄道。昭和43年廃止までの40年間当時の産業・交通・文化の交流に貢献。8620型加熱デッカー(製造ナンバー8622型)
十勝	鹿追町	無形文化財	白蛇姫舞	河東郡鹿追町	H21.4.1	然別湖にまつわる伝説、白蛇姫物語からヒントを得て昭和47年に保存会の創設。現在に至まで郷土の文化として定着している。
十勝	芽室町	天然記念物	芽室公園一帯カシワ林	河西郡芽室町本通9丁目1	S48.11.1	芽室公園のカシワは、樹齢、大きさなど開拓の歴史が刻まれており、歴史、学術鑑賞の価値が非常に高い。
十勝	中札内村	有形文化財/建造物	旧杉村農場サイロ	河西郡中札内村共栄	S59.10.25	L型ブロックを使用した工法によって造られたサイロ。現在のサイロとは構造的にも建築方法も異なる貴重な建造物。
十勝	中札内村	無形民俗文化財	元更別大國神社石見神楽	河西郡中札内村元更別	S37.6.29	大正6年元更別に入植した島根の団体が伝えた出雲神話の神楽能である。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	山道開発之記写	広尾郡広尾町西2条9丁目	S50.12.4	弘化4年(1847年)厚岸國泰寺真州住職が戸勝明神社にて山道開発記を写し、一部会所にのこしたものである。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	円空仏(厨子)	広尾郡広尾町西2条9丁目8番地	S53.3.11	会所・場所請負人(福島屋)杉浦嘉七が再造寄付したもの(1847年)と思われる。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	貞伝作・万体仏	広尾郡広尾町西2条9丁目8番地	H10.12.21	享保12年(1727年)羽羽の国の鑄工により完成した大塔婆鑄造の残存をもって、弘前の鑄工によって作られたものである。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	広尾学校扁額	広尾郡広尾町西4条9丁目	H10.12.21	十勝最古の創立である広尾小学校の校室「広尾学校の扁額」は明治25年(1892年)9月5日広尾小学校に來校した御料局長官岩村通俊の揮毫によるものである。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	影如上人御消息	広尾郡広尾町西1条10丁目	H10.12.21	明治43年(1910年)8月影如上人が釧路から風浪のため広尾に上陸できなかった際、広尾で巡教を待ち望む広縁寺門徒に宛てた御消息(書簡)である。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	トカチ陣屋の井戸枠	広尾郡広尾町字野塚989番地博物館「海の館」	H10.12.21	安政6年に仙台藩が蝦夷地のトカチ警備開拓のために広尾の円山麓に陣屋を設けた。工事は翌年の安政7年に行われたと思われるがその時に掘削された井戸である。陣屋の場所は現在の広尾小学校敷地内である。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	十勝神社の石灯笼	広尾郡広尾町茂寄1番地13	H10.12.21	十勝神社参道石段に左右一対の高さ1.55メートルの石灯笼があり、この石灯笼の由来などの記文が刻まれている。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	十勝神社の手洗鉢	広尾郡広尾町茂寄1番地13	H10.12.21	天保7年(1836年)3月にトカチ場所を請負う福島屋清兵衛が設けた会所と番屋で働くすべての番人が抛出した寄付で、蝦夷地での平安無事を祈願してつくられたものである。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	水道木管	広尾郡広尾町字野塚989番地博物館「海の館」	H10.12.21	慶応元年(1865年)トカチ会所の支配人忠五郎が帳房の若松忠次郎や興村茂八らとはかって仙台藩トカチ陣屋のそばの水源から水を引く許しを得たことから、当時の木管ではないかと思われる。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	トカチ会所関係文書「鳳桜泉二而写諸書集」	広尾郡広尾町字野塚989番地博物館「海の館」	H10.12.21	和紙、表紙をふくめ150ページに及び、内容は安政2年(1855年)から万延元年(1860年)までの6年間分が所収されている。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	トカチ会所関係文書「御詰合様進物定例書」	広尾郡広尾町字野塚989番地博物館「海の館」	H10.12.21	表紙に朱書で自に至又拾冊之内、イとなっている。内容はトカチ会所にやって来た知行主の家士に節季行事ごとに会所から進物の基準が定められたものを記載している。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	トカチ会所関係文書「トカチ御場所御運上金ならび仕向金上納帳」	広尾郡広尾町字野塚989番地博物館「海の館」	H10.12.21	上納帳は万延元年(1860年)、文久元年(1861年)から文久3年、元治元年(1864年)、同2年(慶応と改元)、慶応2年(1866年)までで、トカチ場所請負人と知行主仙台藩の運上金の交還を知る貴重な資料である。
十勝	広尾町	有形文化財/美工	トカチ会所関係文書「御一新以来と徳川御三家様当国領界引渡書御達留」	広尾郡広尾町字野塚989番地博物館「海の館」	H10.12.21	表紙に朱書で「古イノ」(山崎(嶺)蔵書)となっている。山崎金助の所蔵で、明治元年(1868年)から明治3年(1870年)までの分で146ページからなる。
十勝	広尾町	史跡	仙台藩トカチ陣屋跡	広尾郡広尾町西4条9丁目2番地	S50.11.18	安政6年(1859年)白老に元陣屋を置いた仙台藩が出張陣屋を設けて十勝を警備した跡。
十勝	広尾町	天然記念物	杉の樹林地	広尾郡広尾町茂寄1番地13	S62.8.25	道東において、杉の木は珍しく十勝管内唯一の樹林地であり、学術的価値があると思われる。
十勝	幕別町	有形文化財/美工	札内N遺跡出土品	中川郡幕別町字依田384番地の3	H20.3.28	縄文時代晩期のものである。
十勝	幕別町	有形民俗文化財	幕別町蝦夷文化考古館収蔵品	中川郡幕別町字千住114-1	H14.2.26	故吉田菊太郎氏が広く収集され収蔵していたアイヌ民俗資料

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
十勝	幕別町	無形民俗文化財	糠内獅子舞	中川郡幕別町字糠内	H14.2.26	「糠内神社」の前身である「五位神社」の建立にあたり、御神霊の奉迎と慰勞を目的に奉納されたもので富山県から伝わったもの。
十勝	幕別町	天然記念物	ヒカリゴケ	中川郡幕別町忠類明1番地の1の内	H21.6.26	限られた稀な環境の下に生息する原始的なきわめて貴重なコケである。このコケが忠類丸山の洞窟内で発見されたことは、この生育地域の環境が人間による乱開発、大気汚染、乾燥化といった悪影響を受けていない恵まれた環境であることを示している。
十勝	池田町	有形文化財/美工	十日川5遺跡出土遺物	中川郡池田町字近牛20近牛郷土資料館	H8.5.10	縄文時代中期・晩期のものである。
十勝	池田町	有形文化財/美工	林務署遺跡出土遺物	中川郡池田町字近牛20近牛郷土資料館	H8.5.10	縄文時代前期から中期にかけてのものである。
十勝	池田町	有形文化財/美工	池田3遺跡出土遺物	中川郡池田町字近牛20近牛郷土資料館	H8.5.10	縄文時代早期、続縄文時代前期、擦文時代後期のものである。
十勝	豊頃町	有形文化財/美工	二宮尊親の書「修学習業」	中川郡豊頃町二宮2460番地	H6.7.29	本書は明治44年に書かれたものであり、二宮尊親が二宮から離れた後の作品で教育の指針として受けとめることができる。
十勝	豊頃町	有形文化財/美工	二宮尊親の紋付羽織	中川郡豊頃町二宮966番地	H8.6.24	二宮神社の祭神である二宮尊徳命(遺品)の紋付きを二宮神社の造営を記念し、大正12年10月、福島県相馬郡中村町大槻吉直氏より奉納されたもの。140年前のものである。
十勝	豊頃町	有形文化財/美工	二宮尊親の直筆「道歌」	中川郡豊頃町二宮966番地	H8.6.24	大正9年、報徳二宮神社造営の際、二宮尊徳氏から贈られる。尊徳直筆の書は小田原の報徳記念館を除いては数が少なく貴重なものである。
十勝	豊頃町	有形文化財/美工	二宮尊親の書「遂終」	中川郡豊頃町茂岩本町166番地	H15.11.27	明治40年頃、二宮尊親が二宮地区の開拓をなし終え、当地を離れるときに書かれたものであり、開拓に成功した尊親の感慨を窺い知ることができる貴重な資料。
十勝	豊頃町	無形民俗文化財	二宮獅子舞神楽	中川郡豊頃町二宮	S54.9.21	大正8年、報徳二宮神社の新築の際に御神体の御分霊を日光今市より鎮座するときに、押釜出身の牛来巳之吉等により奉納されたのが始まり。その後、毎年9月20日の祭りに奉納され、昭和38年からは保存会が結成され現在に受け継がれている。
十勝	豊頃町	史跡	礼文内第2チャシコツ	中川郡豊頃町礼文内628・629	S54.9.21	JR根室本線を眼下に臨む河岸段丘上に位置し、塚は二重で、内塚の中央付近には幅1.2m、長さ2mの通路があり、内塚は半円形、外塚は角を持った馬蹄形状を呈している。
十勝	豊頃町	史跡	旅来Aチャシコツ	中川郡豊頃町旅来273番地	S54.9.21	道道旅来豊頃停車場上及び十勝川の長流を見下ろす高台にあり、チャシは二重塚、築造巧緻であり、アイヌ民族の伝説がある。
十勝	豊頃町	史跡	旅来Bチャシコツ	中川郡豊頃町旅来272番地	S54.9.21	旅来Aチャシコツと一体として文化財に指定された。
十勝	豊頃町	天然記念物	はるにれ	中川郡豊頃町二宮780-2	S61.2.21	樹齢200年のこのはるにれは、二宮尊親が入植した歴史的な土地柄であるこの地域の風景と溶け込んでおり、開拓の歴史を刻む象徴とされている。
十勝	豊頃町	天然記念物	はるにれ	中川郡豊頃町幌岡南9号地先	S61.2.21	十勝川左岸河川敷に位置し、2本の木が一体化したもので扇形の枝ぶりが見事であり、周囲の環境と調和してすばらしい景観をつくっている。
十勝	豊頃町	天然記念物	湧洞湖畔野生植物群落	中川郡豊頃町湧洞	H7.11.28	道内の太平洋岸ではめずらしいガンコウランなどの高山植物やハマナスなどの海岸草原植物が混在している。周辺は鳥獣保護区でも多く多くの野鳥や水鳥も生息している。
十勝	本別町	天然記念物	立木・かしわ(7本)勇足神社のかしわ林	中川郡本別町勇足元町151番地	S55.2.18	本別町初期開拓地である利別農場(明治30年開設)の代表的な自然林の一部と認められ、樹齢500年を経てなおその姿を現在にとどめており、歴史上の記念物として指定し保存している。現在は、台風により倒木し7本が現存している。
十勝	本別町	天然記念物	立木・かしわ(1本)上押帯神社立木かしわ	中川郡本別町押帯423番地8	S59.7.2	大正6年上押帯地域に入植、大正9年に神社をたてる。その当時、一帯がかしわ林となっており、形の良いかしわ2本だけを境内に「めおと」として残した。昭和56年の台風で一本が倒木し現在に至る。樹齢330年以上を経ており、歴史上の記念物として指定している。
十勝	本別町	天然記念物	ヒカリゴケ	中川郡本別町東町53-3	H2.11.28	本別町における「ヒカリゴケ」は、戦時中に軍用物資をかくまうために作られたと言われる洞窟に、わずかで発生が確認された。「ヒカリゴケ」は、亜高山帯に多く低地に生えることが珍しいとされることから、町の天然記念物に指定し保護している。
十勝	本別町	天然記念物	義経の里本別公園内のマメジミ個体群と生息地	中川郡本別町東町	H19.5.23	昭和43年、当時小学校1年生だった新津和也さんが発見する。シベリアではマンモスの化石とともに発見されることで有名で、氷河期の遺存種(レリック)と言われる「生きた化石」として学術上貴重な存在である。また自然バランスがとれた場所に生息し、人が生きていく環境を考える上での示唆を与えてくれるものであり、後世に伝えながら守り続けることが必要なものとして指定している。
十勝	足寄町	天然記念物	足寄石灰華半ドーム	足寄郡足寄町上蝶湾394番地	H4.8.26	鉱泉に伴う石灰華沈殿物が半ドーム構造を形成するもので、景観に誇れるとともに、世界的に見ても稀な炭酸カルシウム鉱物の生成が確認されるなど、学術上価値が高い。
十勝	陸別町	有形文化財/美工	網走本線開通記念成功記念碑	足寄郡陸別町字利別川上原野基線東3-2	S54.8.8	網走本線(旧ふるさと銀河線)開通の際に建てられた記念碑。
十勝	陸別町	有形文化財/美工	関寛翁碑	足寄郡陸別町字トマム2-2	S54.8.8	陸別町開拓の祖、関寛翁の顕彰碑。
十勝	陸別町	有形文化財/美工	斗満遺跡出土の石器	足寄郡陸別町共栄第2陸別町公民館	S58.2.28	斗満遺跡より出土の石器で旧石器時代のもと思われる。
十勝	陸別町	有形文化財/美工	奥羽出張病院日記	足寄郡陸別町大通・関寛齋資料館	S58.2.28	陸別町開拓の祖、関寛翁が戊辰の役に軍医として参戦し、野戦病院を開設した時の記録である。
十勝	陸別町	有形文化財/美工	関寛翁自筆漢詩	足寄郡陸別町大通・関寛齋資料館	S58.2.28	関寛翁が北海道開拓を遂行するにあたってその心境を友人に贈った記念品の原稿である。
十勝	陸別町	有形文化財/美工	関寛翁自筆短冊	足寄郡陸別町大通・関寛齋資料館	S58.2.28	関寛翁が開拓の時の苦難を短歌に託し、その短冊を遺族に保管されていたもの。
十勝	陸別町	有形文化財/美工	長崎在学日記	足寄郡陸別町大通・関寛齋資料館	H4.7.29	関寛翁が30歳の時、佐藤尚中一行と佐倉順天堂から長崎に留学したときの自筆日記。万延元年12月～文久2年1月までの記述である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
十勝	陸別町	有形文化財/美工	家日誌抄	足寄郡陸別町大通・関寛齋資料館	H4.7.29	第1巻から第3巻から成り、関寛齋の生い立ちから幕末の上野戦争の治療記載第1巻、第2巻が39歳～奥羽出張病院の模様、第3巻が明治元年から明治4年までの記述となる。
十勝	陸別町	史跡	トラリチャシコツ群	第1チャシ足寄郡陸別町字上登良利7番地24 第2、3チャシ足寄郡字上利別原野東1線208番地 第4チャシ足寄郡字トラリ7番地34	S54.8.8	陸別村史(昭和13年)にはトラリ地域における古戦場の記述があり、利別川添4km以内の所に点在している。
十勝	浦幌町	無形民俗文化財	浦幌開拓獅子舞	十勝郡浦幌町字万年	S40.3.25	越中獅子舞の流れを組む。明治35年、土田農場に入植した人々により奉納されたのを初めとする。
釧路	釧路市	有形文化財/美工	佐野家文書	釧路市錦町2-4 釧路市教育委員会生涯学習課	S50.12.12	幕府からクスリ(釧路)場所の漁業経営を請け負った米屋佐野家に伝わる江戸時代末期から明治初期にかけての証文・荷送り状・書簡など103点の文書である。
釧路	釧路市	有形文化財/美工	市河文書		S51.12.9	信濃の地頭職であった市河家が、北海道へ移住したときに携行した文書のうちの1点である。
釧路	釧路市	有形文化財/美工	鳥取村本籍簿	釧路市幸町10-3 釧路地方方法務局	S50.12.12	明治17～18年に鳥取県から当時の阿寒川流域に移住し、鳥取村を形成した公称105戸と附籍者などの土族移住者の戸籍簿である。
釧路	釧路市	有形文化財/美工	永久保秀二郎日誌	釧路市常舞町4-6 市立釧路図書館	S50.12.12	春採尋常小学校の教員であった永久保秀二郎が33年間に及んで毎日欠かさず書き綴った日誌で、当時の春採コタンの様子を知ることのできる唯一の資料である。
釧路	釧路市	有形文化財/美工	釧路新聞	釧路市錦町2-4 釧路市教育委員会生涯学習課	S50.12.12	北海道新聞の前身となる「釧路新聞(第2次)」で明治35年から昭和17年までのものがまとまっており、当時の釧路の市民生活の現状がわかる歴史資料である。
釧路	釧路市	有形文化財/美工	星兜(残欠)	釧路市春舞台1-7 釧路市立博物館	S50.12.12	平安時代末期の星兜の正面と側面の2つの破片で、これと同じ型式のものは国内で破片も含めて10数例しか確認されていない貴重なものである。
釧路	釧路市	無形文化財	紀ノ丘神楽	釧路市阿寒町舌辛234番地	S61.10.5	明治42年福島県相馬市八幡から移住した佐藤玄之介氏が伝承したもの。一時後継者もなく灯は消えたが、昭和50年5月に「紀ノ丘神楽保存会」が結成され、昭和51年には本家の相馬市磯部より手ほどきを受けた。寄木稲荷神社のおて神楽をそのまま伝承したもので、「通り」「幣束舞い」「鈴舞い」「乱舞い」「太刀飲み」の5部構成となっている。
釧路	釧路市	史跡	三津浦古谷遺跡	釧路市三津浦10	S50.12.12	縄文時代中期、続縄文・擦文時代の集落跡で、径15mを越す八角形の大きな竪穴住居跡が1軒あり、その存在が注目されている。
釧路	釧路市	天然記念物	キタサンショウウオ	主な生息地釧路湿原	S50.12.12	釧路湿原と北方領土の国後島に生息している夜行性の両生類で、氷河期の遺存種として価値の高い動物である。
釧路	釧路市	天然記念物	砂岩脈(サンド・ストーン・ダイク)	釧路市興津3地先	S50.12.12	古第三紀層に堆積中の地層に亀裂が生じて上から砂が入って固まったもので、幅約4m、陸地と海底(坑内)に延びている長さは数km、高低差は約300m(陸上で約10m)あり、その規模は日本一である。
釧路	釧路市	天然記念物	谷地坊主(ヤチボウス)	釧路市鶴丘112 釧路市丹頂鶴自然公園	S50.12.12	カブスゲなどのスゲ類が湿地に繁茂して株をつくったものである。(7000㎡を指定)
釧路	厚岸町	有形文化財/建造物	仏牙舍利塔	厚岸町湾月1丁目5(国泰寺境内)	S35.10.1	天保13年、6代住職香国が、アッケシ、クスリなど6場所有志の寄進を募り建立したもので、塔内には唐招提寺等から伝えられた仏舍利が納められている。
釧路	厚岸町	有形文化財/美工	鹿島稲荷神社祭神御堂	厚岸町若竹3丁目83(鹿島稲荷神社内)	S53.11.27	床下に「文化二年江戸神田紺屋町貳丁目宮大工七右衛門」の墨書があり、製作者と年代が判明するものとして貴重であり、国泰寺との関連も推測される。
釧路	厚岸町	有形文化財/美工	国泰寺什器書画古文書	厚岸町湾月1丁目4(国泰寺・郷土館)	S35.10.1	国泰寺に代々伝わる多数の什器、仏画、経典等の総称。
釧路	厚岸町	有形文化財/美工	太田屯田兵遺品	厚岸町太田5の通り23-1(太田屯田開拓記念館内)	S35.10.1	明治23年、太田屯田兵に支給された官給品や生活道具類等の資料。
釧路	厚岸町	有形文化財/美工	池田家古文書	厚岸町湾月1丁目2(郷土館内)	S42.10.1	アッケシ場所の支配人池田儀右衛門が残した日記や辞令・絵図等の資料。
釧路	厚岸町	有形文化財/美工	蝦夷錦	厚岸町松葉4丁目111	H17.1.27	蝦夷錦(青地龍文(顔部分)、赤地龍文(顔部分)、赤地龍文(胴体部分)、赤地牡丹文)4点。北海道に現存するものとしては、唯一道東に残存した資料である。
釧路	厚岸町	有形文化財/美工	太田西野家行囊帳	厚岸町太田1の通り6-2	S42.10.1	西野要三郎が昭和15年に皇紀2600年を記念して、屯田兵として太田に入植した当時に絵日記風に綴った回想録。
釧路	厚岸町	有形文化財/美工	厚岸湖牡蠣島弁天神社弁財天座像	厚岸湖牡蠣島16号島(厚岸湖牡蠣島弁天神社内)	S53.11.27	弁財天座像は、アッケシ場所請負人山田文右衛門が奉納したと伝えられ、木彫りに極彩色を施した福德円満な顔と優美な姿は傑出した美術品といえる。
釧路	厚岸町	無形文化財	厚岸かぐら	厚岸町門静1丁目121	S53.11.27	厚岸のニシン場に出稼ぎに来ていた南部の漁師により持ち込まれた神楽とアイヌ舞踊が融合し現在に受け継がれたものと言われている。
釧路	厚岸町	史跡	お供山チャシ跡群	厚岸町御供51ほか	S35.10.1	お供山は厚岸湖を見下ろす標高60～70mの台地で湖に面して3基、湾に面して1基計4基のチャシ跡を群有する。中には竪穴や貝塚を伴うものもあり、相関関係が注目されている。
釧路	厚岸町	史跡	チカラコタン竪穴群	厚岸町奔渡7丁目123ほか	S53.11.27	厚岸湖に北面した支丘の稜線に沿って64軒の竪穴住居跡が4群に分かれて分布している。
釧路	厚岸町	史跡	ホロニタイ竪穴群	厚岸町別寒辺牛12	S53.11.27	本遺跡は、神岩・金田崎両遺跡のほぼ中央に位置するが、周辺には遺跡が確認されておらず、「神岩チャシ跡及び竪穴群」との関連において重要である。
釧路	厚岸町	史跡	筑紫恋入口竪穴群	厚岸町筑紫恋129-1ほか	S53.11.27	筑紫恋海岸から400m離れた丘陵上に42軒の竪穴住居跡が3群に分かれて分布している。海岸地域の竪穴住居跡としては町内最大である。
釧路	厚岸町	史跡	筑紫恋チャシ跡	厚岸町澤潭350	S53.11.27	海に面したチャシとして原形を留める唯一のもので、貝塚、竪穴がチャシの中にあり、チャシとの関連を示す好例である。
釧路	厚岸町	天然記念物	色古丹松	厚岸町湾月1丁目5(国泰寺境内)	S35.10.1	寛政10年、近藤重蔵が択捉島探検の帰途アッケシに立ち寄り、色古丹島から持ち帰ったグイ松を創建以前の国泰寺境内の地を選び移植したものと伝えられる樹齢200年以上(推定)の老木である。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
釧路	厚岸町	天然記念物	老桜樹	厚岸町湾月1丁目5(国泰寺境内)	S35.10.1	天保元年、アッケン場所請負人山田文右衛門が国泰寺の本堂と庫裡を修復するに際し奥州石巻から移植したと伝えられる樹齡170年(推定)を超える老木である。
釧路	厚岸町	天然記念物	逆水松	厚岸町御供45	S35.10.1	アイヌの人々の戦いで、老婆が毒矢を浴び息絶える時、「この地は何があっても敵に渡すな」と、持っていた杖を大地に突き刺したものがいつか根づいたとも伝えられるイデである。
釧路	厚岸町	天然記念物	太田屯田の赤松	厚岸町太田1の通り～5の通り	S42.10.1	太田屯田兵第四大隊第三中隊岩淵繁隆大尉が、隊員を慰め励ますために、出身地の青森県から種を取り寄せ苗木にして植えさせたものであり、樹齡100年を超える開拓記念物である。
釧路	厚岸町	天然記念物	太田屯田の桑並木	厚岸町太田5の通り4-1	S42.10.1	太田屯田兵は開拓と同時に本州並みの農業経営を図ろうと養蚕を始めたが、冷涼な気候のためあえなく失敗となったが、先人の労苦と開拓魂を伝える記念物である。
釧路	標茶町	有形文化財/建造物	北海道集治監釧路分監本館	標茶町塘路56番地	S41.5.30	明治18年釧路集治監が設置され、翌19年(推定)同監本部署事務所として建築された。当建物は当時を語る唯一の建物であり、北海道開拓創業期の姿を後世に伝えるため重要である。
釧路	標茶町	有形文化財/建造物	旧塘路駅通	標茶町塘路56番地	S49.3.15	明治18年塘路湖の漁業のため番屋として建築。明治23年6月駅通となり交通継立所、旅人の宿場として本町開発のため重大な役割を果たした。
釧路	標茶町	有形文化財/美術	標茶町二つ山遺跡第1地点出土品273点	標茶町塘路56番地	S4.3.30	縄文時代の石刃燧石文化期の遺物にあたり、多様に亘っている遺物は数多く、当時の生活を知る上で重要な資料となっている。
釧路	標茶町	天然記念物	エソカオジロトンボ		S49.3.15	東シベリア、中国に生息しているが、日本では釧路湿原の標茶町五十石付近からのみ発見されている。
釧路	標茶町	天然記念物	ゴトウアカメイトンボ		S54.10.25	昭和49年北見地方で初めて生息が確認され、同年標茶町五十石付近でも確認された。釧路湿原では標茶町のみが生息。
釧路	標茶町	天然記念物	キタサンショウウオ		H4.3.30	氷河期の遺存種で、日本では釧路湿原のみに生息。
釧路	標茶町	天然記念物	サルン沼一帯のエソカオジロトンボ等生息地	標茶町宇塘路19番地地先	H8.12.2	国内には、道東のみに局限分布し、絶滅の恐れのあるエソカオジロトンボをはじめとするトンボ類の釧路湿原内における主要な生息地となっている。
釧路	標茶町	天然記念物	ベニバナヤマシヤクヤク		H17.6.1	ベニバナヤマシヤクヤクは、九州から北海道まで広く分布するが、その個体は各地で著しく減少しており、近い将来における野生の絶滅の危険性が高い、あるいは絶滅の危機に瀕する種とされている。
釧路	弟子屈町	無形民俗文化財	仁多獅子舞	弟子屈町字仁多	S46.7.31	鑑別獅子舞(雄獅子)同様、富山県より仁多沿岸に土地した人々によって故郷の祭事をしんので仁多獅子舞(雄獅子)ができた。
釧路	弟子屈町	無形民俗文化財	鑑別獅子舞	弟子屈町鑑別	S46.7.31	明治32年富山県より本町の・別に土地した人々によって弟子屈神社が出来たときに五穀豊穡祈願して獅子舞ができた。
釧路	弟子屈町	天然記念物	屈斜路湖マリゴケ	弟子屈町字屈斜路	S44.7.11	ホソナガゴケ、シミズヒヤクゴケ、マルバチヨウチンゴケを主体に1～10cmほどの茶褐色をした球状のものである。
根室	根室市	有形文化財/美術	旧根室牧場大金庫	根室市花咲港209(根室市歴史と自然の資料館)	S44.1.9	明治27年に始まった山根根室牧場に明治30年頃からあったもので、この金庫に入れてあった越年資金が、今日の銀行のような役割を担っていた歴史ある金庫。
根室	根室市	有形文化財/美術	恵比須像	根室市花咲港209(根室市歴史と自然の資料館)	S51.6.25	旧松山藩福山城の守護神として祀られていたもの。座り像ながら高さは2m余り。
根室	根室市	有形文化財/美術	俄羅斯船之圖及びワシレイラフウ之圖	根室市花咲港209(根室市歴史と自然の資料館)	H5.6.29	「俄羅斯船之圖」は、1792年にロシアの第1回遣日使節アダム・ラクスマン一行が、オホーツクから根室に乗ってきた二本マストの帆船「エカテリーナ」号の絵図。「ワシレイラフウ之圖」は、前述「エカテリーナ号」の船長であるフーシー・フョードロヴィチ・ロフツォーフの肖像画。
根室	根室市	有形文化財/美術	穂香堅穴群出土の動物意匠付土器	根室市花咲港209(根室市歴史と自然の資料館)	H15.3.7	縄文時代後期のものと推定され、動物意匠付土器としては道東地域では最も古いもので、動物意匠付きの突起が4カ所あり、それぞれがくり分けられているところに特長がある。
根室	根室市	有形民俗文化財	アイヌ生活用具	根室市花咲港209(根室市歴史と自然の資料館)	H19.4.11	木綿衣(チカルカルバ)1点、樹皮衣(アツクシ)3点、前掛け(マンタリ)1点。明治20年代に市内の商家がホロモンリアイヌに依頼して作製されたもの。
根室	根室市	無形民俗文化財	瑤瑤獅子神楽	根室市瑤瑤2-86	S44.1.9	富山県黒部市から移住してきた3人を指導者として、瑤瑤1区の青年たちが習い始めたもの。今日まで瑤瑤の住民に伝承され、郷土芸能として保存を図り、瑤瑤神社例大祭や市の文化祭などで披露されている。
根室	根室市	史跡	寛政の蜂起和人殉難墓碑	根室市納沙布岬	S42.7.25	1912年(明治45年)5月瑤瑤で波打ち際の砂に埋まっているのを発見。この墓碑が現在に伝えているのは一般に1789(寛政元年)年に起きた「寛政アイヌの蜂起」、「クナシリ・メナシの戦い」などと呼ばれている出来事。
根室	根室市	史跡	和田屯田兵碑	根室市東和町954-2	S50.7.29	北方防備と根室開拓の任を受け、明治19年から22年までに和田正苗を隊長として440名移住入地、屯田兵歩兵第二大隊と称した。この碑は、隊の業績を後世に伝えるために明治25年6月建設されたものである。
根室	根室市	天然記念物	ミズナラの風衝林	根室市豊里及び牧ノ内	H11.2.25	カンワモドキ(別名・ホサバガシワ)と呼ばれるブナ科ナラ属の落葉広葉樹であり、北海道から本州に至るまで広く生育し分布している。根室海峡を渡って吹き付ける強い風、水雪片、潮しぶきなどにより成長の過程で腰が曲がりくねり変形した独特の形となっている。
根室	別海町	有形文化財/建造物	奥行臼駅	別海町奥行16番地27～30	H3.4.1	根室原野の開拓と産業の振興を促進するために敷設された標準線の中で、別海駅と並び一番古い歴史を誇り、昭和8年12月1日に営業を開始した。以後、平成元年4月29日の廃止までの56年間、本町の南の玄関口として産業・経済・文化の発展に重要な役割を果たした。
根室	別海町	有形文化財/建造物	旧別海村営軌道風連線奥行臼停留所	別海町奥行15番地22	H9.5.19	この軌道は、昭和38年12月17日奥行臼駅から上風連小学校まで開通、さらに昭和39年には役場上風連出張所まで延長され、昭和46年3月まで運行された。
根室	別海町	有形文化財/美術	加賀家文書	別海町別海宮舞町29番地(加賀家文書館)	H11.4.8	寛政年間から明治初期にかけて、4代にわたり根室地方の場所請負人のもとで、通辞(アイヌ語通訳)として働いた秋田県八森町加賀一族の残した古文書。当時のアイヌと人との関係やこの地方の出来事、風俗等が克明に記録されており、別海町のみならず北海道の近世史の空白を埋める貴重な資料である。
根室	別海町	天然記念物	西別開基の松	別海町別海常盤町280番地	S56.12.11	昭和9年に役場庁舎が現在の別海から別海市街に移転し、新庁舎の完成記念として伊藤義直氏が寄贈されたもので、数少ない赤松の老木として大変珍重されている。

市町村指定文化財一覧

H24.4.1 現在

管内	市町村	種別	名称	所在地	指定日	摘要
根室	別海町	天然記念物	野付の千島桜	別海町尾岱沼潮見町220番地	S56.12.11	明治39年頃野付半島のキラク街から小舟で3本運搬されてきたもののうちの1本で、現在野付小学校前に移されたもの。
根室	別海町	天然記念物	試作場の桜	別海町中春別278番地2	S56.12.11	明治43年に根室地方農事試作場開設記念に植林されたので、開花期には毎年見事な花を咲かせ、通りがかりの人達の間を彩っている。
根室	別海町	天然記念物	オクユキウスの大樫	別海町奥行16番地5	S56.12.11	オクユキウスの大樫は、山崎家開祖以来大切に保護され、推定樹齢500年の老木として珍重されている。
根室	別海町	天然記念物	風連の樺林、開墾記念のスモモ	別海町上風連280番地	S56.12.11	大正7年頃に八雲方面より持参し植林したもの。毎年見事な花を咲かせていて町内一のスモモの木と言われている。
根室	別海町	天然記念物	嶺山の松	別海町尾岱沼潮見町32地1	H6.2.18	嶺山吉太郎氏がホタテ漁の際色丹島より3本持ち帰り、2本は野付神社に寄付し残り1本を自宅の庭に植えたものである。
根室	別海町	天然記念物	本別海一本松	別海町本別海3番地23先	H6.2.18	明治7年、東北各地から漁夫数百数十人を雇用し、西別を漁場として漁業を営んでいた柳田の番屋の祠に植生していたもので、現存する唯一の1本であり、別海町発祥の地である本別海の歴史を物語る貴重な遺産である。
根室	別海町	天然記念物	役場支所の柏	別海町西春別駅前栄町28番地	H6.2.18	別海市街に次ぐ第2の市街地まで発展した西春別駅前において、開発とともに大木が数多く失われ、市街地に現存する貴重な大木を恒久的に保存する。
根室	別海町	天然記念物	広野開拓及び木炭材の供給のために失われた数々の大木の中、広野会館のカシワは、地域住民のシンボルとして残されたもの。気とは、人間の6つの感情「好・悪・喜・怒・哀・楽」を示したものであり広野地区の人達の様々な感情が示されている。	別海町中西別54番地45	H9.5.19	
根室	別海町	天然記念物	上西春別小学校の柏	別海町西春別駅前西町2番地	H11.4.8	多くの大木が失われた中で、地域住民のシンボルとして小学校のグラウンドの横にあることから思い出の木でもある。
根室	別海町	天然記念物	野付半島沖マンモスソウ化石群	別海町別海宮舞29番地(別海町郷土資料館)	H18.4.27	野付半島沖では3標本3個体のマンモスソウ化石が発見されている。国内最大規模の発見地で、別海町のみならず北海道の古環境を判断する上で貴重な資料である。
根室	中標津町	有形文化財/美工	蛙意匠の土器	中標津町丸山2丁目15	H9.12.22	縄文時代初期の土器。この時期に両生類の意匠のあるものは道内でも数例しか出土しておらず、学術上貴重である。
根室	標津町	有形文化財/美工	会津藩士の墓	標津町字茶志骨862	S60.4.1	標津が会津藩領となった幕末期文久年間の藩士家族の墓2基。
根室	標津町	有形文化財/美工	旧国泰寺香炉	標津町南6条西1丁目1番	S60.4.1	弘化三年(1846)厚岸会所の支配人、通辞、帳役から厚岸国泰寺に納められたもの。
根室	標津町	有形文化財/美工	釈迦涅槃図・千葉萬江図	標津町南6条西1丁目1番	S60.4.1	明治20年、旧会津藩士野出焦雨の作。
根室	標津町	有形文化財/美工	天保の石燈籠	標津町北1条西1丁目1番	S60.4.1	天保13年(1842)に吉田喜右衛門、館村順兵衛から奉納されたもの。
根室	標津町	有形文化財/美工	御陣屋造営日記	標津町字伊茶仁2784	S60.4.1	標津が会津藩領地となり、ホニコイに元陣屋を築いた際、普請方鈴木平八が記したものの。
根室	標津町	有形文化財/美工	松鶴図絵馬	標津町字忠類66番1	S60.4.1	弘化4年(1847)に忠類神社に奉納されたもの。
根室	標津町	有形文化財/美工	文政の躰口	標津町字薫別番外1号	S60.4.1	文政10年(1827)鯉右衛門、三五郎、善也から薫別神社に奉納されたもの。
根室	標津町	有形文化財/美工	龍雲寺の馬頭観世音菩薩	標津町南6条西1丁目1番(龍雲寺境内)	H14.8.26	昭和7年製作の石造物。
根室	標津町	史跡	標津駅転車台	標津町北1条西2丁目標津町北2条西2丁目	H14.8.26	標津線の始発駅としての印であり、原野開拓に活躍した標津線を物語るものである。
根室	標津町	史跡	川北海軍航空基地(掩体壕)跡	標津町字川北2429番地1	H14.8.26	第二次世界大戦を物語る遺跡として、掩体壕4基が集中する地区を指定。
根室	標津町	天然記念物	薫別説教所の山桜	標津町字薫別	S47.5.16	明治25年日蓮宗の僧侶日暮玄静が私塾を開いた(薫別小学校の始め)当時この桜が植えられたと伝えられている。
根室	標津町	天然記念物	川北神社の赤松	標津町字川北93番地18	S47.5.16	大正8年乙基線西4号入口の岡島兵助が郷里栃木県から苗木をとり寄せ屋敷林として植えたもの。昭和58年川北神社に移植。
根室	標津町	天然記念物	忠類神社の山桜等	標津町字忠類	S47.5.16	大正4年頃秋田木材(株)が忠類神社境内に付近の山林から移植したもの。
根室	標津町	天然記念物	標津小学校のハルニレ	標津町北2条西1丁目13	S47.5.16	旧標津小学校児童入口にあったハルニレ。
根室	標津町	天然記念物	川北運動場の山桜等	標津町字川北基線12番	S47.5.16	大正9年阿部川北小学校長の指導で生徒・青年会が忠類笹谷牧場から移植したもの。
根室	標津町	天然記念物	川北特別教授場の山桜等	標津町字川北93番地3	S47.5.16	大正6年川北地区有志・青年同士が現川北小学校の環境美化のため学校周囲に移植したもの。平成2年に隣接地へ移植。
根室	標津町	天然記念物	戸長桜	標津町北2条西1丁目13	S47.5.16	初代戸長横宗が明治18年頃植えたと言われる。昭和55年現在地へ移植。
根室	標津町	天然記念物	旧藤野牧場のカラマツ	標津町字忠類12番地	H14.8.26	昭和10年代に植えられ、伊茶仁から忠類の間、約1.2kmに渡り並木が続いている。
根室	羅臼町	無形民俗文化財	知床いぶき樽	羅臼町栄町100番地83	H3.10.1	昭和46年に創作された郷土芸能で、樽と木槌を使って奏する。
根室	羅臼町	史跡	旧植別神社跡	羅臼町峯浜町	S48.5.1	文政5年、高田屋金兵衛により建立された羅臼最初の社跡。
根室	羅臼町	史跡	久右衛門の洞跡	羅臼町船見町	S48.5.1	明治9年、羅臼に最初に定住した和人佐藤久右衛門の用いた洞跡。